

学生の確保の見通し等を記載した書類

(東京農業大学 生命科学部)

■ 目 次 ■

| | |
|---|----|
| ア 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況 | 1 |
| 1. 学生確保の見通し | 1 |
| (1) 入学定員設定の考え方 | 1 |
| (2) 定員充足の見込みと根拠 | 2 |
| 1) 本学及び他大学等の入試動向 | 2 |
| 2) 新設学科に対する入学意向調査 | 3 |
| (3) 学生納付金設定の考え方 | 5 |
| 2. 学生確保に向けた具体的な取組状況 | 5 |
| (1) 学生確保に向けた具体的な取組状況（予定含む） | 5 |
| (2) 学生確保についての具体的な取組状況及びその効果、反応等 | 6 |
| | |
| イ 人材需要の動向等社会の要請 | 7 |
| 1. 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要） | 7 |
| 2. 上記が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 | 9 |
| (1) 人材需要の動向 | 9 |
| (2) 卒業生に対する採用意向調査 | 10 |

ア 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

1. 学生確保の見通し

(1) 入学定員設定の考え方

本学部は、農学分野から関連する学問分野を取り込むことで、生物の仕組みをミクロからマクロまで統合的に捉え、生物機能の利用につなげることを目指し、必要な人材を養成し、人類が直面する課題の解決に貢献することを目的とする。

人材養成における本学部の特色は以下のとおりである。

- ・ 東京農業大学の建学の精神、教育理念に沿った教育、研究、学生生活指導を行い、倫理観をもった高度な職業人の育成を行う。
- ・ 各学科のカリキュラムは建学の精神、教育理念を学ぶフレッシュマンセミナーから始まり、基礎専門科目を学修する。また、知識のみならず自ら思考する習慣と経験を結びつけ、それらをより確実に身につけるために学生実験が1、2年次より導入される。
- ・ 年次移行により専門コア科目を学修し、専門分野において、分子機能解明、分子創製、分子レベルでの細胞、個体機能といった生命基盤をふまえた個体レベルへの応用につなげる教育、研究を行う。
- ・ 各学科における基礎、専門分野の学修に加え、学部共通科目として生命科学概論を配当し、3学科の教員が各学科において講義を行い、生命科学の最先端を俯瞰し、幅広い視野のもとに、社会において貢献できる人材養成を行う。
- ・ 3年次よりすべての学生が研究室に所属し、研究室単位の少人数を対象として、教員が目の行き届く指導を行うとともに、研究室における学生生活を通じ、社会性やコミュニケーション能力を身につける場とする。
- ・ 専門分野の学修は分子、細胞などのミクロレベルの物質を対象とするが、東京農業大学のもつ大規模農場を体験することで、社会とのつながりについて考えさせる場も設ける。
- ・ 初年次において大学教養英語を学修するとともに、専門コア科目の学修と平行して専門英語の学修を行い、国際的に活躍できる人材の養成につなげる。
- ・ 海外協定校留学、海外農場実習、海外インターンシップの制度により、現場主義での国際性を養う機会とする。
- ・ 学際領域において企業論を配当し、今日の社会的要請である起業家精神を学ぶとともに、研究成果の社会への還元をまなび、自らの学びの価値を考える機会とする。

以上のように、本学部では、学年進行に伴い必要とする知識、技術、技能を修得できるよう教育課程を体系化し、さらに、演習、実験、実習を多く取り入れ、様々な体験や経験を通じ、学生の主体的な学修を促す質の高い学士課程教育を編成している。

中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」には、予測困難な時代において高等教

育段階で培うことが求められる「学士力」の重要な要素が示されている。

本学では、研究室での教育研究活動や集団生活を「学士力」の重要な要素を育む源として位置付けている。本学における教育研究組織の最小ユニットは研究室であり、教員は学生への専門教育指導や課外活動のサポートの他、学生生活指導や就職支援も行っている。そのため、学生は研究室での集団生活を通じて、社会生活を送る上で重要な教養や専門知識のみならず、他者とのコミュニケーション能力等も身に付けることができる。

本学は、研究室を中心とした教育システムを有効に機能させ、掲げた「教育上の目的」を達成可能とする適正な入学定員等について、本学の資源を最大限に活用することを前提に、教員数や施設設備、学生納付金等の面から検討し次のとおり設定した。

1) バイオサイエンス学科

- ① 入学定員 140 人（収容定員 560 人）
- ② 教員数 19 人
- ③ 初年度学生納付金 1,535,600 円

（入学金、授業料、実験実習演習費、施設設備費及び学生厚生費の合計）

2) 分子生命化学科

- ① 入学定員 115 人（収容定員 460 人）
- ② 教員数 14 人
- ③ 初年度学生納付金 1,535,600 円

（入学金、授業料、実験実習演習費、施設設備費及び学生厚生費の合計）

3) 分子微生物学科

- ① 入学定員 115 人（収容定員 460 人）
- ② 教員数 15 人
- ③ 初年度学生納付金 1,535,600 円

（入学金、授業料、実験実習演習費、施設設備費及び学生厚生費の合計）

（2）定員充足の見込みと根拠

1) 本学及び他大学等の入試動向

内閣府が文部科学省の資料を基に作成した「18 歳人口と高等教育機関への進学率等の推移」[資料 1](#)によると、18 歳人口は、平成 21～32 年頃までほぼ横ばい（120 万人前後）で推移するが、平成 33 年頃から減少（114 万人）し、高等教育機関への進学率はここ数年頭打ちの傾向が示されている。

一方、日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」によると、平成 23 年度に 69,494 人であった農学系の志願者数は、平成 27 年度には 85,235 人となり、5 年間で 11,259 人増（約 22.7% 増）となった。[資料 2](#)

また、表-ア.1 に示すとおり、農学系を志望する受験生の多くは本学を志願先として認知しており、農学系の志願者数の増加は本学の学生確保の見通しを担保する大きな要因といえる。

表-ア.1 志願者数（平成23年度から平成27年度）の推移

| | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 |
|---------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 農学系(学部系統) (注) | 69,494 | 72,512 | 77,662 | 82,167 | 85,235 |
| 東京農業大学 | 31,881 | 31,834 | 33,076 | 34,153 | 31,231 |

(注) 出典：日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」

表-ア.2 は、日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」に基づき、平成23年～27年までの5ヶ年における大学のカテゴリー別に志願倍率を示したものである。これによると、本学と農学系の志願倍率は、他に比べいずれも高く、全国的な18歳人口の減少にかかわらず、本学は受験生から高い志願を維持している。

表-ア.2 カテゴリー別志願倍率（平成23年度から平成27年度）の推移

| カテゴリー | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 |
|------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 全大学 (注1) | 7.09 | 7.02 | 7.39 | 7.53 | 7.58 |
| 入学定員(1500-3000人)(注1,2) | 8.05 | 8.07 | 8.52 | 9.07 | 9.07 |
| 東京都(所在地) (注1) | 9.99 | 9.67 | 9.75 | 9.68 | 9.63 |
| 農学系(学部系統) (注1) | 9.93 | 10.42 | 11.16 | 11.81 | 11.34 |
| 東京農業大学 | 13.12 | 13.15 | 13.67 | 13.77 | 12.39 |

(注1) 出典：日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」

(注2) 本学の入学定員は2,800人（平成29年度予定）

志願倍率は次式による。 志願者数÷入学定員

また、本学における直近5年間の入学志願動向をみると、志願者数は30,000人強、志願倍率（志願者数÷入学定員）は12倍から13倍で推移しており、いずれも全国平均を大きく上回っている。資料3、資料4

以上、一般的な志願動向及び本学のこれまでの入試実績から、生命科学部の開設にあたり、充分に学生確保の見込みがあると判断した。

2) 新設学科に対する入学意向調査

新設する各学科に対する高校生の入学意向を把握するために、次の通りアンケート調査を行った。資料5

調査期間 : 平成27年9月から平成28年2月まで

① 調査対象高校および対象者

アンケート調査は、平成27年8月～平成28年2月に、以下に示す高校2年生を対象に実施した。

(A) 学科を新設する本学世田谷キャンパスの近隣に所在する高等学校、または、本学に

進学実績のある高等学校を中心に 1 都 1 道 16 県（北海道、青森県、宮城県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、三重県、熊本県）に所在する高等学校の在学者で、平成 29 年度大学進学対象となる高校 2 年生。

(B) 本学が開催、または参加するキャンパス見学会、進学相談会に参加した平成 29 年度大学進学対象となる高校 2 年生。

② 調査方法

アンケート調査は、(A) 学科を新設する本学世田谷キャンパスの近隣に所在する高等学校、または本学に進学実績のある高等学校に対して、新設する各学科の概要を示したリーフレットおよびアンケート用紙を送付し、アンケート用紙に記入する方法、(B) キャンパス見学会、進学相談会に参加した学生に対して、会場、教室等で直接アンケート用紙に記入する方法、により実施した。

③ アンケート調査の結果

この結果、上記の調査方法(A)と(B)を合わせて高校生 2 年生 61,693 人から回答があった。高校卒業後の進路について調査した結果、高校 2 年生 61,693 人のうち、49,007 人 (79.4%) が「4 年制大学進学」を希望している。短期大学、専門学校を合わせた場合の進学希望率は 55,818 人 (90.4%) となった。興味のある分野(第 1 位)についてみると、55,818 人のうち、2,810 人 (5%) が農学・獣医学関係、8,998 人 (16.1%) が理学・工学・生命科学関係であった。このことから、生命科学部の 3 学科がカバーする分野の対象となる高校生が十分にいることが分かる。さらに具体的に、生命科学部 3 学科についての入学希望調査の結果は次のとおりであった。

＜バイオサイエンス学科＞

「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 414 人となり、東京農業大学生命科学部バイオサイエンス学科の入学定員 140 人に対し、2.95 倍の入学意向を示している。また、「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校 2 年生は合計 1,756 人となり、東京農業大学生命科学部バイオサイエンス学科の入学定員 140 人に対し、12.54 倍の入学意向を示している。

＜分子生命化学科＞

「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 155 人となり、東京農業大学生命科学部分子生命化学科の入学定員 115 人に対し、1.34 倍の入学意向を示している。また、「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校 2 年生は合計 1,041 人となり、東京農業大学生命科学部分子生命化学科の入学定員 115 人に対し、9.05 倍の入学意向を示している。

＜分子微生物学科＞

「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 120 人となり、東京農業大学生命科学部分子微生物学科の入学定員 115 人に対し、1.04 倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校2年生は合計464人となり、東京農業大学生命科学部分子微生物学科の入学定員115人に対し、4.03倍の入学意向を示している。

以上の調査結果と、調査対象の高等学校以外からの高校生の進学も考えられることから、東京農業大学生命科学部バイオサイエンス学科、分子生命化学科、分子微生物学科の各学科の入学定員を満たす学生は十分に確保できるものと考える。

（3）学生納付金設定の考え方

本学部の教育上の目的を達成するため必要となる学生納付金について、本学の資源を最大限に利用することを前提に、設定した学生数と教員数及び必要となる施設設備等を基礎とし、初年度学生納付金（入学金、授業料、実験実習演習費、施設設備費及び学生厚生費の合計）を1,535,600円に設定した。

生命科学部に設置する各学科と類似する他大学の初年度学生納付金（平成27年度、出典：日本私立大学団体連合会）の比較を資料6に示す。

＜バイオサイエンス学科＞

ホームページ等を参照し、本学科と類似すると判断した他大学（6大学）のうち、本学科の初年度学生納付金を下回ったのは2大学のみであった。また、類似する6大学の平均は1,605,867円であり、本学科より約70,000円高い設定となっている。

＜分子生命化学科＞

ホームページ等を参照し、本学科と類似すると判断した他大学（6大学）のうち、本学科の初年度学生納付金を下回ったのは1大学のみであった。また、類似する6大学の平均は1,642,667円であり、本学科より約100,000円高い設定となっている。

＜分子微生物学科＞

ホームページ等を参照し、本学科と類似すると判断した他大学（6大学）は全て、本学科の初年度学生納付金を上回っている。また、類似する6大学の平均は1,623,967円であり、本学科より約90,000円高い設定となっている。

これらから、設定した学生納付金により、競合大学に対して学生確保の面における競争力が低下することはないと考える。

2. 学生確保に向けた具体的な取組状況

（1）学生確保に向けた具体的な取組状況（予定含む）

本学は、建学の精神「人物を畠に還す」と教育の理念「実学主義」に基づき、教育研究活動に取り組んでいる。これを踏まえ、本学や農学系分野の特色及び各学科の教育内容等について、高校教員、保護者、受験生、予備校関係者等の理解を得るために様々な媒体を利用して広報活動を実施している。新設学科における平成29年度の学生募集活動は既設学部が例年行う内容と同様に実施する予定である。また、農学系及び関連分野の相談会等にも積極的に参加予定である。

- ① 進学相談会（首都圏私立大学進学相談会 15 大学 資料 7、農学・獣医学・生物環境系進学ガイダンス、大学フェア等）（動員数約 1,631 名）
- ② 高校訪問（訪問高校数 831 校）
- ③ 出張講義（出張高校数 37 校）
- ④ 大学見学（来学高校数 39 校、参加者 821 名）
- ⑤ 大学案内（学科、研究室、キャリア、入試日程等を紹介）
- ⑥ 新聞等（朝日、読売、日経新聞、高校生新聞等） 資料 8
- ⑦ 看板広告（本厚木駅）
- ⑧ 受験雑誌等（萤雪時代、大学発見ナビ、マナビジョンブック（保護者版）等）
- ⑨ WEB 広報等（進学ネット、マナビジョン、パスナビ、マイナビ進学 U-17 等）、大学 HP

※ () 内数字は平成 27 年度実績

毎年開催している大学独自の各種イベント

- ① キャンパス見学ツアー（年 2 回開催） 資料 9 ……（世田谷 1,875 名、厚木 521 名、オホーツク 135 名）
- ② キャンパス見学会（各キャンパスごとに開催） 資料 10 ……（世田谷 9,123 名、厚木 2,686 名、オホーツク 480 名）
- ③ 収穫祭・進学相談会（各キャンパスごとに開催） 資料 11 ……（世田谷 979 名、厚木 243 名、オホーツク 115 名）
- ④ ユメナビ 資料 12 （219 名） ミライガク 資料 13 （150 名）

※ () 内数字は平成 27 年度参加者数

（2）学生確保についての具体的な取組状況及びその効果、反応等

各種広報活動の実施により、入学定員を確保している。

充実した学生生活のため、アドミッションポリシーの発信や学科の教育内容や特徴、ディプロマポリシー等を明確に説明することで、学生が希望に沿った学科を選択できるように取り組み、不本意入学をできるだけ防ぎ、卒業時に高い満足度が得られるよう配慮している。

このような取り組みが、以下の入学定員に対する志願者の倍率に示されるとおり、効果がでているものと考える。

表-ア.3 全学部の志願者の推移（入学定員・志願者数（全入試制度）・志願倍率）

| | 平成 23 年度 | 平成 24 年度 | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 | 平成 27 年度 |
|------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 入学定員 | 2,430 名 | 2,420 名 | 2,420 名 | 2,480 名 | 2,520 名 |
| 志願者数 | 31,881 名 | 31,834 名 | 33,076 名 | 34,153 名 | 31,233 名 |
| 志願倍率 | 13.12 倍 | 13.15 倍 | 13.67 倍 | 13.77 倍 | 12.39 倍 |

イ 人材需要の動向等社会の要請

1. 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

<バイオサイエンス学科>

(1) 養成する人材像

人類は、現在、食料、健康、資源、環境にそれぞれ重大な問題を抱えており、その解決は急務となっている。バイオサイエンスを中心とした科学技術の進歩はこれらの問題解決に大きく貢献できるものと考えられ、このためには、バイオサイエンスの発展、応用、また技術利用に携わる人材の養成が必要不可欠である。

本学科では、生命に関する地球規模での諸問題を理解し、バイオサイエンスを駆使して積極的に諸問題を解決し、社会貢献できる企業人、研究者、教育者としての幅広い人材の養成を行う。

(2) 教育研究上の目的

近年の地球規模での食料・健康・資源・環境に関わる諸問題の解決に必要不可欠な分子レベルでの生命現象を解明し、生物の基本構造と動的・高次構造の理解と応用とを目指した研究教育を行う。

本学科の教育分野は、動物、植物、細胞分子機能の3領域を柱とし、本学の教育の理念に基づく教育体系を実施する。生物と化学を教育基盤として、生体内または細胞内の生命現象を分子機能の観点から理解する生命科学を修得させ、農学や関連する産業に適応できる専門家を養成することを目的とする。

(3) 卒業後の進路

バイオサイエンス学科卒業後の具体的な進路は、資源、エネルギー関連、環境関連、製薬・医療関連、研究機器・分析関連、食品関連など多岐に渡る企業の営業職、技術職、研究職に加え、公務員、教員（高等学校・中学校）を想定している。また、3分の1の卒業生は、大学院へ進学することも想定している。

<分子生命化学科>

(1) 養成する人材像

現代の農学・生命科学領域に於いて伝統的科学分野である化学に基づいた展開可能な基礎力を駆使し様々な案件に対応可能な人材を養成する。

①現在の状況について

農学は19世紀に隆興し20世紀前半までは飢餓からの自由を目指した食糧の安定供給に関わる分野として成果を挙げてきた。現在でもこの役割は第一義である。20世紀後半より新世紀にかけ地球規模での状況はこれまでとは大きく変化した。即ち20世紀前半までは農学、工学、理学、薬学等理系各分野は独立した分野として相関なく独自の研究・教育対象を保有していたが、人間活動が地球規模広範になるに従い、多様化するに連れ個々の問題に対する単独分野内の限界が露見してきたのである。またPC（パソコンコンピューター）の発展に端的に表現されるように、人類史上例に見ない速度で

全て状況は変化を遂げている。この状況に対応するために古くから存在した理学、工学の複合領域に加え、薬学と工学等の学際領域も設定されてきた。即ちパターン化・パッケージ化された知識・技術では問題への対応が難しく、一時的には対応可でも直ぐに陳腐化してしまうのが現代の状況である。

②本学科の人材養成における目的と考え方

本学科の方針を、このような現状を打破するため、汎用性のある基礎力の養成に徹した教育を行い現代の状況に対応可能な人材を養成することと設定した。

農学は実学であるので人間の生活空間（日常空間）が主体となり、この物質界での最小単位は原子・分子である。この最小単位は 20 世紀初頭に伝統的科学の範疇で実在が証明されたばかりの単位であり、様々な伝統分野の基盤になっている。そして分子・原子の原理及びその存在からの演繹によって生物圏を含む物質界すべての現象を記述・解明または制御する立場は化学領域の立場でもある。即ち化学領域は全ての伝統的科学領域とその応用分野との連携が可能であり汎用性を持つといえよう。化学分野自体、数百年に亘り物理学、数学と共に伝統的科学を形成、発展させてきた分野であるので蓄積は膨大であり、伝統的科学領域の持つ特徴、定量性、再現性、論理の厳密性を備えた分野である。これ等、伝統的科学の特徴はそのまま基礎力といって良く普遍性を備えた人類の知的伝統である。

以上の理由により①に記した現状に対応可能な人材を農学・生命科学領域で育成するには化学を基礎とする教育が適正であると考えられる。

(2) 教育研究上の目的

高等教育の役割は必ずしも産業界の要請に呼応したものではないが、歴史的経緯により大学の化学系分野と農学・生命科学領域では相互に深い関係をもっている。肥料製造、生理活性物質等から理解されるように、現在の化学系産業はほぼその原点を大学の研究室にもっている。これら先達からの良い伝統を継承し、定量性と厳密性を備えた汎用性のある化学的基盤を涵養し、農学の視野を構築しうる能力を備えた人材の養成と化学分野の本質に沿った発展と問題解決を目的とする。

(3) 卒業後の進路

(1)②で述べた様に化学は基本的に特定の位相での思考法であり論理体系である。この枠組みが堅固であるなら農学・生命科学領域の化学分野であっても充分他の物質科学領域への適応が可能である。従って進路としては化学系企業一般であり、隣接分野では製薬、食品、環境関連企業の研究職、技術職等が考えられる。また教員、公務員の他、学科の性格上、大学院への進学は 3 割程度を見込んでいる。

<分子微生物学科>

(1) 養成する人材像

人間の経済活動や近年の異常気象に伴い、地球規模で様々な問題が生じている。その中には生物に関するものも含まれ、如何に生物をコントロールし、またはこれと共生していくかが課題である。本学科では微生物を基盤とし、微生物間および動植物との相互

作用における多様な生命現象を分子レベルで理解し、未知なる生命現象を統合的に解析するとともに既知の情報を有効に活用し、食料問題、環境保全、健康問題などに貢献できる人材を養成する。

(2) 教育研究上の目的

従来の微生物学の教育・研究に加え、分子レベルで微生物の生命現象や動植物への共生作用を幅広く学び研究対象とすることで、微生物の能力を適切に理解し、そのポテンシャルを最大限に引き出し応用につなげるための知識や手段および具体的な利用技術を会得し、高い問題意識により社会において積極的に実践・活用できる能力を習得させることを目的とする。

(3) 卒業後の進路

分子微生物学科卒業後の具体的な進路は、食料・発酵や医療・健康、資源、エネルギー、環境など多岐に亘る企業の営業職、技術職、研究職に加え、公務員、教員（高等学校・中学校）を想定している。また、昨今の本大学関連分野の進学状況および就職先の求職動向を踏まえ、3割程度の卒業生は大学院へ進学することも想定している。

2. 上記が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであるとの客観的な根拠

(1) 人材需要の動向

<バイオサイエンス学科>

日本の公的機関の分野別研究費はライフサイエンス分野が 2680 億円と分野別では 2005 年以降 1 位を維持している（我が国の産業技術に関する研究開発活動の動向-主要指標と調査データ-第 13 版、経済産業省、平成 25 年 8 月）。これは、日本の将来の技術革新に、ライフサイエンス分野の進歩が必要であることを物語っている。さらに、経済産業省は、バイオ産業の市場規模を、2030 年までに 2014 年の 6 倍にあたる約 20 兆円に育成する目標を打ち出した（日本経済新聞・電子版、平成 27 年 3 月 24 日）。それにもない、バイオ産業に従事する人の数も増加することが予想されることから、バイオサイエンスに関する専門的な知識と技術を有している人材がより一層求められる。

<分子生命化学科>

卒業生が有用人材とされる根拠については文部科学省、経済産業省による資料“理工系人材育成に関する産業構造審議会における議論及びこれまでに講じた施策について、平成27年5月22日”等に窺い知る事ができる。この報告書中、化学系業種の分析において大学研究室で学ぶ専門分野はほぼ産業界ニーズでありその中でも特に重要なのが基礎有機化学、高分子化学、機能性化学、分析化学とされている。これらは開講科目、研究室構成に反映されている。さらに絶滅が懸念される化学工学、高分子合成等もその一部を講義体系の中に取り組んでいる。上記と科学技術全般と応用分野においても化学は基幹の1つである事を受け手堅いニーズが予想される。

<分子微生物学科>

この 10 年間の中で、経済産業省では微生物関連は複数の検討会や分科会などが開かれている。微生物遺伝資源の整備及び利用促進に関する検討会では世界トップクラスの

微生物遺伝資源機関の維持・向上を目指した議論がなされ、伝統的に発酵食品などで利用されている微生物株の保護だけではなく、多くの目的に対応できる遺伝資源として微生物を位置づけている。さらに、微生物利用者からはコンソーシア（複合微生物系）で利用したいという強い要望が出されている。また、中央環境審議会水環境・土壤農薬合同部会バイオレメディエーション小委員会審査分科会ではその議事概要において「バイオ分野は裾野が広く、特定の微生物の研究者では気づいていない機能が重要となることもある。広く応用に結びつけられることが重要」とし、さらに、「海外の大手製薬企業が、1兆円を超える規模で、天然物の巨大なライブラリーを有する企業を買収した。以来、中分子化合物を使った創薬についても関心が集まっている」など微生物の利用が未だ尽くされていないとともに、潜在的な価値を利用することに対して期待が高まっている。一方、経済産業省では「遺伝子組換え微生物の産業利用を一層促進」するために表示を含めたルール改善を進めている。

このような経済産業省動向は関連産業団体の希望を考慮した流れであり、これに対し分子微生物学科は、生物資源工学、バイオインフォマティクス、複合微生物、動物共生微生物、植物共生微生物分野の研究室を配し、十分に対応できる環境である。そのため、本学科の教育や研究が昨今の日本で微生物に求められる知見や技術をカバーし、直接的に貢献できると考える。また、本学科で教育を受けた学生は社会に受け入れられる基盤を高く有することが可能と考える。

（2）卒業生に対する採用意向調査

本学生命科学部の設置構想に基づき、第三者機関である「一般財団法人 日本開発構想研究所」への委託による「東京農業大学学生命科学部（仮称）の卒業生に対する企業等の採用意向に関するアンケート調査」を平成27年9月～11月に実施した。（**資料14「東京農業大学学生命科学部（仮称）の卒業生に対する企業等の採用意向に関するアンケート調査」**を参照）

調査対象は、本学卒業生の採用実績のある企業、または卒業生の就職が見込まれる企業等4,000社の採用担当者にアンケート用紙及び東京農業大学学生命科学部（仮称）の概要を示したリーフレットを送付し、アンケートを実施した。回答については第三者機関へ企業等から直接郵送による回収とした。

＜バイオサイエンス学科＞

有効回答を与えた945社の内80%強が社会的必要性を感じ、70%弱が採用に関し肯定的であることが明らかになった。採用意向に肯定的な企業の予定採用数は入学定員140名の約5倍となり、卒業後の進路に関しては充分に確保されていると判断できる。

＜分子生命化学科＞

有効回答を与えた945社の内80%が社会的必要性を感じ、70%弱が採用に関し肯定的であることが明らかになった。採用意向に肯定的な企業の予定採用数は入学定員115名の5倍以上となり、卒業後の進路に関しては充分に確保されていると判断できる。

<分子微生物学科>

有効回答をえた945社の内80%強が社会的必要性を感じ、70%弱が採用に関し肯定的であることが明らかになった。採用意向に肯定的な企業の予定採用数は入学定員115名の約6倍となり、卒業後の進路に関しては充分に確保されていると判断できる。

学生の確保の見通し等を記載した書類

(東京農業大学 生命科学部)

資料目次

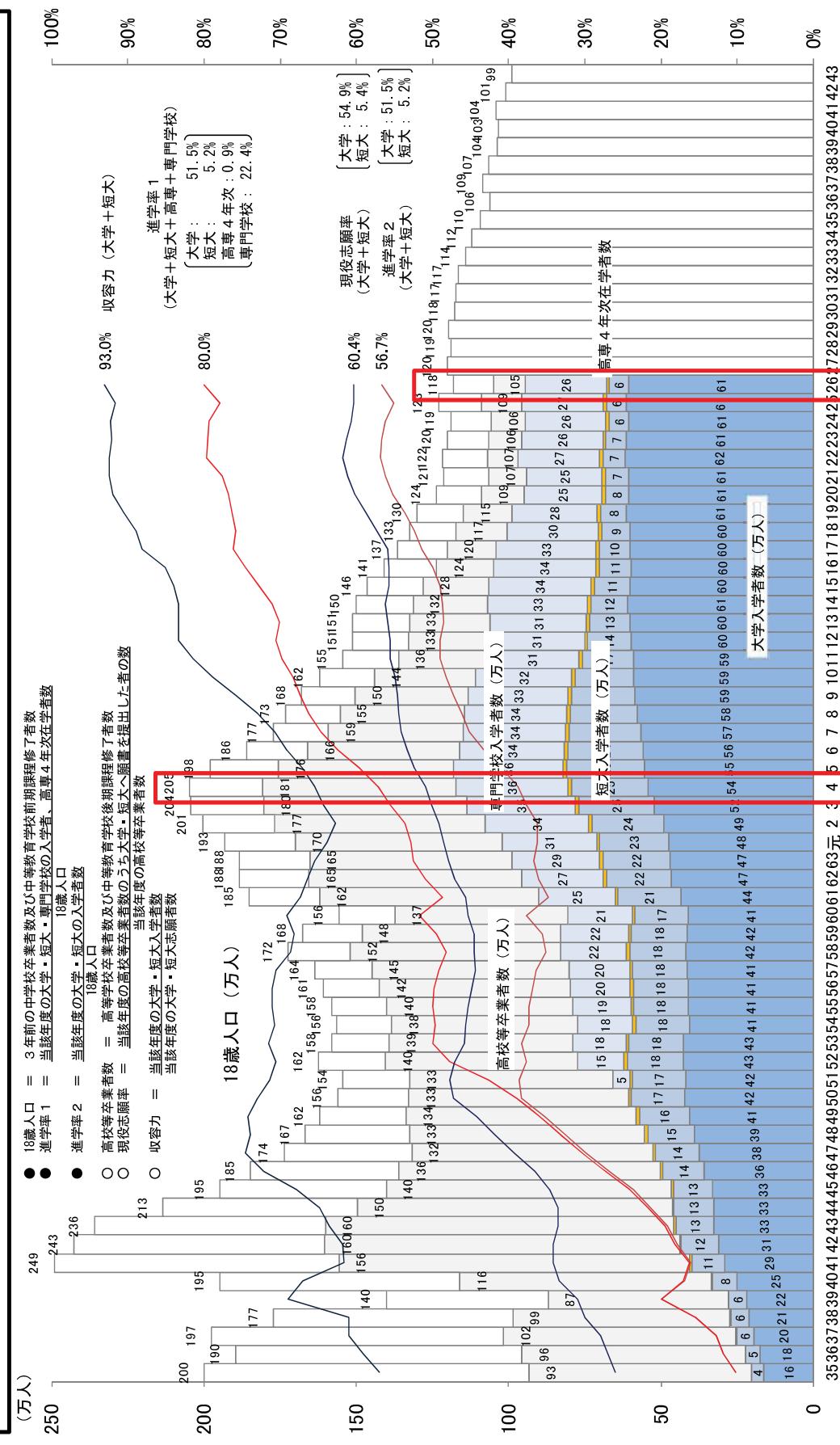
- 資料 1 18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移（内閣府）
- 資料 2 平成21年度～平成27年度農学系大学志願者数の推移
- 資料 3 平成23年度～平成27年度カテゴリー別志願倍率の推移
- 資料 4 平成23年度～平成27年度東京農業大学入試動向
- 資料 5 高校生の入学意向に関するアンケート調査報告
(一般財団法人日本開発構想研究所)
- 資料 6 新学部・新学科と類似する近隣の大学・学部・学科との初年度学生納付金の比較
- 資料 7 首都圏私立大学進学ガイダンス
- 資料 8 高校生新聞（7・8月号、10月号）
- 資料 9 世田谷キャンパス見学ツアー2015
- 資料 10 OPEN CAMPUS 2015（パンフレット）
- 資料 11 進学説明会（第124回収穫祭同時開催）
- 資料 12 夢ナビライブ2015（国公私立大学 合同進学ガイダンス）
- 資料 13 ミライガク2015（ゼミ・研究室体験型イベント）
- 資料 14 卒業生に対する企業等の採用意向等に関するアンケート調査報告
(一般財団法人日本開発構想研究所)

以上

18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移

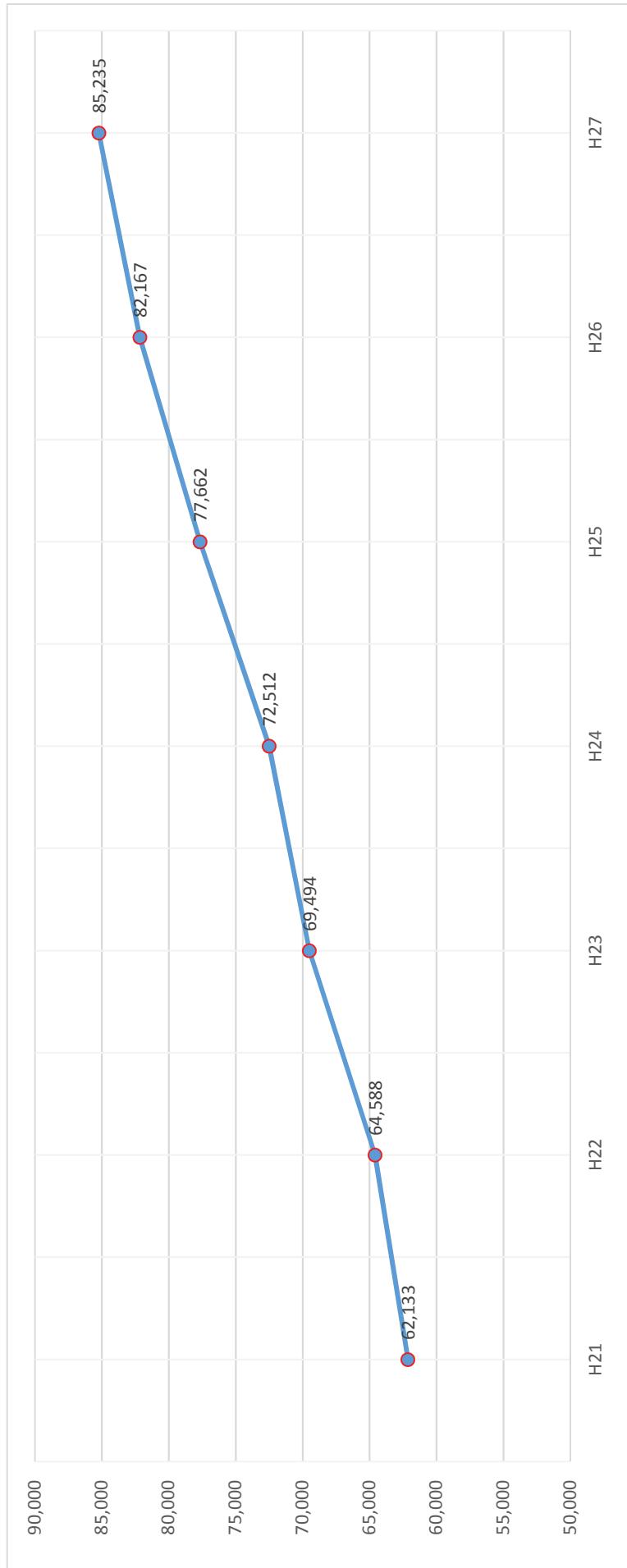
科学技術イノベーション人材の育成・流動化

- 18歳人口は、平成21～32年頃までぼんやりと横ばいで推移するが、平成33年頃から減少することが予測されている。(18歳人口について、平成4年度：205万人→平成26年度：118万人)
- 高等教育機関への進学率は、ここ数年頭打ち。



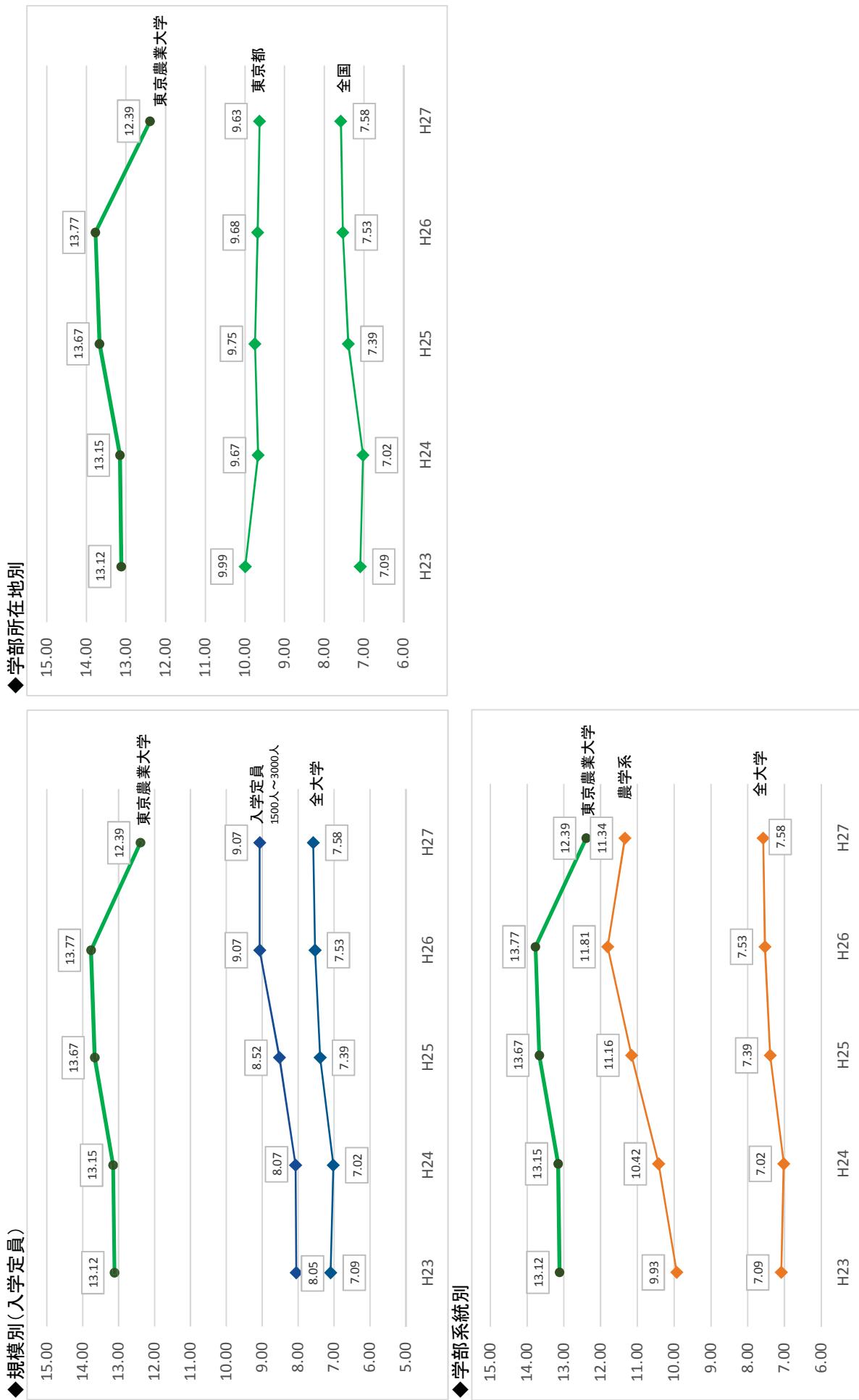
出典：文部科学省作成資料を基に、内閣府作成
3536373839404142434445464748495051525354555657585960616263元 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43

平成21年度～平成27年度 農学系大学 志願者数の推移



| 年度 | 集計 学部数 | 入学定員 A | 志願者 B | 受験者 C | 合格者 D | 入学者 E | 志願倍率 B/A | 合格率 D/C | 歩留率 E/D | 入学定員 充足率 E/A |
|-----|-----------|-----------|----------|----------|----------|----------|-------------|------------|------------|--------------------|
| H21 | 16 | 6,755 | 62,133 | 59,421 | 19,996 | 7,441 | 9.2 | 33.65 | 37.21 | 110.16 |
| H22 | 17 | 6,865 | 64,588 | 62,052 | 20,075 | 7,745 | 9.41 | 32.35 | 38.58 | 112.82 |
| H23 | 17 | 7,000 | 69,494 | 66,487 | 20,722 | 8,096 | 9.93 | 31.17 | 39.07 | 115.66 |
| H24 | 17 | 6,960 | 72,512 | 69,536 | 20,988 | 7,921 | 10.42 | 30.18 | 37.74 | 113.81 |
| H25 | 17 | 6,960 | 77,662 | 74,596 | 20,640 | 7,814 | 11.16 | 27.67 | 37.86 | 112.27 |
| H26 | 17 | 6,960 | 82,167 | 78,620 | 21,842 | 7,789 | 11.81 | 27.78 | 35.66 | 111.91 |
| H27 | 18 | 7,515 | 85,235 | 81,261 | 24,459 | 8,491 | 11.34 | 30.1 | 34.72 | 112.99 |

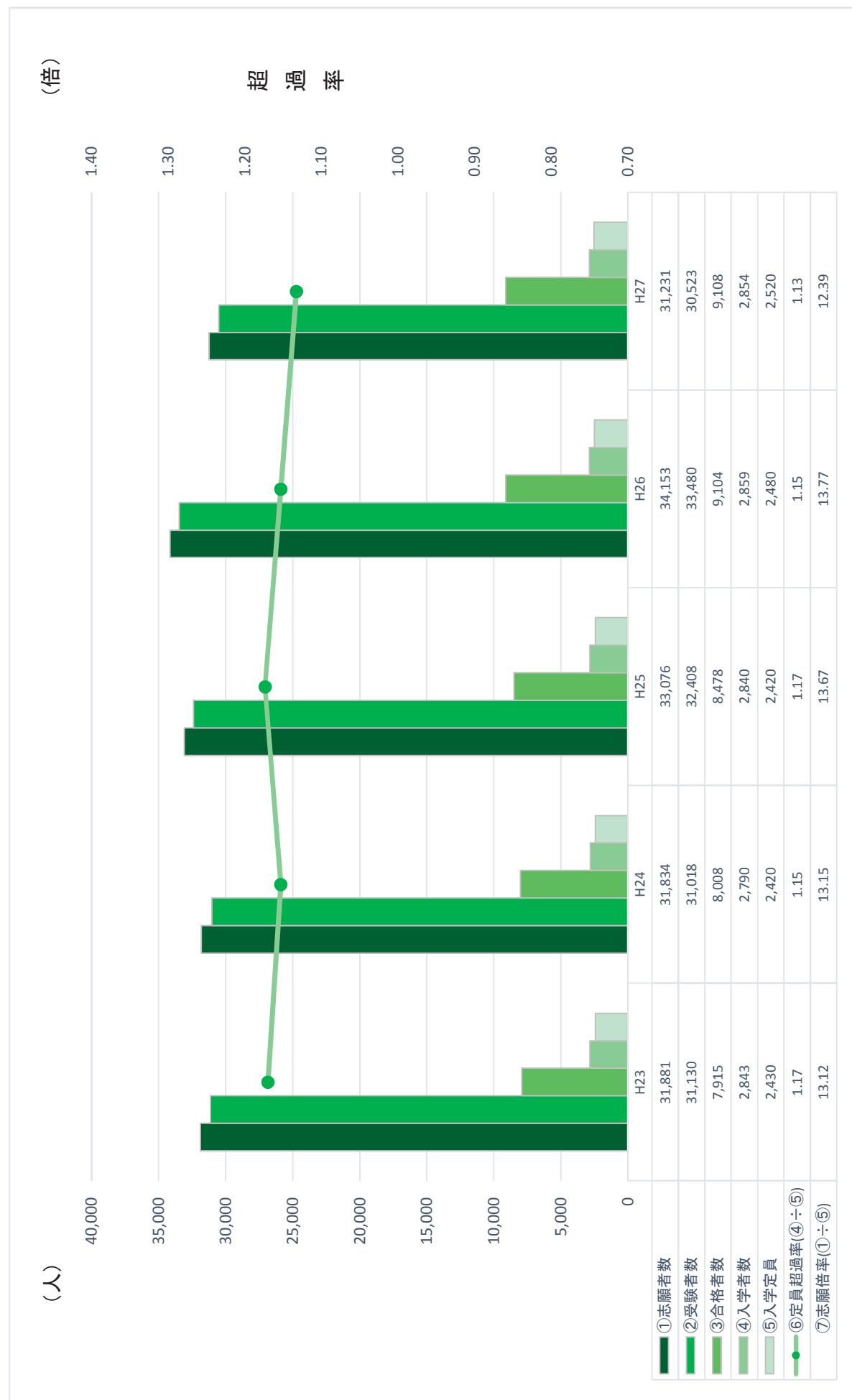
平成23年度～平成27年度 カテゴリー別志願倍率の推移



※志願倍率は志願者数を入学定員で除して算出した。

※本学以外の数値は日本私立学校振興・共済事業団が発行する「私立大学・短期大学等 入学志願動向」から算出している。

平成23年度～平成27年度 東京農業大学 入試動向



東京農業大学生命科学部（仮称）、
地域環境科学部地域創成科学科（仮称）、
国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）への
高校生の入学意向に関するアンケート調査報告

平成 28 年 2 月

一般財団法人 日本開発構想研究所

東京農業大学生命科学部（仮称）、地域環境科学部地域創成科学科（仮称）、
国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）への高校生の入学意向に関する
アンケート調査報告

1. 調査概要

（1） 調査目的

平成 29 年 4 月に予定している東京農業大学生命科学部（仮称）、地域環境科学部地域創成科学科（仮称）、国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）の開設に向けて、設置年度の進学対象層に対する東京農業大学生命科学部（仮称）、地域環境科学部地域創成科学科（仮称）、国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）への入学意向を把握することを目的とする。

（2） 調査対象高校及び対象者

- ①近隣に所在する高等学校、または、東京農業大学に進学実績のある高等学校を中心
に 1 都 1 道 16 県（北海道、青森県、宮城県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼
玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、三
重県、熊本県）に所在する高等学校の在学者で平成 29 年度大学進学対象となる高校
2 年生。
- ②東京農業大学が開催、または参加するキャンパス見学会、進学相談会に参加した平
成 29 年度大学進学対象となる高校 2 年生。

（3） 調査方法

- ①近隣に所在する高等学校、または、東京農業大学に進学実績のあるものを中心とした
高等学校 367 校へアンケート用紙及び東京農業大学生命科学部（仮称）、地域環境
科学部地域創成科学科（仮称）、国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）の概要を
示したリーフレットを送付し、教室等で直接アンケート用紙に記入する方法により
実施。回答用紙は一般財団法人日本開発構想研究所へ高校から郵送。
- ②東京農業大学が開催、または参加するキャンパス見学会、進学相談会に参加した平
成 29 年度大学進学対象となる高校 2 年生に、会場、教室等で直接アンケート用紙に
記入する方法により実施。回答用紙は一般財団法人日本開発構想研究所へ東京農業
大学から直接郵送。

この結果、①と②を合わせて、高校 2 年生 61,693 人から有効回答があった。

集計結果より、東京農業大学生命科学部（仮称）、地域環境科学部地域創成科学科（仮称）、
国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）への入学意向を分析した。

(4) 調査実施期間

平成 27 年 8 月～平成 28 年 2 月

(5) 有効回答者数

高校 2 年生 61,693 人

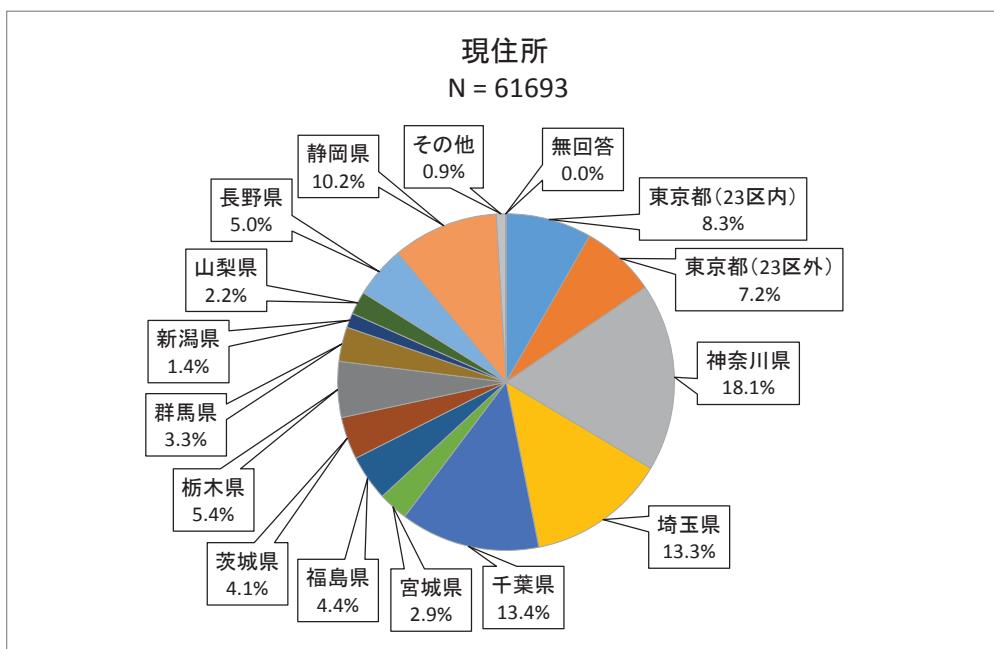
※東京農業大学にて設置を構想している生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科は仮称であるが、本文中ではその旨の表示を省略した。

2. 調査結果

(1) 現住所について

現住所について調査した結果、高校2年生61,693人のうち、「神奈川県」が11,144人(18.1%)と最も多く、次いで「千葉県」8,269人(13.4%)、「埼玉県」8,219人(13.3%)、「静岡県」6,280人(10.2%)、「東京都(23区内)」5,098人(8.3%)、「東京都(23区外)」4,460人(7.2%)、「栃木県」3,311人(5.4%)、「長野県」3,078人(5.0%)、「福島県」2,709人(4.4%)、「茨城県」2,517人(4.1%)、「群馬県」2,042人(3.3%)、「宮城県」1,764人(2.9%)、「山梨県」1,367人(2.2%)、「新潟県」865人(1.4%)、「その他」543人(0.9%)、「無回答」27人(0%)の順になっている。

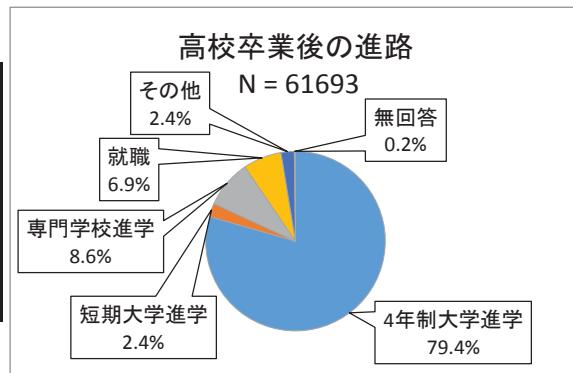
| 現住所 | | | |
|-----|-----------|--------|-------|
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
| 1 | 東京都(23区内) | 5,098 | 8.3 |
| 2 | 東京都(23区外) | 4,460 | 7.2 |
| 3 | 神奈川県 | 11,144 | 18.1 |
| 4 | 埼玉県 | 8,219 | 13.3 |
| 5 | 千葉県 | 8,269 | 13.4 |
| 6 | 宮城県 | 1,764 | 2.9 |
| 7 | 福島県 | 2,709 | 4.4 |
| 8 | 茨城県 | 2,517 | 4.1 |
| 9 | 栃木県 | 3,311 | 5.4 |
| 10 | 群馬県 | 2,042 | 3.3 |
| 11 | 新潟県 | 865 | 1.4 |
| 12 | 山梨県 | 1,367 | 2.2 |
| 13 | 長野県 | 3,078 | 5.0 |
| 14 | 静岡県 | 6,280 | 10.2 |
| 15 | その他 | 543 | 0.9 |
| | 無回答 | 27 | 0.0 |
| | N (%ベース) | 61,693 | 100 |



(2) 高校卒業後の進路について

高校卒業後の進路について調査した結果、高校2年生61,693人のうち、49,007人（79.4%）が「4年制大学進学」を希望しており、「短期大学進学」は1,503人（2.4%）、合わせて50,510人（81.8%）が国内の高等教育機関への進学を希望している。さらに、「専門学校進学」5,308人（8.6%）を合わせると、55,818人（90.4%）が高等学校卒業後、進学を希望している。

| 高校卒業後の進路 | | | |
|----------|----------|--------|-------|
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
| 1 | 4年制大学進学 | 49,007 | 79.4 |
| 2 | 短期大学進学 | 1,503 | 2.4 |
| 3 | 専門学校進学 | 5,308 | 8.6 |
| 4 | 就職 | 4,278 | 6.9 |
| 5 | その他 | 1,472 | 2.4 |
| | 無回答 | 125 | 0.2 |
| | N (%ベース) | 61,693 | 100 |

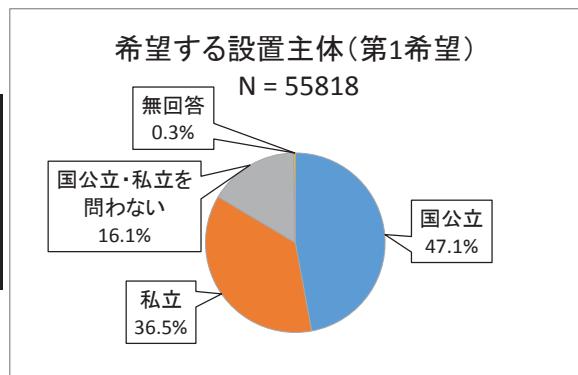


(3) 希望する設置主体について

3-1 希望する設置主体（第1希望）について

「4年制大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 55,818 人に、希望する設置主体（第1希望）について調査した。その結果は、「国公立」が 26,280 人（47.1%）と最も多く、次いで「私立」20,360 人（36.5%）、「国公立・私立を問わない」8,994 人（16.1%）、「無回答」184 人（0.3%）の順になっている。

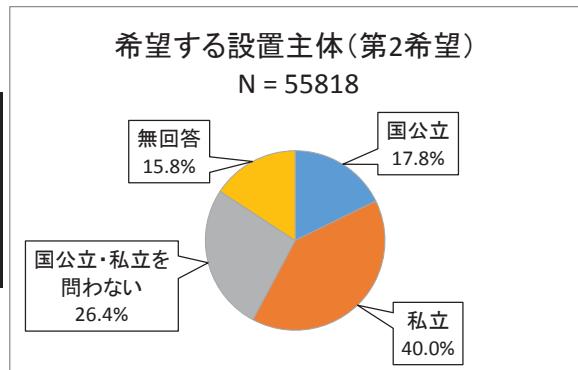
| 希望する設置主体(第1希望) | | |
|----------------|-------------|-------------|
| No. | カテゴリ | 件数 (全体)% |
| 1 | 国公立 | 26,280 47.1 |
| 2 | 私立 | 20,360 36.5 |
| 3 | 国公立・私立を問わない | 8,994 16.1 |
| | 無回答 | 184 0.3 |
| | N (%ベース) | 55,818 100 |



3-2 希望する設置主体（第2希望）について

「4年制大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 55,818 人に、希望する設置主体（第2希望）について調査した。その結果は、「私立」が 22,354 人（40.0%）と最も多く、次いで「国公立・私立を問わない」14,752 人（26.4%）、「国公立」9,910 人（17.8%）、「無回答」8,802 人（15.8%）の順になっている。

| 希望する設置主体(第2希望) | | |
|----------------|-------------|-------------|
| No. | カテゴリ | 件数 (全体)% |
| 1 | 国公立 | 9,910 17.8 |
| 2 | 私立 | 22,354 40.0 |
| 3 | 国公立・私立を問わない | 14,752 26.4 |
| | 無回答 | 8,802 15.8 |
| | N (%ベース) | 55,818 100 |



(4) 興味のある分野について

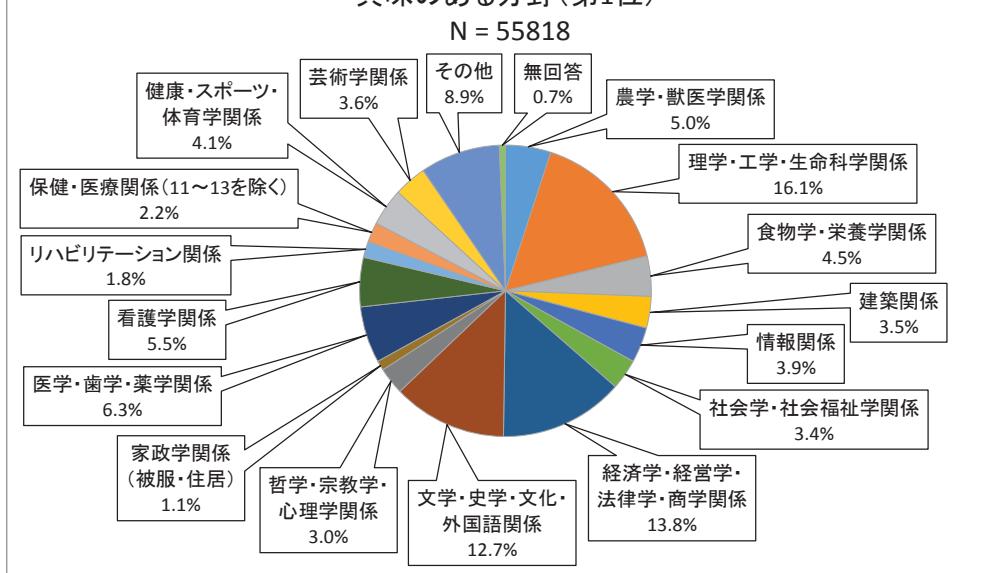
4-1 興味のある分野（第1位）について

「4年制大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 55,818 人に、興味のある分野（第1位）について調査した。その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「理学・工学・生命科学関係」が 8,998 人（16.1%）と最も多く、次いで「経済学・経営学・法律学・商学関係」7,695 人（13.8%）、「文学・史学・文化・外国語関係」7,066 人（12.7%）、「その他」4,944 人（8.9%）、「医学・歯学・薬学関係」3,496 人（6.3%）、「看護学関係」3,054 人（5.5%）、「農学・獣医学関係」2,810 人（5.0%）の順になっている。

興味のある分野（第1位）

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|-------------------|--------|-------|
| 1 | 農学・獣医学関係 | 2,810 | 5.0 |
| 2 | 理学・工学・生命科学関係 | 8,998 | 16.1 |
| 3 | 食物学・栄養学関係 | 2,492 | 4.5 |
| 4 | 建築関係 | 1,953 | 3.5 |
| 5 | 情報関係 | 2,192 | 3.9 |
| 6 | 社会学・社会福祉学関係 | 1,892 | 3.4 |
| 7 | 経済学・経営学・法律学・商学関係 | 7,695 | 13.8 |
| 8 | 文学・史学・文化・外国語関係 | 7,066 | 12.7 |
| 9 | 哲学・宗教学・心理学関係 | 1,679 | 3.0 |
| 10 | 家政学関係(被服・住居) | 604 | 1.1 |
| 11 | 医学・歯学・薬学関係 | 3,496 | 6.3 |
| 12 | 看護学関係 | 3,054 | 5.5 |
| 13 | リハビリテーション関係 | 985 | 1.8 |
| 14 | 保健・医療関係(11～13を除く) | 1,234 | 2.2 |
| 15 | 健康・スポーツ・体育学関係 | 2,316 | 4.1 |
| 16 | 芸術学関係 | 2,030 | 3.6 |
| 17 | その他 | 4,944 | 8.9 |
| | 無回答 | 378 | 0.7 |
| | N (%ベース) | 55,818 | 100 |

興味のある分野（第1位）

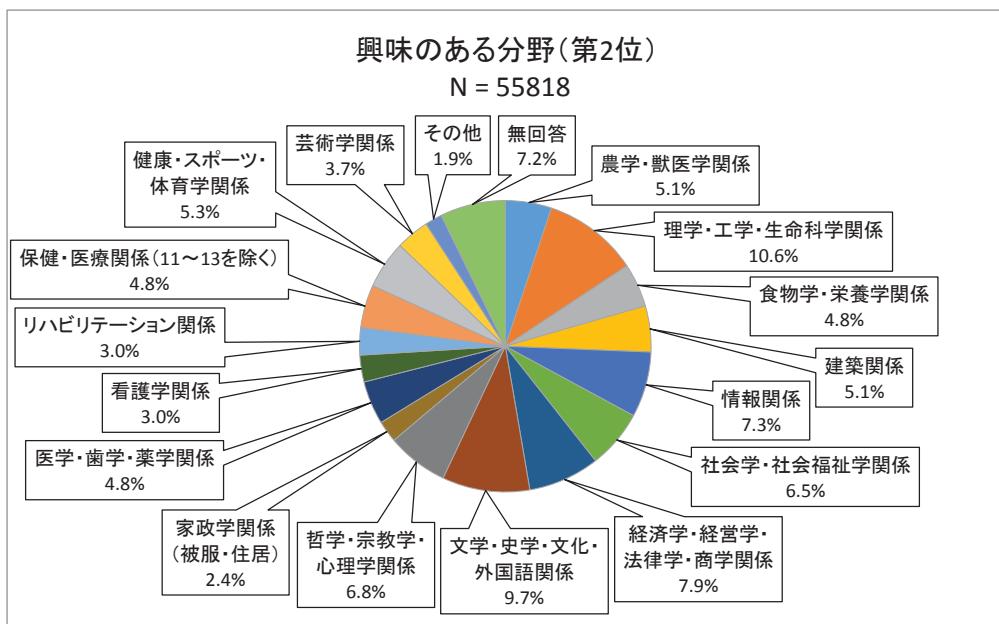


4-2 興味のある分野（第2位）について

「4年制大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 55,818 人に、興味のある分野（第2位）について調査した。その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「理学・工学・生命科学関係」が 5,899 人（10.6%）と最も多く、次いで「文学・史学・文化・外国語関係」5,422 人（9.7%）、「経済学・経営学・法律学・商学関係」4,422 人（7.9%）、「情報関係」4,055 人（7.3%）、「無回答」4,043 人（7.2%）、「哲学・宗教学・心理学関係」3,813 人（6.8%）、「社会学・社会福祉学関係」3,617 人（6.5%）、「健康・スポーツ・体育学関係」2,975 人（5.3%）、「農学・獣医学関係」2,863 人（5.1%）、「建築関係」2,847 人（5.1%）の順になっている。

興味のある分野(第2位)

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|-------------------|--------|-------|
| 1 | 農学・獣医学関係 | 2,863 | 5.1 |
| 2 | 理学・工学・生命科学関係 | 5,899 | 10.6 |
| 3 | 食物学・栄養学関係 | 2,701 | 4.8 |
| 4 | 建築関係 | 2,847 | 5.1 |
| 5 | 情報関係 | 4,055 | 7.3 |
| 6 | 社会学・社会福祉学関係 | 3,617 | 6.5 |
| 7 | 経済学・経営学・法律学・商学関係 | 4,422 | 7.9 |
| 8 | 文学・史学・文化・外国語関係 | 5,422 | 9.7 |
| 9 | 哲学・宗教学・心理学関係 | 3,813 | 6.8 |
| 10 | 家政学関係(被服・住居) | 1,337 | 2.4 |
| 11 | 医学・歯学・薬学関係 | 2,686 | 4.8 |
| 12 | 看護学関係 | 1,659 | 3.0 |
| 13 | リハビリテーション関係 | 1,693 | 3.0 |
| 14 | 保健・医療関係(11～13を除く) | 2,660 | 4.8 |
| 15 | 健康・スポーツ・体育学関係 | 2,975 | 5.3 |
| 16 | 芸術学関係 | 2,061 | 3.7 |
| 17 | その他 | 1,065 | 1.9 |
| | 無回答 | 4,043 | 7.2 |
| | N (%ベース) | 55,818 | 100 |



4・3 興味のある分野（第3位）について

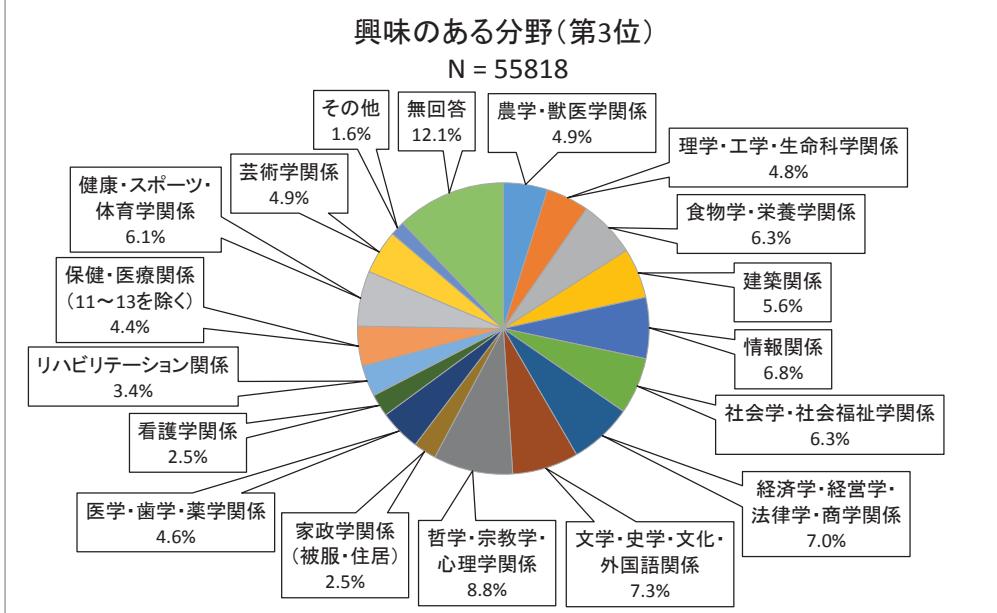
「4年制大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 55,818 人に、興味のある分野（第3位）について調査した。その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「無回答」が 6,763 人（12.1%）と最も多く、次いで「哲学・宗教学・心理学関係」4,924 人（8.8%）、「文学・史学・文化・外国語関係」4,099 人（7.3%）、「経済学・経営学・法律学・商学関係」3,911 人（7.0%）、「情報関係」3,781 人（6.8%）、「食物学・栄養学関係」3,539 人（6.3%）、「社会学・社会福祉学関係」3,513 人（6.3%）、「健康・スポーツ・体育学関係」3,421 人（6.1%）、「建築関係」3,099 人（5.6%）の順になっている。

興味のある分野(第3位)

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|-------------------|--------|-------|
| 1 | 農学・獣医学関係 | 2,738 | 4.9 |
| 2 | 理学・工学・生命科学関係 | 2,652 | 4.8 |
| 3 | 食物学・栄養学関係 | 3,539 | 6.3 |
| 4 | 建築関係 | 3,099 | 5.6 |
| 5 | 情報関係 | 3,781 | 6.8 |
| 6 | 社会学・社会福祉学関係 | 3,513 | 6.3 |
| 7 | 経済学・経営学・法律学・商学関係 | 3,911 | 7.0 |
| 8 | 文学・史学・文化・外国語関係 | 4,099 | 7.3 |
| 9 | 哲学・宗教学・心理学関係 | 4,924 | 8.8 |
| 10 | 家政学関係(被服・住居) | 1,417 | 2.5 |
| 11 | 医学・歯学・薬学関係 | 2,564 | 4.6 |
| 12 | 看護学関係 | 1,389 | 2.5 |
| 13 | リハビリテーション関係 | 1,920 | 3.4 |
| 14 | 保健・医療関係(11～13を除く) | 2,466 | 4.4 |
| 15 | 健康・スポーツ・体育学関係 | 3,421 | 6.1 |
| 16 | 芸術学関係 | 2,712 | 4.9 |
| 17 | その他 | 910 | 1.6 |
| | 無回答 | 6,763 | 12.1 |
| | N (%ペース) | 55,818 | 100 |

興味のある分野(第3位)

N = 55818

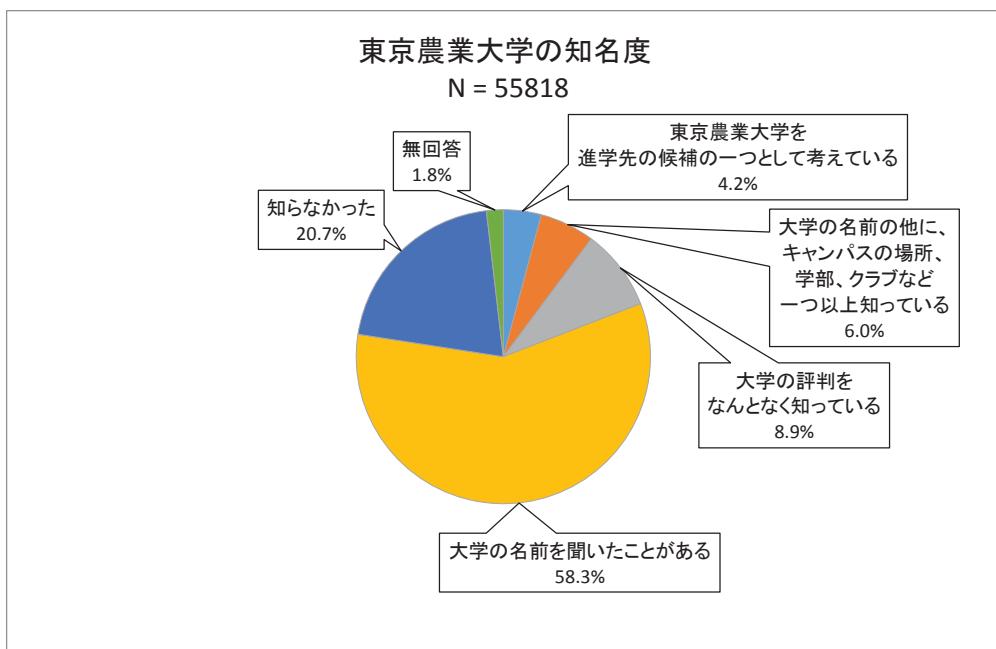


(5) 東京農業大学の知名度について

「4年制大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 55,818 人に、東京農業大学の知名度について調査した。その結果は、「大学の名前を聞いたことがある」が 32,552 人（58.3%）と最も多く、次いで「知らなかった」 11,564 人（20.7%）、「大学の評判をなんとなく知っている」 4,986 人（8.9%）、「大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部、クラブなど一つ以上知っている」 3,368 人（6.0%）、「東京農業大学を進学先の候補の一つとして考えている」 2,321 人（4.2%）、「無回答」 1,027 人（1.8%）の順になっている。

東京農業大学の知名度

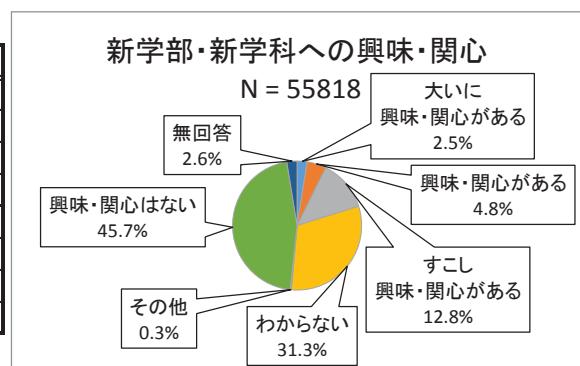
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|-------------------------------------|--------|-------|
| 1 | 東京農業大学を進学先の候補の一つとして考えている | 2,321 | 4.2 |
| 2 | 大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部、クラブなど一つ以上知っている | 3,368 | 6.0 |
| 3 | 大学の評判をなんとなく知っている | 4,986 | 8.9 |
| 4 | 大学の名前を聞いたことがある | 32,552 | 58.3 |
| 5 | 知らなかった | 11,564 | 20.7 |
| | 無回答 | 1,027 | 1.8 |
| | N (%ベース) | 55,818 | 100 |



(6) 新学部・新学科への興味・関心について

「4年制大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 55,818 人のうち、東京農業大学生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科について「大いに興味・関心がある」と回答したのは 1,398 人（2.5%）である。また、「興味・関心がある」2,706 人（4.8%）、「すこし興味・関心がある」7,143 人（12.8%）との回答があり、「大いに興味・関心がある」、「興味・関心がある」、「すこし興味・関心がある」の合計 11,247 人（20.1%）が東京農業大学生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科に興味を示している。

| 新学部・新学科への興味・関心 | | 件数 | (全体)% |
|----------------|-------------|--------|-------|
| No. | カテゴリ | | |
| 1 | 大いに興味・関心がある | 1,398 | 2.5 |
| 2 | 興味・関心がある | 2,706 | 4.8 |
| 3 | すこし興味・関心がある | 7,143 | 12.8 |
| 4 | わからない | 17,461 | 31.3 |
| 5 | その他 | 160 | 0.3 |
| 6 | 興味・関心はない | 25,522 | 45.7 |
| | 無回答 | 1,428 | 2.6 |
| | N (%ベース) | 55,818 | 100 |



(7) 興味・関心の理由について（複数回答）

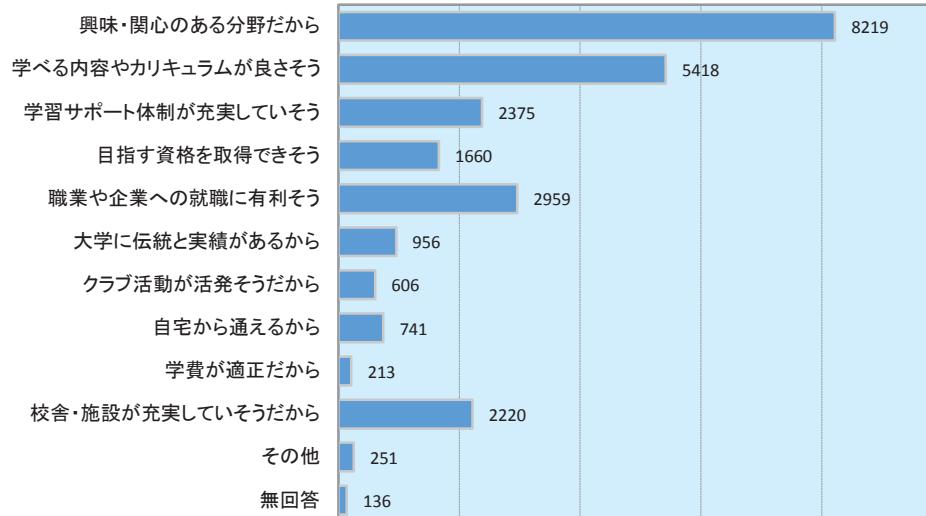
興味・関心の理由については、「(6) 新学部・新学科への興味・関心について」にて東京農業大学生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科に興味・関心を示した 11,247 人のうち、「興味・関心のある分野だから」が 8,219 人 (73.1%) と最も多く、次いで「学べる内容やカリキュラムが良さそう」 5,418 人 (48.2%)、「職業や企業への就職に有利そう」 2,959 人 (26.3%)、「学習サポート体制が充実していそう」 2,375 人 (21.1%)、「校舎・施設が充実していそうだから」 2,220 人 (19.7%)、「目指す資格を取得できそう」 1,660 人 (14.8%)、「大学に伝統と実績があるから」 956 人 (8.5%)、「自宅から通えるから」 741 人 (6.6%)、「クラブ活動が活発そうだから」 606 人 (5.4%)、「その他」 251 人 (2.2%)、「学費が適正だから」 213 人 (1.9%)、「無回答」 136 人 (1.2%) の順になっている。

興味・関心の理由(複数回答)

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|-------------------|--------|-------|
| 1 | 興味・関心のある分野だから | 8,219 | 73.1 |
| 2 | 学べる内容やカリキュラムが良さそう | 5,418 | 48.2 |
| 3 | 学習サポート体制が充実していそう | 2,375 | 21.1 |
| 4 | 目指す資格を取得できそう | 1,660 | 14.8 |
| 5 | 職業や企業への就職に有利そう | 2,959 | 26.3 |
| 6 | 大学に伝統と実績があるから | 956 | 8.5 |
| 7 | クラブ活動が活発そうだから | 606 | 5.4 |
| 8 | 自宅から通えるから | 741 | 6.6 |
| 9 | 学費が適正だから | 213 | 1.9 |
| 10 | 校舎・施設が充実していそうだから | 2,220 | 19.7 |
| 11 | その他 | 251 | 2.2 |
| | 無回答 | 136 | 1.2 |
| | N (%ベース) | 11,247 | 100 |

興味・関心の理由(複数回答)

N = 11247

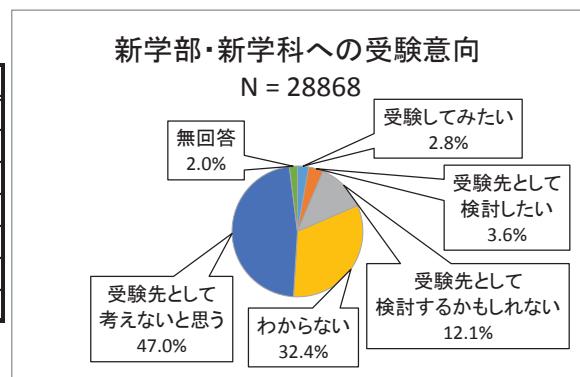


(8) 新学部・新学科への受験意向について

「4年制大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 55,818 人のうち、「(6) 新学部・新学科への興味・関心について」にて「大いに興味・関心がある」、「興味・関心がある」、「すこし興味・関心がある」、「わからない」、「その他」と回答した 28,868 人に、東京農業大学生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科への受験意向について調査した。

その結果は、「受験してみたい」 798 人 (2.8%)、「受験先として検討したい」 1,048 人 (3.6%)、「受験先として検討するかもしれない」 3,504 人 (12.1%) の合計 5,350 人 (18.5%) が東京農業大学生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科への受験意向を示している。

| 新学部・新学科への受験意向 | | | |
|---------------|------------------|--------|-------|
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
| 1 | 受験してみたい | 798 | 2.8 |
| 2 | 受験先として検討したい | 1,048 | 3.6 |
| 3 | 受験先として検討するかもしれない | 3,504 | 12.1 |
| 4 | わからない | 9,365 | 32.4 |
| 5 | 受験先として考えないと思う | 13,579 | 47.0 |
| | 無回答 | 574 | 2.0 |
| | N (%ベース) | 28,868 | 100 |

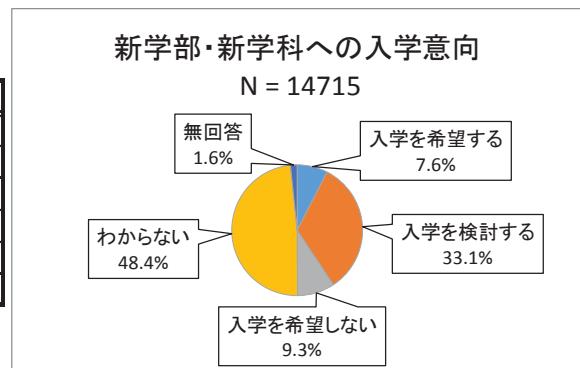


(9) 新学部・新学科への入学意向について

「(8) 新学部・新学科への受験意向について」にて、東京農業大学生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科への受験意向を示した 5,350 人と、「わからない」と回答した 9,365 人、合計 14,715 人に、東京農業大学生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科を受験し、合格した場合の入学意向について調査した。

その結果は、「入学を希望する」が 1,113 人 (7.6%)、「入学を検討する」が 4,870 人 (33.1%) となり、合計 5,983 人 (40.7%) が東京農業大学生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科への入学意向を示している。

| 新学部・新学科への入学意向 | | | |
|---------------|----------|--------|-------|
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
| 1 | 入学を希望する | 1,113 | 7.6 |
| 2 | 入学を検討する | 4,870 | 33.1 |
| 3 | 入学を希望しない | 1,362 | 9.3 |
| 4 | わからない | 7,128 | 48.4 |
| | 無回答 | 242 | 1.6 |
| | N (%ベース) | 14,715 | 100 |



(10) 入学を希望する新学部・新学科について

10-1 入学を希望する新学部・新学科（第1希望）について

「(9) 新学部・新学科への入学意向について」にて、東京農業大学生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科への入学意向を示した 5,983 人に、入学を希望する新学部・新学科（第1希望）について調査した。

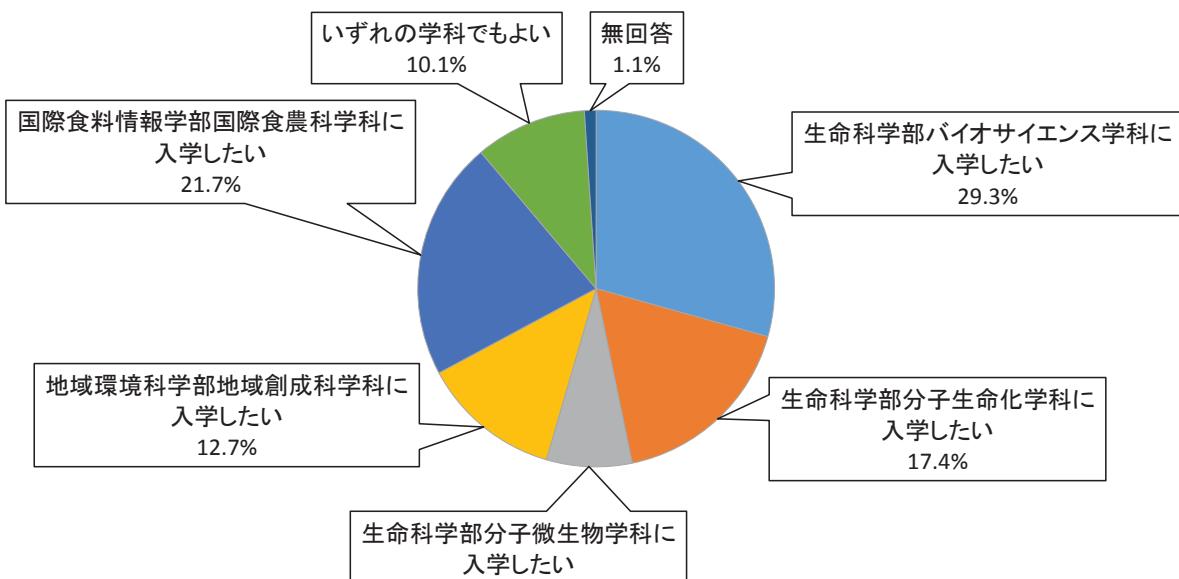
その結果は、「生命科学部バイオサイエンス学科に入学したい」が 1,756 人（29.3%）と最も多く、次いで「国際食料情報学部国際食農科学科に入学したい」1,297 人（21.7%）、「生命科学部分子生命化学科に入学したい」1,041 人（17.4%）、「地域環境科学部地域創成科学科に入学したい」757 人（12.7%）、「いずれの学科でもよい」605 人（10.1%）、「生命科学部分子微生物学科に入学したい」464 人（7.8%）、「無回答」63 人（1.1%）の順になっている。

入学を希望する新学部・新学科（第1希望）

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|-----------------------|-------|-------|
| 1 | 生命科学部バイオサイエンス学科に入学したい | 1,756 | 29.3 |
| 2 | 生命科学部分子生命化学科に入学したい | 1,041 | 17.4 |
| 3 | 生命科学部分子微生物学科に入学したい | 464 | 7.8 |
| 4 | 地域環境科学部地域創成科学科に入学したい | 757 | 12.7 |
| 5 | 国際食料情報学部国際食農科学科に入学したい | 1,297 | 21.7 |
| 6 | いずれの学科でもよい | 605 | 10.1 |
| | 無回答 | 63 | 1.1 |
| | N (%ベース) | 5,983 | 100 |

入学を希望する新学部・新学科（第1希望）

N = 5983



10-2 入学を希望する新学部・新学科（第2希望）について

「(9) 新学部・新学科への入学意向について」にて、東京農業大学生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科への入学意向を示した 5,983 人に、入学を希望する新学部・新学科（第2希望）について調査した。

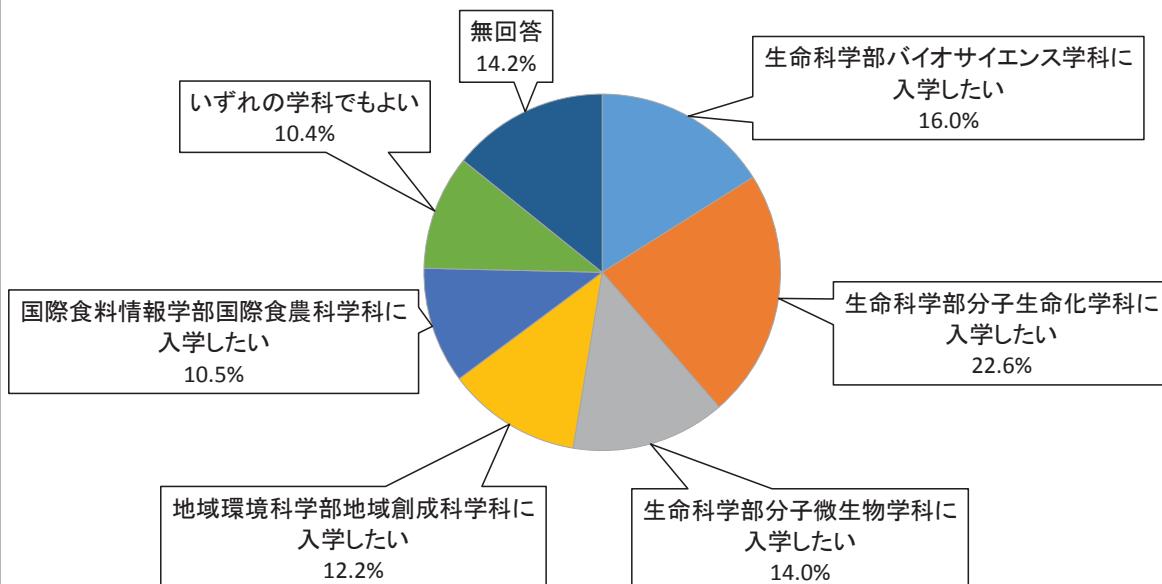
その結果は、「生命科学部分子生命化学科に入学したい」が 1,351 人（22.6%）と最も多く、次いで「生命科学部バイオサイエンス学科に入学したい」960 人（16.0%）、「無回答」850 人（14.2%）、「生命科学部分子微生物学科に入学したい」837 人（14.0%）、「地域環境科学部地域創成科学科に入学したい」730 人（12.2%）、「国際食料情報学部国際食農科学科に入学したい」631 人（10.5%）、「いずれの学科でもよい」624 人（10.4%）の順になっている。

入学を希望する新学部・新学科（第2希望）

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|-----------------------|-------|-------|
| 1 | 生命科学部バイオサイエンス学科に入学したい | 960 | 16.0 |
| 2 | 生命科学部分子生命化学科に入学したい | 1,351 | 22.6 |
| 3 | 生命科学部分子微生物学科に入学したい | 837 | 14.0 |
| 4 | 地域環境科学部地域創成科学科に入学したい | 730 | 12.2 |
| 5 | 国際食料情報学部国際食農科学科に入学したい | 631 | 10.5 |
| 6 | いずれの学科でもよい | 624 | 10.4 |
| | 無回答 | 850 | 14.2 |
| | N (%ベース) | 5,983 | 100 |

入学を希望する新学部・新学科（第2希望）

N = 5983



3. 調査結果のまとめ

「(9) 新学部・新学科への入学意向について」と、「(10) 10-1 入学を希望する新学部・新学科（第1希望）について」の調査結果をクロス集計した結果は下表である。

入学意向 × 希望学科(第1志望)

| 希望学科 (第1志望) | 上段:度数 下段:% | 入学意向 | | |
|----------------|-----------------------|----------------|---------------|---------------|
| | | 合計 | 入学を希望する | 入学を検討する |
| | | | | |
| 希望学科 (第1志望) | 全体 | 5,983 100.0 | 1,113 18.6 | 4,870 81.4 |
| | 生命科学部バイオサイエンス学科に入学したい | 1,756 100.0 | 414 23.6 | 1,342 76.4 |
| | 生命科学部分子生命化学科に入学したい | 1,041 100.0 | 155 14.9 | 886 85.1 |
| | 生命科学部分子微生物学科に入学したい | 464 100.0 | 120 25.9 | 344 74.1 |
| | 地域環境科学部地域創成科学科に入学したい | 757 100.0 | 114 15.1 | 643 84.9 |
| | 国際食料情報学部国際食農科学科に入学したい | 1,297 100.0 | 236 18.2 | 1,061 81.8 |
| | いずれの学科でもよい | 605 100.0 | 67 11.1 | 538 88.9 |
| | 無回答 | 63 100.0 | 7 11.1 | 56 88.9 |

① 生命科学部バイオサイエンス学科について

「入学を希望する」と回答した高校2年生は414人となり、東京農業大学生命科学部バイオサイエンス学科の入学定員140人に対し、約2.95倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校2年生は合計1,756人となり、東京農業大学生命科学部バイオサイエンス学科の入学定員140人に対し、約12.54倍の入学意向を示している。

② 生命科学部分子生命化学科について

「入学を希望する」と回答した高校2年生は155人となり、東京農業大学生命科学部分子生命化学科の入学定員115人に対し、約1.34倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校2年生は合計1,041人となり、東京農業大学生命科学部分子生命化学科の入学定員115人に対し、約9.05倍の入学意向を示している。

③ 生命科学部分子微生物学科について

「入学を希望する」と回答した高校2年生は120人となり、東京農業大学生命科学部分子微生物学科の入学定員115人に対し、約1.04倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校2年生は合計464人となり、東京農業大学生命科学部分子微生物学科の入学定員115人に対し、約4.03倍の入学意向を示している。

④ 地域環境科学部地域創成科学科について

「入学を希望する」と回答した高校2年生は114人となり、東京農業大学地域環境科学部地域創成科学科の入学定員80人に対し、約1.42倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校2年生は合計757人となり、東京農業大学地域環境科学部地域創成科学科の入学定員80人に対し、約9.46倍の入学意向を示している。

⑤ 国際食料情報学部国際食農科学科について

「入学を希望する」と回答した高校2年生は236人となり、東京農業大学国際食料情報学部国際食農科学科の入学定員100人に対し、2.36倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校2年生は合計1,297人となり、東京農業大学国際食料情報学部国際食農科学科の入学定員100人に対し、12.97倍の入学意向を示している。

以上の調査結果と、調査対象の高等学校以外からの高校生の進学も考えられることから、東京農業大学生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科の各学科の入学定員を満たす学生は十分に確保できるものと考える。

調査票

東京農業大学 生命科学部(仮称)、地域環境科学部地域創成科学科(仮称)、
国際食料情報学部国際食農科学科(仮称)設置に係るアンケート調査

- ・このアンケート調査は2017年4月に設置を予定している新学部・学科の設置構想の基礎資料とするため、高校2年生のみなさんの卒業後の進路等についてお聞きするものです。ご協力ををお願いいたします。
- ・このアンケート結果は、統計資料としてのみ用い、目的以外に利用することはありません。

回答は、該当する番号を回答欄へ直接記入してください。

[あなたに関することについてお答えください]

【回答欄】

問1 あなたの学年をおたずねします。

- 1 高校1年生 2 高校2年生 3 高校3年生

問2 あなたの性別についておたずねします。

- 1 男子 2 女子

問3 あなたのお住まい(現住所)についておたずねします。

- | | | | |
|-------------|-------|--------|-----------|
| 1 東京都(23区内) | 5 千葉県 | 9 栃木県 | 13 長野県 |
| 2 東京都(23区外) | 6 宮城県 | 10 群馬県 | 14 静岡県 |
| 3 神奈川県 | 7 福島県 | 11 新潟県 | 15 その他() |
| 4 埼玉県 | 8 茨城県 | 12 山梨県 | |

[卒業後の進路についてお答えください]

問4 あなたは高校卒業後どのような進路をお考えですか。次の中から1つだけ選んでください。

- 1 4年制大学進学
2 短期大学進学
3 専門学校進学
4 就職
5 その他()

}

1、2、3を選ばれた方は問5へお進みください。
4、5を選ばれた方は本アンケート終了です。

問5 あなたはどのような設置主体の学校に進学したいですか。次の中からあてはまるものを第2希望まで選んでください。

- 1 国公立
2 私立
3 国公立・私立を問わない

第1希望

第2希望

問6 あなたは進学先(4年制大学、短期大学、専門学校)で学ぶ分野として、どの分野に興味を持っていらっしゃいますか。次の中であてはまるものを第3位まで選んでください。

- | | | |
|--------------------|----------------------|-----|
| 1 農学・獣医学関係 | 10 家政学関係(被服・住居) | 第1位 |
| 2 理学・工学・生命科学関係 | 11 医学・歯学・薬学関係 | |
| 3 食物学・栄養学関係 | 12 看護学関係 | |
| 4 建築関係 | 13 リハビリテーション関係 | |
| 5 情報関係 | 14 保健・医療関係(11~13を除く) | 第2位 |
| 6 社会学・社会福祉学関係 | 15 健康・スポーツ・体育学関係 | |
| 7 経済学・経営学・法律学・商学関係 | 16 芸術学関係 | |
| 8 文学・史学・文化・外国語関係 | 17 その他(具体的に) | 第3位 |
| 9 哲学・宗教学・心理学関係 | | |

第2位

第3位

一次の頁へお進みくださいー

ここからは生命科学部(仮称)、地域環境科学部地域創成科学科(仮称)、
国際食料情報学部国際食農科学科(仮称)の概要(リーフレット)と、
類似する近隣の大学・学部・学科一覧をご覧いただいた上でお答えください。

問 7 あなたは東京農業大学を知っていますか。次の中から 1 つだけ選んでください。

【回答欄】

- 1 東京農業大学を進学先の候補の一つとして考えている
- 2 大学の名前その他に、キャンパスの場所、学部、クラブなど一つ以上知っている
- 3 大学の評判をなんとなく知っている
- 4 大学の名前を聞いたことがある
- 5 知らなかった

問 8 あなたは東京農業大学の生命科学部(仮称)、地域環境科学部地域創成科学科(仮称)、国際食料情報学部国際食農科学科(仮称)について、どのように考えますか。次の中から 1 つだけ選んでください。

- 1 大いに興味・関心がある
- 2 興味・関心がある
- 3 すこし興味・関心がある
- 4 わからない
- 5 その他(具体的に)
- 6 興味・関心はない

} 1、2、3 を選ばれた方は問 9 へお進み下さい。
4、5 を選ばれた方は問 10 へお進み下さい。
6 を選ばれた方は本アンケート終了です。

問 9 問 8 で「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「すこし興味・関心がある」と回答された方におたずねします。それは、どのような理由からですか。次の中から 3 つまで選んでください。回答後は問 10 へお進みください。

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1 興味・関心のある分野だから | 7 クラブ活動が活発だから |
| 2 学べる内容やカリキュラムが良さそう | 8 自宅から通えるから |
| 3 学習サポート体制が充実している | 9 学費が適正だから |
| 4 目指す資格を取得できそう | 10 校舎・施設が充実しているから |
| 5 職業や企業への就職に有利そう | 11 その他 (具体的に) |
| 6 大学に伝統と実績があるから | |

問 10 あなたは東京農業大学の生命科学部(仮称)、地域環境科学部地域創成科学科(仮称)、国際食料情報学部国際食農科学科(仮称)を受験したいと思いますか。次の中から 1 つだけ選んでください。

- 1 受験してみたい
- 2 受験先として検討したい
- 3 受験先として検討するかもしれない
- 4 わからない
- 5 受験先として考えないと思う

} 1、2、3、4 を選ばれた方は問 11 へお進み下さい。
5 を選ばれた方は本アンケート終了です。

問 11 東京農業大学の生命科学部(仮称)、地域環境科学部地域創成科学科(仮称)、国際食料情報学部国際食農科学科(仮称)を受験し、合格した場合の入学意向について次の中から 1 つだけ選んでください。

- 1 入学を希望する
- 2 入学を検討する
- 3 入学を希望しない
- 4 わからない

} 1、2 を選ばれた方は問 12 へお進みください。
3、4 を選ばれた方は本アンケート終了です。

問 12 問 11 で「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答された方におたずねします。生命科学部(仮称)、地域環境科学部地域創成科学科(仮称)、国際食料情報学部国際食農科学科(仮称)のうち、どちらの学科に入学したいですか。第 2 希望まで選んでください。

- 1 生命科学部バイオサイエンス学科(仮称)に入学したい
- 2 生命科学部分子生命化学科(仮称)に入学したい
- 3 生命科学部分子微生物学科(仮称)に入学したい
- 4 地域環境科学部地域創成科学科(仮称)に入学したい
- 5 国際食料情報学部国際食農科学科(仮称)に入学したい
- 6 いずれの学科でもよい

第 1 希望

第 2 希望

◆ご協力ありがとうございました

新学部・新学科と類似する近隣の大学・学部・学科一覧

東京農業大学 新学部・新学科：
生命科学部（仮称）：バイオサイエンス学科（仮称）、分子生命化学科（仮称）、分子微生物学科（仮称）
地域環境科学部：地域創成科学科（仮称） 国際食料情報学部：国際食農科学科（仮称）

| 所在地 | 区分 | 大学名 | 学部名 | 学科名 | 専攻（コース）名 | 入学定員 | 入学金 | 授業料 | 施設設備費 | 実験・実習・体育費 | 教育充実費特別納付金 | 維持費他 | 合計 |
|-----------------------------|----|-------------|-----------|----------------|----------------------|------|---------|-----------|---------|-----------|------------|--------|-----------|
| 生命科学部 バイオサイエンス学科（仮称） | | | | | | | | | | | | | |
| 東京都 | 私立 | 玉川大学 | 農学部 | 生命化学科 | | 100 | 250,000 | 1,029,000 | 250,000 | 275,200 | 0 | 0 | 1,804,200 |
| 東京都 | 私立 | 帝京科学大学 | 生命環境学部 | 生命科学科 | | 80 | 200,000 | 860,000 | 200,000 | 180,000 | 0 | 40,000 | 1,480,000 |
| 東京都 | 私立 | 東洋大学 | 生命科学部 | 生命科学科 | | 100 | 250,000 | 970,000 | 260,000 | 70,000 | 0 | 0 | 1,550,000 |
| 東京都 | 私立 | 日本大学 | 工学部 | 生命応用化学科 | | 160 | 260,000 | 900,000 | 220,000 | 80,000 | 0 | 0 | 1,460,000 |
| 東京都 | 私立 | 日本獣医学生命科学大学 | 応用生命科学部 | 食品科学科 | | 80 | 250,000 | 750,000 | 300,000 | 100,000 | 200,000 | 20,000 | 1,620,000 |
| 東京都 | 私立 | 明治大学 | 農学部 | 農芸化学科 | | 130 | 200,000 | 1,129,000 | 0 | 80,000 | 312,000 | 0 | 1,721,000 |
| 東京都 | 私立 | 東京農業大学 | 生命科学部（仮称） | バイオサイエンス学科（仮称） | | 140 | 270,000 | 760,000 | 230,000 | 250,000 | 0 | 25,600 | 1,535,600 |
| 生命科学部 分子生命化学科（仮称） | | | | | | | | | | | | | |
| 東京都 | 私立 | 青山学院大学 | 理工学部 | 化学・生命科学科 | | 110 | 200,000 | 1,191,000 | 257,000 | 90,000 | 0 | 0 | 1,738,000 |
| 東京都 | 私立 | 工学院大学 | 先進工学部 | 生命化学科 | | 70 | 200,000 | 998,000 | 300,000 | 100,000 | 0 | 0 | 1,598,000 |
| 東京都 | 私立 | 東京薬科大学 | 生命科学部 | 分子生命科学科 | | 60 | 260,000 | 1,110,000 | 480,000 | 0 | 0 | 0 | 1,850,000 |
| 東京都 | 私立 | 日本大学 | 生産工学部 | 応用分子化学科 | | 160 | 260,000 | 1,000,000 | 220,000 | 80,000 | 0 | 0 | 1,560,000 |
| 東京都 | 私立 | 明星大学 | 理工学部 | 総合理工学科 | 生命科学・化学系 | 400 | 250,000 | 940,000 | 300,000 | 100,000 | 0 | 0 | 1,590,000 |
| 神奈川県 | 私立 | 神奈川大学 | 工学部 | 物質生命科学科 | | 165 | 300,000 | 760,000 | 310,000 | 150,000 | 0 | 0 | 1,520,000 |
| 東京都 | 私立 | 東京農業大学 | 生命科学部（仮称） | 分子生命科学科（仮称） | | 115 | 270,000 | 760,000 | 230,000 | 250,000 | 0 | 25,600 | 1,535,600 |
| 生命科学部 分子微生物学科（仮称） | | | | | | | | | | | | | |
| 東京都 | 私立 | 中央大学 | 理工学部 | 生命科学科 | | 70 | 240,000 | 1,108,000 | 252,400 | 103,400 | 0 | 0 | 1,703,800 |
| 東京都 | 私立 | 東洋大学 | 生命科学部 | 応用生物科学科 | 微生物利用コース | 100 | 250,000 | 970,000 | 260,000 | 70,000 | 0 | 0 | 1,550,000 |
| 東京都 | 私立 | 日本大学 | 生物資源科学部 | 生命化学科 | | 130 | 260,000 | 1,050,000 | 200,000 | 150,000 | 0 | 0 | 1,660,000 |
| 東京都 | 私立 | 法政大学 | 生命科学部 | 応用植物科学科 | グリーンテクノロジーコース | 78 | 180,000 | 1,111,000 | 312,000 | 147,000 | 0 | 0 | 1,750,000 |
| 神奈川県 | 私立 | 神奈川工科大学 | 応用バイオ科学部 | 応用バイオ科学科 | | 120 | 170,000 | 1,370,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,540,000 |
| 静岡県 | 私立 | 静岡理工科大学 | 理工学部 | 物質生命科学科 | | 60 | 300,000 | 1,240,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,540,000 |
| 東京都 | 私立 | 東京農業大学 | 生命科学部（仮称） | 分子微生物学科（仮称） | | 115 | 270,000 | 760,000 | 230,000 | 250,000 | 0 | 25,600 | 1,535,600 |
| 地域環境科学部 地域創成科学科（仮称） | | | | | | | | | | | | | |
| 東京都 | 私立 | 芝浦工業大学 | システム理工学部 | 環境システム学科 | | 80 | 280,000 | 1,099,000 | 283,000 | 0 | 0 | 0 | 1,662,000 |
| 東京都 | 私立 | 中央大学 | 理工学部 | 都市環境学科 | 環境クリエーターコース | 80 | 240,000 | 1,108,000 | 252,400 | 103,400 | 0 | 0 | 1,703,800 |
| 東京都 | 私立 | 東京都市大学 | 環境学部 | 環境創生学科 | | 90 | 270,000 | 1,220,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,490,000 |
| 東京都 | 私立 | 東邦大学 | 理学部 | 生命圈環境科学科 | | 60 | 300,000 | 992,000 | 0 | 0 | 300,000 | 0 | 1,592,000 |
| 東京都 | 私立 | 日本大学 | 生物資源科学部 | 生物環境工学科 | | 130 | 260,000 | 1,050,000 | 200,000 | 150,000 | 0 | 0 | 1,660,000 |
| 東京都 | 私立 | 明治大学 | 農学部 | 農学科 | 食糧生産・環境コース | 130 | 200,000 | 1,129,000 | 0 | 80,000 | 312,000 | 0 | 1,721,000 |
| 東京都 | 私立 | 東京農業大学 | 地域環境科学部 | 地域創成科学科（仮称） | | 80 | 270,000 | 760,000 | 230,000 | 150,000 | 0 | 25,600 | 1,435,600 |
| 国際食料情報学部 国際食農科学科（仮称） | | | | | | | | | | | | | |
| 千葉県 | 私立 | 城西国際大学 | 環境社会学部 | 環境社会学科 | | 80 | 300,000 | 770,000 | 240,000 | 0 | 0 | 0 | 1,310,000 |
| 東京都 | 私立 | 東洋大学 | 食環境科学部 | 食環境科学科 | フードサイエンス専攻 (学科合計) | 120 | 250,000 | 970,000 | 260,000 | 70,000 | 0 | 0 | 1,550,000 |
| 東京都 | 私立 | 日本大学 | 生物資源科学部 | 国際地域開発学科 | 農業・農村開発コース | 130 | 260,000 | 850,000 | 170,000 | 100,000 | 0 | 0 | 1,380,000 |
| 東京都 | 私立 | 法政大学 | 生命科学部 | 応用植物科学科 | グリーンマネジメントコース | 78 | 180,000 | 1,111,000 | 312,000 | 147,000 | 0 | 0 | 1,750,000 |
| 東京都 | 私立 | 明治大学 | 農学部 | 食料環境政策学科 | | 130 | 200,000 | 1,020,000 | 0 | 40,000 | 307,000 | 0 | 1,567,000 |
| 東京都 | 私立 | 明治大学 | 農学部 | 農学科 | 総合農学コース | 130 | 200,000 | 1,129,000 | 0 | 80,000 | 312,000 | 0 | 1,721,000 |
| 東京都 | 私立 | 東京農業大学 | 国際食料情報学部 | 国際食農科学科（仮称） | | 100 | 270,000 | 760,000 | 230,000 | 200,000 | 0 | 25,600 | 1,485,600 |

注1) 各大学情報については、学生納付金等調査（平成27年度入学生（日本私立大学団体連合））および平成26年度全国大学一覧（公益財團法人人文教協会）より転載。

注2) 各大学の学費については、諸会費などを含んでいない場合があるため、概算として参考にして下さい。

注3) 東京農業大学の学費は予定であり、変更する場合があります。

お問い合わせ先

東京農業大学 大学改革推進室
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
電話：03-5477-2650 FAX：03-5477-2804

「農のこころ」を育み “生きる”を支える東京農業大学



東京農業大学 学長
農学博士 高野 克己



2017年4月設置構想中

● 生命科学部※<仮称> 世田谷キャンパス

新設 バイオサイエンス学科※<仮称> 定員140名

新設 分子生命化学科※<仮称> 定員80名

新設 分子微生物学科※<仮称> 定員115名

● 地球環境科学部

新設 地域創成科学科※<仮称> 定員80名

新設 国際食料情報学部

新設 国際食農科学科※<仮称> 定員100名

東京農大は生命・食料・環境・建築・エネルギー・地域再生など、人類の生存に関する幅広い農学領域を対象に、国内外の様々な課題解決に取り組んでいます。

人類はその軼智により自然の恵みを享受し、高度に複雑化した現代社会を創造しました。一方では、人口増加による食料危機、水不足、生活環境の悪化、経済格差の拡大など、地球とそこに生きる多様な生き物、人類の生存を脅かす課題に直面しています。東京農大は建学の精神「人物を畑に還す」と教育・研究の理念「実学主義」に基づき、世界水準の先端研究と生命を大切にする「農のこころ」を育む実践教育を推進し、未来の問題を解決できる人物をグローバル社会に輩出します。

東京農大は農と生命を科学し、“生きる”を支えるエシカル（環境保全・社会貢献など）な社会の構築を目指します。

●国際食料情報学部

東京農大が世界無形文化遺産に、「能日本舞」や「伊勢舞」等が世界農業遺産に登録されるなど、近年、伝統的農業文化に対する関心が高まっています。こうした背景から、農業生産をとりまく社会では、地域の農業文化を継承し世界に発信していくことのできる人材、また、農業を基盤とした新技術開発による農業生産の発展に貢献できる人材、さらには世界市場に向けた経営戦略を実現できる人材の育成がかけられています。そのため、日本と世界の食料・農業・農村問題の解決のために、総合的に情報を発信する人材を育むことを目的としています。そのためには、農業生産と研究活動の成果によつて、将来にわたり社会問題の解決に貢献し国際的に活躍できる人材の育成をめざします。

TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE FOUNDED IN 1891

※学部・学科の概要等は予定であり、変更する場合があります。

多様な農学分野をカバーする 3キャンパス6学部22学科へ

東京農業大学

生命科学部

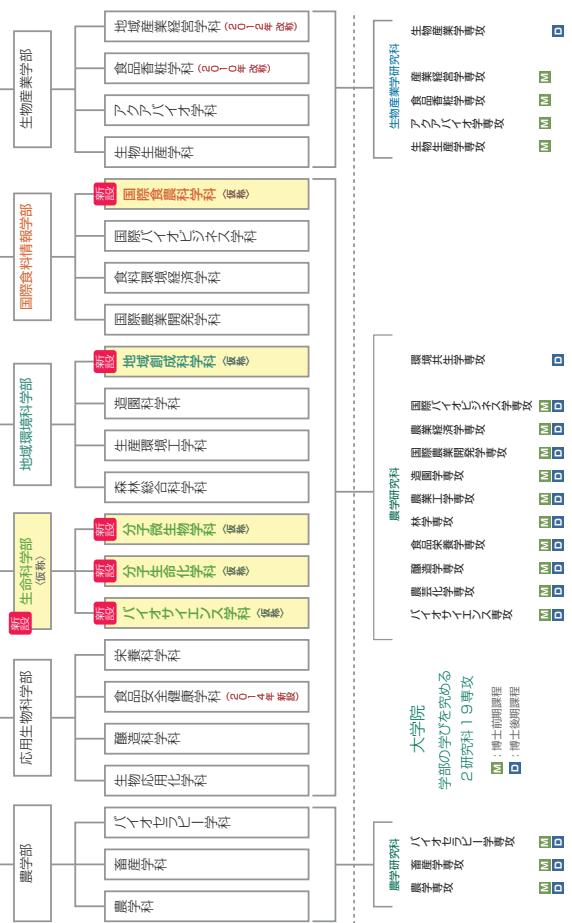
分子生命化学科※1

<仮称／設置構想中>

厚木キャンパス

世田谷キャンパス

オホーツクキャンパス

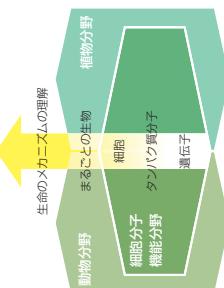


バイオサイエンス学科※1

<仮称／設置構想中>

生物の遺伝子の力を活用して未来に貢献する

生命のメカニズムの理解



講義では最先端の知識を学習します。

予想される研究テーマ

- 取得資格（予定） 中学校卒業・一種免許証（理科）②
- 教育課程の特色 中等教育訓練・高等学校教諭・高等教育教諭准任者、学生、教員、司書
- 予想される職場 大学院、バイオ企業、製薬企業、環境科学、公務員、教員、健康保険、検査業界、環境業界、公務員、教員など

※ 1 学部・学科の概要等は予定であり、変更する場合があります。
※ 2 課程記述申請予定。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が実現どなる可能性があります。

分子生命化学科※1

<仮称／設置構想中>

原子・分子の観点から生命、農業、生態系を化学する

生物圏のある「生命」現象には、原子・分子が関わっています。この原子・分子の働きを化学的な視点で解き明かしていくことで、これから農学の可能性をより広げていくことを目といたします。精密有機合成化学、天然物化学を中心とした高分子化学、分析化学を基礎とする研究・教育を開発、また大学院への進学者サポートし、汎用性のある基礎力を有する人材を育成します。さらに、農場実習などの「農の実習」ための実習も行います。

■ 取得資格（予定）

中学校卒業・高等学校教諭・一種免許証（理科）②

危険物取扱責任者、学生、教員、司書

■ 予想される職場

大学院、学系企業、製薬企業、公務員、環境科学、生物関連企業など

予想される研究テーマ

- 生物の機能・行動に影響を与える物質の設計
- 植物・動物・微生物からの新規有用化合物の探索および分離
- 生物学的手法によるハイブリッドの創出
- 細胞を構成する有機分子の合成



分子微生物学科※1

<仮称／設置構想中>

微生物を主眼とした生物学的実験を実施する

微生物は地球上の最もシンプルな生命体。あらゆる環境に生息しますが、これまでに見つかっている微生物種はほんの数%にすぎません。植物や動物、そして広大な地球環境を研究対象として、これまで未解明であったミクロの世界を先端科学からで見求ることで、未來の農業へ果敢に挑戦する強創性に富む人材の育成を目指します。

予想される研究テーマ

- 微生物研究
- フロバイオティクスと健康
- 病原菌応答
- 生物間相互作用
- バイオインフォマティクス
- デノム
- フィードバック
- 微生物資源
- 細胞内細菌
- 腸内細菌
- 微生物共生
- 微生物
- サイエンス

※ 1 学部・学科の概要等は予定であり、変更する場合があります。
※ 2 課程記述申請予定。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が実現どなる可能性があります。

分子生命化学科※1

<仮称／設置構想中>

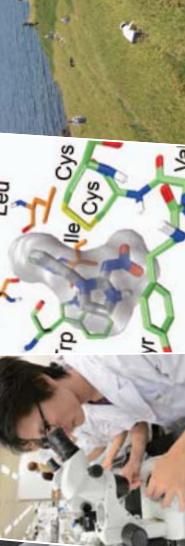
分子と生命の化学



生物の機能・行動を化学的に理解するための手法には、分子生物学的手法によるハイブリッドの創出、細胞を構成する有機分子の合成など、多くの「農の実習」ための実習を行います。

予想される研究テーマ

- 生物の機能・行動に影響を与える物質の設計
- 植物・動物・微生物からの新規有用化合物の探索および分離
- 生物学的手法によるハイブリッドの創出
- 細胞を構成する有機分子の合成



分子微生物学科※1

<仮称／設置構想中>

微生物を主眼とした生物学的実験を実施する

微生物は地球上の最もシンプルな生命体。あらゆる環境に生息しますが、これまでに見つかっている微生物種はほんの数%にすぎません。植物や動物、そして広大な地球環境を研究対象として、これまで未解明であったミクロの世界を先端科学からで見求ることで、未來の農業へ果敢に挑戦する強創性に富む人材の育成を目指します。

予想される研究テーマ

- 微生物研究
- フロバイオティクスと健康
- 病原菌応答
- 生物間相互作用
- バイオインフォマティクス
- デノム
- フィードバック
- 微生物資源
- 細胞内細菌
- 腸内細菌
- 微生物共生
- 微生物
- サイエンス

※ 1 学部・学科の概要等は予定であり、変更する場合があります。
※ 2 課程記述申請予定。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が実現どなる可能性があります。



学生がひろがる「ユリノキ広場」は学生の人気スポット



6階建ての講義棟・1号館

緑あふれる都市型キャンパス

東京農業大学のメインキャンパスである世田谷キャンパスは、小田急線駅を最も乗り換える駅です。新宿まで30分強、渋谷へは正門前バス停からやはり30分程度ということもあり、非常に都心にアクセスしやすい立地にあります。

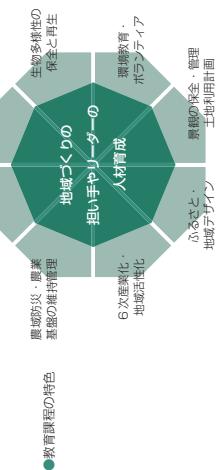
広い敷地内には、100種類以上の樹木があられ、落ち葉した雰囲気が包まれています。講義棟である1号館、図書館やコンピュータセンターが入った「農大アカデミーセンター」など、新校舎も次々に誕生しています。



www.nodai.ac.jp

お問い合わせ先
〒156-8502 東京都世田谷区立正1-1-1
TEL:03-5477-2226 (入試センター)

持続可能な循環型社会の再構築とそれを担う人材の育成



予想される研究テーマ

- 教育課程の特色
 - 地域資源の評価・管理
 - 地域の持続管理
 - 地域社会や都市交流
 - ◆ 地域防災
 - ◆ 農業施設
 - ◆ 職業訓練
 - ◆ 現場教育
 - ◆ SATOYAMA
 - ◆ 土地利用
 - ◆ 自然再生
- 伝統的な文化や知識と最新の技術を融合させ、持続可能な土地利用の構造、地域づくりの実現に貢献します。地域が抱える問題を総合的に捉え、生物多様性や生態系に配慮した地利運用、地域防災に関連する保全・管理技術、環境教育、改築案、地域マネジメントといった実践型教育を通じて、地域つくりの担い手やリーダーになり得る人材の育成を目指します。



国際食農科学部

※1 世界に向けた日本の食農技術・文化を展開



予想される研究テーマ

- 教育課程の特色
 - 植物の生殖技術
 - 食農文化・政策
 - 和食 日本人の伝統的な食文化
 - ◆ 世界農業遺産 ◆ 伝統野菜 ◆ 地域資源の利用
 - ◆ 農業の教育力 ◆ 食文化リサーチ ◆ 6次産業化 ◆ フェアトレード
 - ◆ 農業地図 ◆ スローフード ◆ フードアート
 - ◆ リースム ◆ 地産地消 ◆ フードアート
- 食の文化に関する研究テーマ
 - 食文化・農業文化
 - 食農文化系・食品科学系
 - 生産科学系・農業政策系
 - 食農文化系・食農政策系
 - 食農文化系・食農政策系

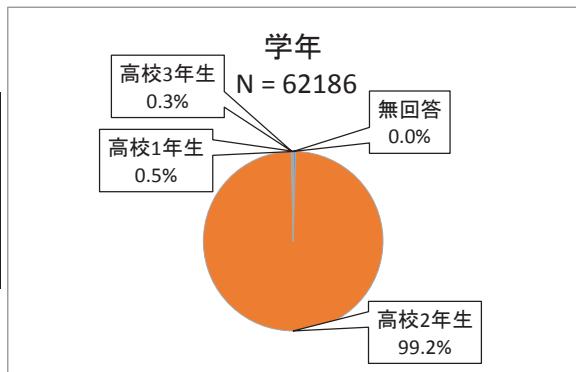
予想される研究テーマ

- 食文化・農業文化における地域活性化とダイバーシティ戦略
- 都市農村交流による地域活性化とダイバーシティ戦略
- 食文化・農業文化の有効利用
- 食文化・農業文化の有効利用
- 食文化・農業文化の有効利用
- 伝統野菜の生産・販売に関する研究
- 食文化・農業文化の有効利用
- 世界のエアポートカードによる国際貿易に関する研究
- 海外における学校菜園の教育効果
- 食育プログラムの開発

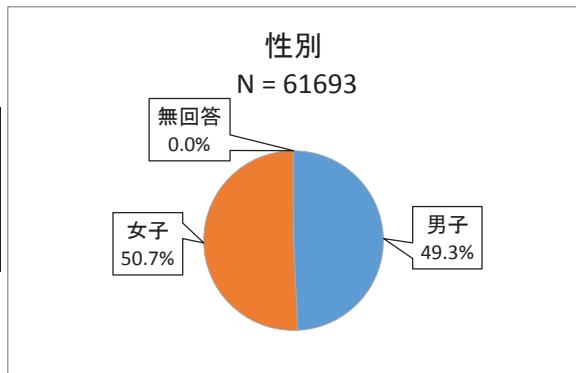
※1 学部・学科の概要等は予定であり、変更する場合があります。
※2 課程認定申請予定。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更となる可能性があります。

单纯集計表

| 学年 | | | |
|-----|----------|--------|-------|
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
| 1 | 高校1年生 | 285 | 0.5 |
| 2 | 高校2年生 | 61,693 | 99.2 |
| 3 | 高校3年生 | 183 | 0.3 |
| | 無回答 | 25 | 0.0 |
| | N (%ベース) | 62,186 | 100 |



| 性別 | | | |
|-----|----------|--------|-------|
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
| 1 | 男子 | 30,388 | 49.3 |
| 2 | 女子 | 31,279 | 50.7 |
| | 無回答 | 26 | 0.0 |
| | N (%ベース) | 61,693 | 100 |

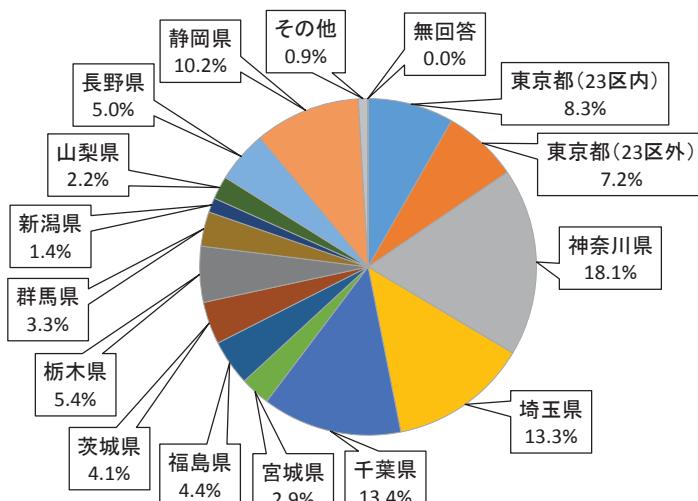


現住所

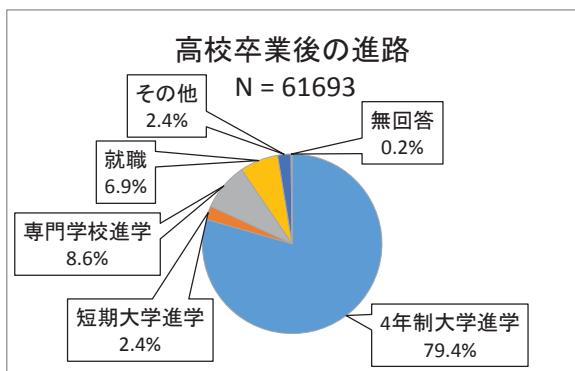
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|-----------|--------|-------|
| 1 | 東京都(23区内) | 5,098 | 8.3 |
| 2 | 東京都(23区外) | 4,460 | 7.2 |
| 3 | 神奈川県 | 11,144 | 18.1 |
| 4 | 埼玉県 | 8,219 | 13.3 |
| 5 | 千葉県 | 8,269 | 13.4 |
| 6 | 宮城県 | 1,764 | 2.9 |
| 7 | 福島県 | 2,709 | 4.4 |
| 8 | 茨城県 | 2,517 | 4.1 |
| 9 | 栃木県 | 3,311 | 5.4 |
| 10 | 群馬県 | 2,042 | 3.3 |
| 11 | 新潟県 | 865 | 1.4 |
| 12 | 山梨県 | 1,367 | 2.2 |
| 13 | 長野県 | 3,078 | 5.0 |
| 14 | 静岡県 | 6,280 | 10.2 |
| 15 | その他 | 543 | 0.9 |
| | 無回答 | 27 | 0.0 |
| | N (%ベース) | 61,693 | 100 |

現住所

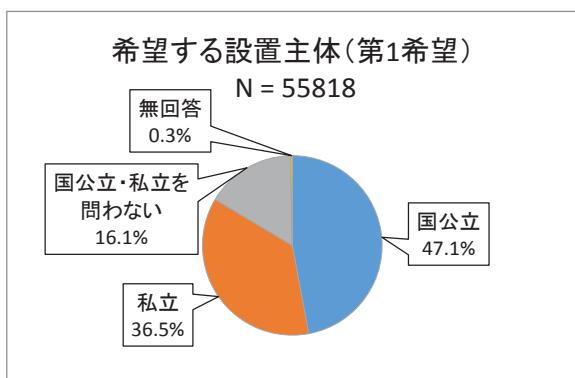
N = 61693



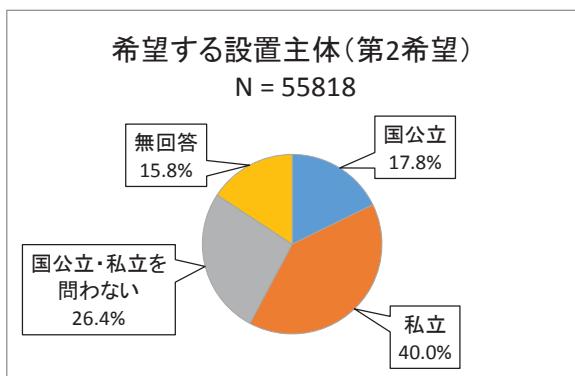
| 高校卒業後の進路 | | | |
|----------|---------|--------|-------|
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
| 1 | 4年制大学進学 | 49,007 | 79.4 |
| 2 | 短期大学進学 | 1,503 | 2.4 |
| 3 | 専門学校進学 | 5,308 | 8.6 |
| 4 | 就職 | 4,278 | 6.9 |
| 5 | その他 | 1,472 | 2.4 |
| | 無回答 | 125 | 0.2 |
| N (%ベース) | | 61,693 | 100 |



| 希望する設置主体(第1希望) | | | |
|----------------|-------------|--------|-------|
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
| 1 | 国公立 | 26,280 | 47.1 |
| 2 | 私立 | 20,360 | 36.5 |
| 3 | 国公立・私立を問わない | 8,994 | 16.1 |
| | 無回答 | 184 | 0.3 |
| N (%ベース) | | 55,818 | 100 |



| 希望する設置主体(第2希望) | | | |
|----------------|-------------|--------|-------|
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
| 1 | 国公立 | 9,910 | 17.8 |
| 2 | 私立 | 22,354 | 40.0 |
| 3 | 国公立・私立を問わない | 14,752 | 26.4 |
| | 無回答 | 8,802 | 15.8 |
| N (%ベース) | | 55,818 | 100 |

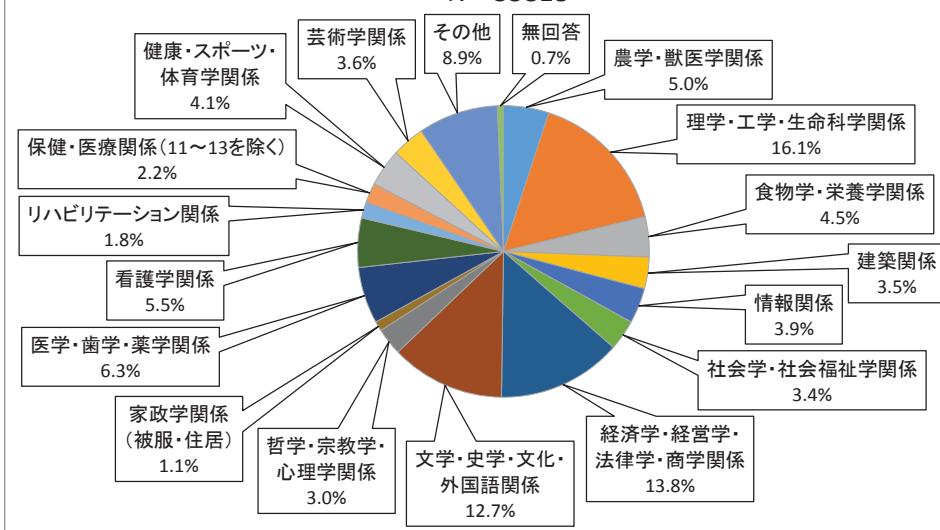


興味のある分野(第1位)

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|-------------------|--------|-------|
| 1 | 農学・獣医学関係 | 2,810 | 5.0 |
| 2 | 理学・工学・生命科学関係 | 8,998 | 16.1 |
| 3 | 食物学・栄養学関係 | 2,492 | 4.5 |
| 4 | 建築関係 | 1,953 | 3.5 |
| 5 | 情報関係 | 2,192 | 3.9 |
| 6 | 社会学・社会福祉学関係 | 1,892 | 3.4 |
| 7 | 経済学・経営学・法律学・商学関係 | 7,695 | 13.8 |
| 8 | 文学・史学・文化・外国語関係 | 7,066 | 12.7 |
| 9 | 哲学・宗教学・心理学関係 | 1,679 | 3.0 |
| 10 | 家政学関係(被服・住居) | 604 | 1.1 |
| 11 | 医学・歯学・薬学関係 | 3,496 | 6.3 |
| 12 | 看護学関係 | 3,054 | 5.5 |
| 13 | リハビリテーション関係 | 985 | 1.8 |
| 14 | 保健・医療関係(11~13を除く) | 1,234 | 2.2 |
| 15 | 健康・スポーツ・体育学関係 | 2,316 | 4.1 |
| 16 | 芸術学関係 | 2,030 | 3.6 |
| 17 | その他 | 4,944 | 8.9 |
| | 無回答 | 378 | 0.7 |
| | N (%ベース) | 55,818 | 100 |

興味のある分野(第1位)

N = 55818

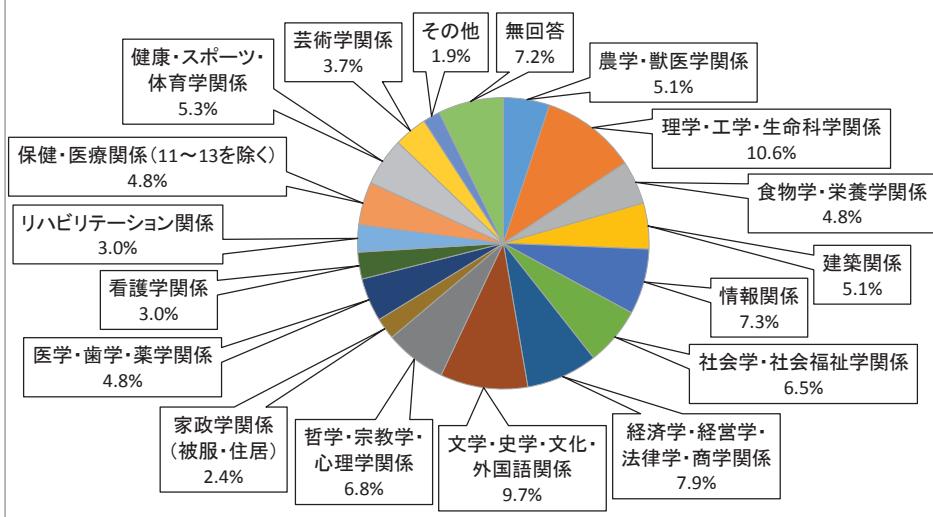


興味のある分野(第2位)

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|-------------------|--------|-------|
| 1 | 農学・獣医学関係 | 2,863 | 5.1 |
| 2 | 理学・工学・生命科学関係 | 5,899 | 10.6 |
| 3 | 食物学・栄養学関係 | 2,701 | 4.8 |
| 4 | 建築関係 | 2,847 | 5.1 |
| 5 | 情報関係 | 4,055 | 7.3 |
| 6 | 社会学・社会福祉学関係 | 3,617 | 6.5 |
| 7 | 経済学・経営学・法律学・商学関係 | 4,422 | 7.9 |
| 8 | 文学・史学・文化・外国語関係 | 5,422 | 9.7 |
| 9 | 哲学・宗教学・心理学関係 | 3,813 | 6.8 |
| 10 | 家政学関係(被服・住居) | 1,337 | 2.4 |
| 11 | 医学・歯学・薬学関係 | 2,686 | 4.8 |
| 12 | 看護学関係 | 1,659 | 3.0 |
| 13 | リハビリテーション関係 | 1,693 | 3.0 |
| 14 | 保健・医療関係(11~13を除く) | 2,660 | 4.8 |
| 15 | 健康・スポーツ・体育学関係 | 2,975 | 5.3 |
| 16 | 芸術学関係 | 2,061 | 3.7 |
| 17 | その他 | 1,065 | 1.9 |
| | 無回答 | 4,043 | 7.2 |
| | N (%ベース) | 55,818 | 100 |

興味のある分野(第2位)

N = 55818

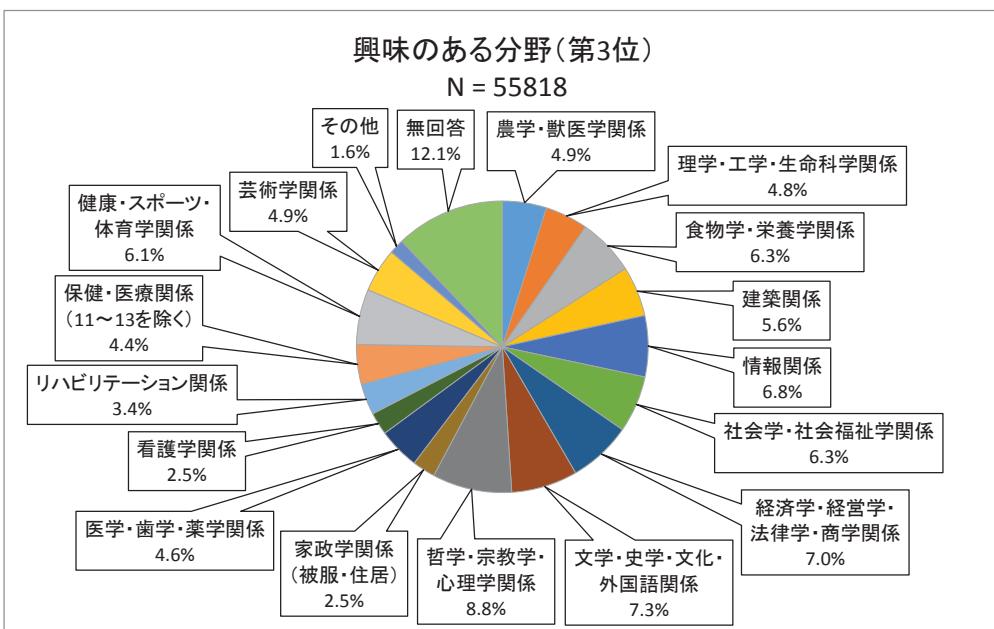


興味のある分野(第3位)

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|-------------------|--------|-------|
| 1 | 農学・獣医学関係 | 2,738 | 4.9 |
| 2 | 理学・工学・生命科学関係 | 2,652 | 4.8 |
| 3 | 食物学・栄養学関係 | 3,539 | 6.3 |
| 4 | 建築関係 | 3,099 | 5.6 |
| 5 | 情報関係 | 3,781 | 6.8 |
| 6 | 社会学・社会福祉学関係 | 3,513 | 6.3 |
| 7 | 経済学・経営学・法律学・商学関係 | 3,911 | 7.0 |
| 8 | 文学・史学・文化・外国語関係 | 4,099 | 7.3 |
| 9 | 哲学・宗教学・心理学関係 | 4,924 | 8.8 |
| 10 | 家政学関係(被服・住居) | 1,417 | 2.5 |
| 11 | 医学・歯学・薬学関係 | 2,564 | 4.6 |
| 12 | 看護学関係 | 1,389 | 2.5 |
| 13 | リハビリテーション関係 | 1,920 | 3.4 |
| 14 | 保健・医療関係(11~13を除く) | 2,466 | 4.4 |
| 15 | 健康・スポーツ・体育学関係 | 3,421 | 6.1 |
| 16 | 芸術学関係 | 2,712 | 4.9 |
| 17 | その他 | 910 | 1.6 |
| | 無回答 | 6,763 | 12.1 |
| | N (%ベース) | 55,818 | 100 |

興味のある分野(第3位)

N = 55818

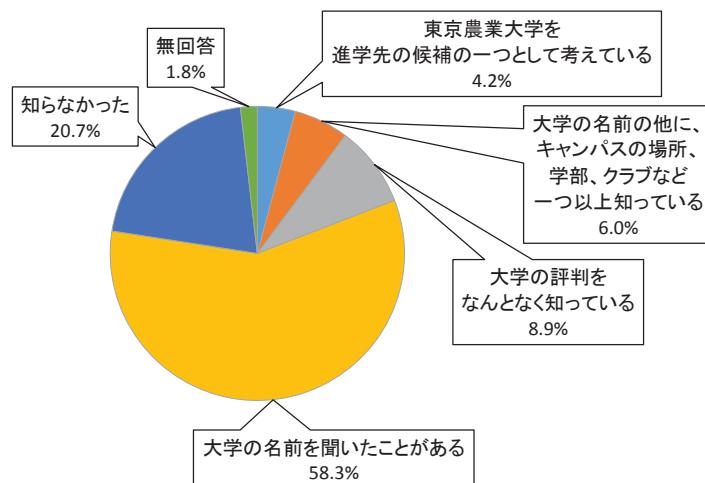


東京農業大学の知名度

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|-------------------------------------|--------|-------|
| 1 | 東京農業大学を進学先の候補の一つとして考えている | 2,321 | 4.2 |
| 2 | 大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部、クラブなど一つ以上知っている | 3,368 | 6.0 |
| 3 | 大学の評判をなんとなく知っている | 4,986 | 8.9 |
| 4 | 大学の名前を聞いたことがある | 32,552 | 58.3 |
| 5 | 知らなかった | 11,564 | 20.7 |
| | 無回答 | 1,027 | 1.8 |
| | N (%ベース) | 55,818 | 100 |

東京農業大学の知名度

N = 55818

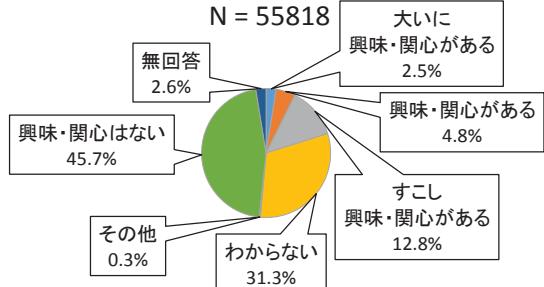


新学部・新学科への興味・関心

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|-------------|--------|-------|
| 1 | 大いに興味・関心がある | 1,398 | 2.5 |
| 2 | 興味・関心がある | 2,706 | 4.8 |
| 3 | すこし興味・関心がある | 7,143 | 12.8 |
| 4 | わからない | 17,461 | 31.3 |
| 5 | その他 | 160 | 0.3 |
| 6 | 興味・関心はない | 25,522 | 45.7 |
| | 無回答 | 1,428 | 2.6 |
| | N (%ベース) | 55,818 | 100 |

新学部・新学科への興味・関心

N = 55818

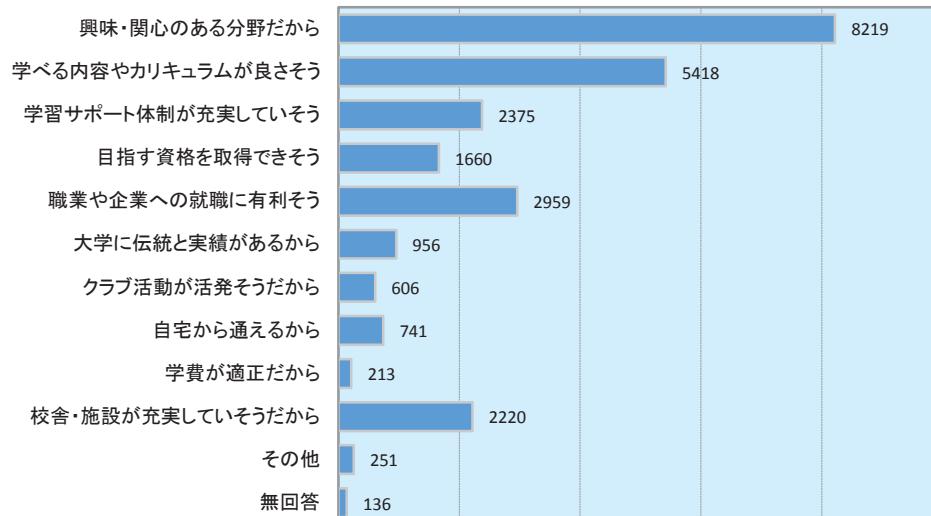


興味・関心の理由(複数回答)

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|-------------------|--------|-------|
| 1 | 興味・関心のある分野だから | 8,219 | 73.1 |
| 2 | 学べる内容やカリキュラムが良さそう | 5,418 | 48.2 |
| 3 | 学習サポート体制が充実していそう | 2,375 | 21.1 |
| 4 | 目指す資格を取得できそう | 1,660 | 14.8 |
| 5 | 職業や企業への就職に有利そう | 2,959 | 26.3 |
| 6 | 大学に伝統と実績があるから | 956 | 8.5 |
| 7 | クラブ活動が活発そうだから | 606 | 5.4 |
| 8 | 自宅から通えるから | 741 | 6.6 |
| 9 | 学費が適正だから | 213 | 1.9 |
| 10 | 校舎・施設が充実していそうだから | 2,220 | 19.7 |
| 11 | その他 | 251 | 2.2 |
| | 無回答 | 136 | 1.2 |
| | N (%ペース) | 11,247 | 100 |

興味・関心の理由(複数回答)

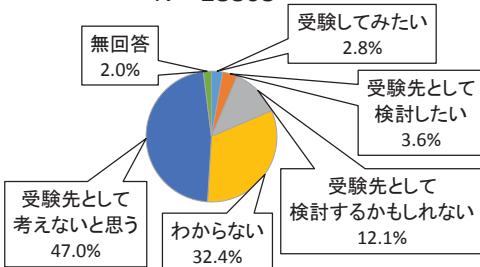
N = 11247



| 新学部・新学科への受験意向 | | | |
|---------------|------------------|--------|-------|
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
| 1 | 受験してみたい | 798 | 2.8 |
| 2 | 受験先として検討したい | 1,048 | 3.6 |
| 3 | 受験先として検討するかもしれない | 3,504 | 12.1 |
| 4 | わからない | 9,365 | 32.4 |
| 5 | 受験先として考えないと思う | 13,579 | 47.0 |
| | 無回答 | 574 | 2.0 |
| | N (%ベース) | 28,868 | 100 |

新学部・新学科への受験意向

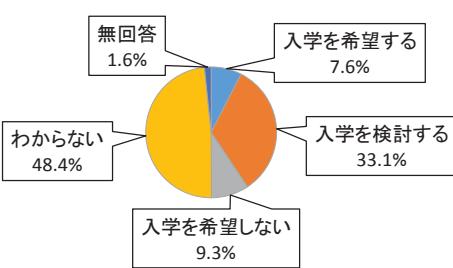
N = 28868



| 新学部・新学科への入学意向 | | | |
|---------------|----------|--------|-------|
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
| 1 | 入学を希望する | 1,113 | 7.6 |
| 2 | 入学を検討する | 4,870 | 33.1 |
| 3 | 入学を希望しない | 1,362 | 9.3 |
| 4 | わからない | 7,128 | 48.4 |
| | 無回答 | 242 | 1.6 |
| | N (%ベース) | 14,715 | 100 |

新学部・新学科への入学意向

N = 14715

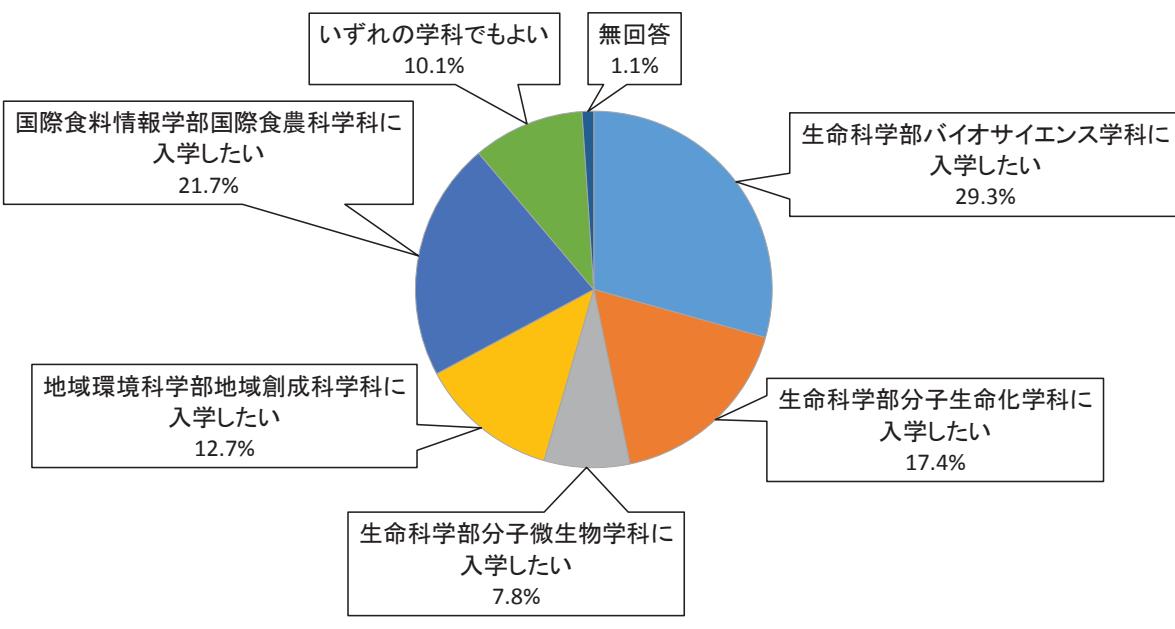


入学を希望する新学部・新学科(第1希望)

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|-----------------------|-------|-------|
| 1 | 生命科学部バイオサイエンス学科に入学したい | 1,756 | 29.3 |
| 2 | 生命科学部分子生命化学科に入学したい | 1,041 | 17.4 |
| 3 | 生命科学部分子微生物学科に入学したい | 464 | 7.8 |
| 4 | 地域環境科学部地域創成科学科に入学したい | 757 | 12.7 |
| 5 | 国際食料情報学部国際食農科学科に入学したい | 1,297 | 21.7 |
| 6 | いずれの学科でもよい | 605 | 10.1 |
| | 無回答 | 63 | 1.1 |
| | N (%ベース) | 5,983 | 100 |

入学を希望する新学部・新学科(第1希望)

N = 5983

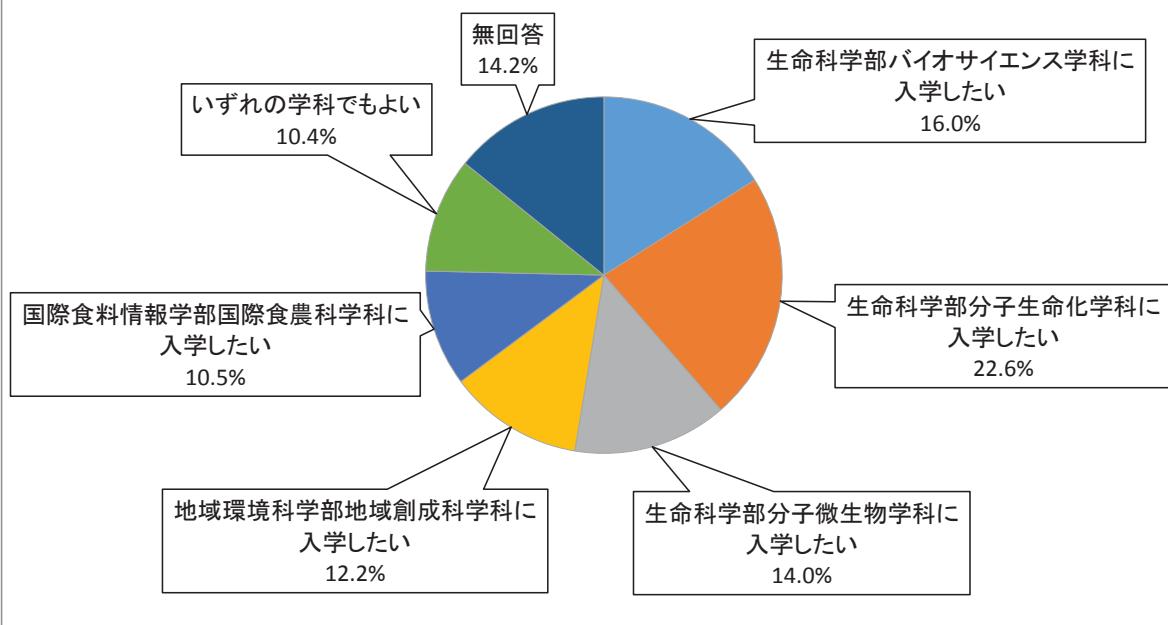


入学を希望する新学部・新学科(第2希望)

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|-----------------------|-------|-------|
| 1 | 生命科学部バイオサイエンス学科に入学したい | 960 | 16.0 |
| 2 | 生命科学部分子生命化学科に入学したい | 1,351 | 22.6 |
| 3 | 生命科学部分子微生物学科に入学したい | 837 | 14.0 |
| 4 | 地域環境科学部地域創成科学科に入学したい | 730 | 12.2 |
| 5 | 国際食料情報学部国際食農科学科に入学したい | 631 | 10.5 |
| 6 | いずれの学科でもよい | 624 | 10.4 |
| | 無回答 | 850 | 14.2 |
| | N (%ベース) | 5,983 | 100 |

入学を希望する新学部・新学科(第2希望)

N = 5983



資料6

新学部・新学科と類似する近隣の大学・学部・学科との初年度学生納付金の比較

| 所在地 | 区分 | 大学名 | 学部名 | 学科名 | 入学金 | 授業料 | 施設設備費 | 実験・実習・体育費 | 教育充実費特別納付金 | 維持費他 | 合計 |
|-----------------------------|----|------------|-----------|----------------|---------|-----------|---------|-----------|------------|--------|-----------|
| 生命科学部 バイオサイエンス学科（仮称） | | | | | | | | | | | |
| 東京都 | 私立 | 玉川大学 | 農学部 | 生命化学科 | 250,000 | 1,029,000 | 250,000 | 275,200 | 0 | 0 | 1,804,200 |
| 東京都 | 私立 | 帝京科学大学 | 生命環境学部 | 生命科学科 | 200,000 | 860,000 | 200,000 | 180,000 | 0 | 40,000 | 1,480,000 |
| 東京都 | 私立 | 東洋大学 | 生命科学部 | 生命科学科 | 250,000 | 970,000 | 260,000 | 70,000 | 0 | 0 | 1,550,000 |
| 東京都 | 私立 | 日本大学 | 工学部 | 生命応用化学科 | 260,000 | 900,000 | 220,000 | 80,000 | 0 | 0 | 1,460,000 |
| 東京都 | 私立 | 日本獣医生命科学大学 | 応用生命科学部 | 食品科学科 | 250,000 | 750,000 | 300,000 | 100,000 | 200,000 | 20,000 | 1,620,000 |
| 東京都 | 私立 | 明治大学 | 農学部 | 農芸化学科 | 200,000 | 1,129,000 | 0 | 80,000 | 312,000 | 0 | 1,721,000 |
| 上記6大学の平均 | | | | | 235,000 | 939,667 | 205,000 | 130,867 | 85,333 | 10,000 | 1,605,867 |
| 東京都 | 私立 | 東京農業大学 | 生命科学部（仮称） | バイオサイエンス学科（仮称） | 270,000 | 760,000 | 230,000 | 250,000 | 0 | 25,600 | 1,535,600 |
| 生命科学部 分子生命化学科（仮称） | | | | | | | | | | | |
| 東京都 | 私立 | 青山学院大学 | 理工学部 | 化学・生命科学科 | 200,000 | 1,191,000 | 257,000 | 90,000 | 0 | 0 | 1,738,000 |
| 東京都 | 私立 | 工学院大学 | 先進工学部 | 生命化学科 | 200,000 | 998,000 | 300,000 | 100,000 | 0 | 0 | 1,598,000 |
| 東京都 | 私立 | 東京理科大学 | 生命科学部 | 分子生命科学科 | 260,000 | 1,110,000 | 480,000 | 0 | 0 | 0 | 1,850,000 |
| 東京都 | 私立 | 日本大学 | 生産工学部 | 応用分子化学科 | 260,000 | 1,000,000 | 220,000 | 80,000 | 0 | 0 | 1,560,000 |
| 東京都 | 私立 | 明星大学 | 理工学部 | 総合理工学科 | 250,000 | 940,000 | 300,000 | 100,000 | 0 | 0 | 1,590,000 |
| 神奈川県 | 私立 | 神奈川大学 | 工学部 | 物質生命化学科 | 300,000 | 760,000 | 310,000 | 150,000 | 0 | 0 | 1,520,000 |
| 上記6大学の平均 | | | | | 245,000 | 999,833 | 311,167 | 86,667 | 0 | 0 | 1,642,667 |
| 東京都 | 私立 | 東京農業大学 | 生命科学部（仮称） | 分子生命化学科（仮称） | 270,000 | 760,000 | 230,000 | 250,000 | 0 | 25,600 | 1,535,600 |
| 生命科学部 分子微生物学科（仮称） | | | | | | | | | | | |
| 東京都 | 私立 | 中央大学 | 理工学部 | 生命科学科 | 240,000 | 1,108,000 | 252,400 | 103,400 | 0 | 0 | 1,703,800 |
| 東京都 | 私立 | 東洋大学 | 生命科学部 | 応用生物科学科 | 250,000 | 970,000 | 260,000 | 70,000 | 0 | 0 | 1,550,000 |
| 東京都 | 私立 | 日本大学 | 生物資源科学部 | 生命化学科 | 260,000 | 1,050,000 | 200,000 | 150,000 | 0 | 0 | 1,660,000 |
| 東京都 | 私立 | 法政大学 | 生命科学部 | 応用植物科学科 | 180,000 | 1,111,000 | 312,000 | 147,000 | 0 | 0 | 1,750,000 |
| 神奈川県 | 私立 | 神奈川工科大学 | 応用バイオ科学部 | 応用バイオ科学科 | 170,000 | 1,370,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,540,000 |
| 静岡県 | 私立 | 静岡理科大学 | 理工学部 | 物質生命科学科 | 300,000 | 1,240,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,540,000 |
| 上記6大学の平均 | | | | | 233,333 | 1,141,500 | 170,733 | 78,400 | 0 | 0 | 1,623,967 |
| 東京都 | 私立 | 東京農業大学 | 生命科学部（仮称） | 分子微生物学科（仮称） | 270,000 | 760,000 | 230,000 | 250,000 | 0 | 25,600 | 1,535,600 |
| 地域環境科学部 地域創成科学科（仮称） | | | | | | | | | | | |
| 東京都 | 私立 | 芝浦工業大学 | システム理工学部 | 環境システム学科 | 280,000 | 1,099,000 | 283,000 | 0 | 0 | 0 | 1,662,000 |
| 東京都 | 私立 | 中央大学 | 理工学部 | 都市環境学科 | 240,000 | 1,108,000 | 252,400 | 103,400 | 0 | 0 | 1,703,800 |
| 東京都 | 私立 | 東京都市大学 | 環境学部 | 環境創生学科 | 270,000 | 1,220,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,490,000 |
| 東京都 | 私立 | 東邦大学 | 理学部 | 生命圏環境科学科 | 300,000 | 992,000 | 0 | 0 | 300,000 | 0 | 1,592,000 |
| 東京都 | 私立 | 日本大学 | 生物資源科学部 | 生物環境工学科 | 260,000 | 1,050,000 | 200,000 | 150,000 | 0 | 0 | 1,660,000 |
| 東京都 | 私立 | 明治大学 | 農学部 | 農学科 | 200,000 | 1,129,000 | 0 | 80,000 | 312,000 | 0 | 1,721,000 |
| 上記6大学の平均 | | | | | 258,333 | 1,099,667 | 122,567 | 55,567 | 102,000 | 0 | 1,638,133 |
| 東京都 | 私立 | 東京農業大学 | 地域環境科学部 | 地域創成科学科（仮称） | 270,000 | 760,000 | 230,000 | 150,000 | 0 | 25,600 | 1,435,600 |
| 国際食料情報学部 国際食農科学科（仮称） | | | | | | | | | | | |
| 千葉県 | 私立 | 城西国際大学 | 環境社会学部 | 環境社会学科 | 300,000 | 770,000 | 240,000 | 0 | 0 | 0 | 1,310,000 |
| 東京都 | 私立 | 東洋大学 | 食環境科学部 | 食環境科学科 | 250,000 | 970,000 | 260,000 | 70,000 | 0 | 0 | 1,550,000 |
| 東京都 | 私立 | 日本大学 | 生物資源科学部 | 国際地域開発学科 | 260,000 | 850,000 | 170,000 | 100,000 | 0 | 0 | 1,380,000 |
| 東京都 | 私立 | 法政大学 | 生命科学部 | 応用植物科学科 | 180,000 | 1,111,000 | 312,000 | 147,000 | 0 | 0 | 1,750,000 |
| 東京都 | 私立 | 明治大学 | 農学部 | 食料環境政策学科 | 200,000 | 1,020,000 | 0 | 40,000 | 307,000 | 0 | 1,567,000 |
| 東京都 | 私立 | 明治大学 | 農学部 | 農学科 | 200,000 | 1,129,000 | 0 | 80,000 | 312,000 | 0 | 1,721,000 |
| 上記6大学の平均 | | | | | 231,667 | 975,000 | 163,667 | 72,833 | 103,167 | 0 | 1,546,333 |
| 東京都 | 私立 | 東京農業大学 | 国際食料情報学部 | 国際食農科学科（仮称） | 270,000 | 760,000 | 230,000 | 200,000 | 0 | 25,600 | 1,485,600 |

注1) 各大学情報については、学生納付金等調査（平成27年度入生（日本私立大学団体連合会））より転載しました。

注2) 各大学の学費については、諸会費などを含んでいない場合があります。

注3) 東京農業大学の学費は予定であり、変更する場合があります。

屋上を森に? 壁を花畠に?? 都市空間を 緑で彩る

緑は私たちの心を和ませ、季節の移ろいや生命の躍動感を教えてくれます。近年は都市化が進み、緑に触れる機会も少なくなっていますが、実は地面がない場所でも緑を楽しむことはできるのです。都市空間に緑地を創り、守り、育していく技術を研究している東京農業大学造園科学科の水庭千鶴子准教授にお話を伺いました。

都市の緑を どう創り、守るか

「ここは造園科学科の教員、卒業生、在学生と一緒に作ってたんですよ。」そう言って水庭准教授が案内してくれたのは、東京農業大学世田谷キャンパスの中庭だ。木々に囲まれた緑の芝生の上に立つと、心地よい風が吹き抜け、ここが東京の真ん中だとはとても思えない。昨年4月に約3,000平方㍍の更地に2日間かけて芝を張り、その後の維持管理も水庭准教授の研究室の学生も含めてボランティアで行っている。

また、キャンパス隣接する東京農業大学第一高等学校の屋上庭園も、研究室の卒業生と在学生による力作だ。樹齢100年を超えるヨウマツなどを配した野点のできる和風庭園で、こちらも都心のビルの屋上とは思えないしっとりとした雰囲気が漂う。「たとえコンクリートに囲まれた都会に暮らしていても、やはり緑がほしいですよね。私たちの研究室では、屋上緑化や建物を植物で覆う壁面緑化などの技術について研究し、都市空間にどのように緑地を作り、守っていくかを考えています。」



東京農大の中庭「ユリノキ広場」の作業風景

緑は「生きた 空気清浄機」

緑は私たちの目を楽しませるだけでなく、暮らしに役立つさまざまな効果ももっている。その一つが空気を浄化する作用だ。「室内の空気中に有害な化学物質『ホルムアルデヒド』を含ませ、観葉

※ホルムアルデヒド…建材の接着剤や塗料などに含まれることの多い化学物質で、頭痛や皮膚の炎症といった「シックハウス症候群」を引き起こす。現在は使用制限が設けられている。

植物を置いて実験したところ、植物がこの物質を吸収し、わずか2~3時間で空気が浄化されました。まさに植物は「生きた空気清浄機」なのです。また、土壤や水質を浄化する効果もあるという。

水庭准教授が緑による環境改善効果を研究しているには理由がある。「実家が造園業を営んでいて、子どものころから公園が作られるのを見たくて見てきました。でも、宅地化などでもとからあった緑がすべて伐採され整地されていく様子に、いつか緑が消えてしまうのでは、と危機感を抱いたんです。」緑を守りたい。そのためには、「緑がなくなったら大変だ」ということをみんなに認識してもらわなければ。そんな思いが、こうした研究の原点になったそうだ。

緑がもたらす効果はほかにもある。例えば、屋上緑化をすれば都市の保水力が向上する。近年の「ゲリラ豪雨」のような大量に降った雨水も、屋上緑地にいったん貯めて少しづつ排水することで下水道や河川の氾濫を抑えられる。また、壁面緑化を施せば、真夏でも建物全体の熱上昇を抑制できる。「緑が私たちの生活にいかに役立っているかを伝えことで、「緑は大切なのだ」という思いがみんなの中に根付いてくれれば」と水庭准教授は期待する。

人々のニーズに 合った緑を創る

植物にとって都市空間は快適な生育場所とは言い難い。ビル風や日照不足、乾燥といった厳しい環境にさらされる上、土壤の質も違う。日本の土壤はもともと弱酸性なのだが、都市部にはコンクリートが多いため、そこに含まれているアルカリ性水溶液が溶け出し、土壤が弱アルカリ性に変わりつつあるのだ。このため適応できる植物も以前とは異なり、ツツジやサツキのような酸性土壤を

好み日本古来の植物よりも、オリーブのようなヨーロッパ型の植物のほうが元気に育つそうだ。水庭准教授の研究室では、どんな植物がどのくらい乾燥や寒さ、ビル風などに耐えられるかといった植物の耐環境性を長年研究し、データを蓄積してきた。研究室には緑地開発に関する相談が寄せられることも多く、こうしたデータに基づいて個々の環境条件に最適な植物を提案している。

また、環境条件だけでなく、人々のニーズに合った緑を選ぶことも重要なポイントだ。「この先も緑を守り、残していくためには、みんなから愛される緑を作ることが大切です。最近はクリスマスローズが人気ですが、例えば、日陰を好む植物を日向に植えたいという要望があれば、植物の南側に少し背の高い落葉樹を植えて、夏に日陰を作るといったアドバイスを行い、ニーズに応えます。」

時には、「芝生を屋内で育てたい」(でも、芝生は日光が大好き)、「西日が照りつける場所でモミジを植えたい」(でも、モミジは高温乾燥が苦手)、「狭い空間に大きな木を植えたい」(…),といった難題が寄せられ頭を抱えることもあるが、みんなが楽しめる緑の空間を作っていくために、これからもさまざまな場面で協力していくといふ。「緑を守っていかない。そう思っている人に、ぜひこの研究室と一緒に活動してほしいですね。」



水庭千鶴子准教授

東京農業大学
地域環境科学部 造園科学科
ランドスケープ資源・植物分野 都市緑化技術研究室

緑の効果



東京農業大学「2015年度オープンキャンパス」

オホーツクキャンパス

7/25(土) 26(日)

10:00~16:00 (予約不要)

【プログラム】学科別マニピ体験、入試相談、学外リソース、在学生トークライズ、保護者向け説明会など
連絡先: 0152-46-3814 入試課

厚木キャンパス

8/1(土) 2(日)

10:00~17:00 (予約不要)

【プログラム】学科別マニピ体験、見学ツアー、模擬講義、キャンパスライフ紹介、入試相談、学生生活相談など

世田谷キャンパス

8/2(日) 3(月)

10:00~17:00 (予約不要)

【プログラム】学科別マニピ体験、模擬講義、入試対策講義、キャンパスライフ紹介、学生の取り組みの紹介など
詳細はHPをご覧ください。

みんな
来てね!



樹木の年輪が 教えてくれること

木は、地球上で最も長生きをする生き物だといえるかもしれません。日本にも樹齢1000年を超す古木が現存しています。そして、木が生きてきた歴史が刻まれているのが、幹の内部にある「年輪」です。年輪と気候の関係などを研究している東京農業大学森林総合科学科の桃井尊央助教にお話を伺いました。

すべての木に 年輪があるの？

年輪は、樹木の断面に形成される同心円状の模様だ。樹皮の下にある形成層という部分が、木部を内側に押し込みながら外側に向かって成長していく過程ができる。1年に一つずつ増えるので、年輪を数えれば樹齢がわかる。

「ただし、年輪ができるのは日本のようく季節の違いがはっきりしている地域の樹木。例えば、合板（ベニヤ板）に使われる『ラワン』のように、熱帯などで育つものにはできないんです」と桃井助教が教えてくれた。

年輪の幅は一定ではない。狭いところもあれば広いところもあり、広いほど成長がよかったことを表している。そういうえば、樹木は日の当たる南側がよく成長するから、年輪もそちらに向かって格円になる。だから、山で迷った時は切り株の年輪を見れば方角がわかる、と言わっているけれど、本当だろうか。

「年輪の幅が広いほうが南だ、という説ですね。あれは間違いなんです（笑）。例えば斜面に生えている場合、幹が傾かないように、針葉樹は谷側が、広葉樹は山側がより成長するので年輪が格円になるんです。なので、残念ながら年輪から方角を知ることはできません。でも、年輪を読解すると、もっと面白いことがわかるんですよ」

年輪は過去を測る 「モナシ」

年輪を解析することで得られる情報の一つが、過去の気候変動だ。

桃井助教は東京農業大学奥多摩演習林で、樹木の年輪と、この地域の気候との関係を研究している。調査を進める中で、最近興味深いことがわかつてきたそうだ。2~3月の気温が高いとアカマツなどの針葉樹の年輪の輪が広くなり、低

いとくなるのだ。「樹木が実際に成長するのは4月から10月頃までなのですが、成長の良し悪しは春先の気温の高低によってかなり制限されています」

さらに、過去50年間の年輪幅の年変動と、気温の年変動を照らし合わせたところ、両者の変動パターンはほぼ同じだった。「つまり、樹木には生育地域の気候変動が忠実に反映されているということです。だから、年輪幅の変動を『モナシ』として使えば、たとえ気象データのないはるか昔の気候でも『復元』できるんです」

過去の気候変動を知ることは、今後の環境変化を予測していく上で非常に重要だ。実際に、気象庁などから発表されている気候予測には、年輪幅の変動を元にしたデータも使われている。また、年輪幅の変動を用いれば、遺跡から発掘された古い木製品などがいつ頃作られたかも正確につきとめられるというから驚く。

年輪は気温や降水量といった気候だけでなく、動物や虫による害などからも影響を受ける。「年輪は、私たちが知ることのできない遠い昔のことを記憶し、今に伝えてくれるのです」

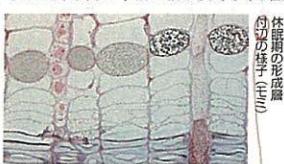
アフリカで 樹木の成長を調査

桃井助教は、奥多摩のみならず、アフリカのジブチ共和国でも樹木の調査を行っている。東京農業大学が推進している沙漠緑化プロジェクトのメンバーの一人として、現地の緑化樹木の選定に取り組んでいるのだ。

「現地の人々の暮らしに役立つように、成長が早く、木材として活用できる樹木を探したい。その前段階として、まずは現地の樹木がどのように成長して

体感! 東京農大/ 収穫祭

受験生必見!
進学説明会も開催



ジブチ共和国の
マングローブ林の
様子

年輪幅
方角がわかるって
ホント？

いるのかを調べています」とはいえ、極度の乾燥地帯だけに年輪がない樹木が多く、樹齢を把握するのも容易ではない。そこで、幹に小さな傷をつけ、新しく形成された細胞を見て成長の仕方や速度を調べています。

もともとは獣医師を目指していたという桃井助教。野鳥や動物を観察するために山歩きをするうちに、動物を守るために彼らのすみかである山を守ることが必要だと気づいて林学を学ぼうと決意した。「そこから木へ、さらには木の幹へ、と興味がどんどん広がっていました。大学3年次にチベットで川下りをしながら採取した樹木の年輪を卒論で研究したことがきっかけで、年輪から離されなくなってしまいました」と笑う。

実は、樹木の年輪からは幅だけではなく密度や年輪に固定された炭素や酸素などの情報を得られるそうだ。「年輪は様々な分野の研究者と連携できる身近で面白いツールです。このような研究も木材研究の一つなんですよ」



桃井尊央 助教
東京農業大学 地域環境科学部 森林総合科学科
木材工学科研究室



農大池が左に見えたら
南に進め!
南!! キヨ
キヨ

あ! 年輪幅が
広いから!
南はあちだ!! ←

こりゃ!
年輪幅と
方角は無関係じゃ!
南はコト

東京農大の学園祭「収穫祭」は世田谷・厚木・オホーツクの3キャンパス合計で15万人以上が訪れるビッグイベント。野菜無料配布をはじめ、個性的な模擬店など、お腹も好奇心も大満足のイベントが目白押しです。受験生に対しては進学説明会で個別相談などを実施。各学科の先生が丁寧にお答えします。ぜひ、東京農大を体感してみてください。

オホーツクキャンパス …… 10/11日・12日 [予約不要]
キャンバスツアー・進学相談会 (10:00~15:00)

世田谷キャンパス …… 10/30金～11/1日 [予約不要]
10/31水～11/1日のみ・進学説明会 (10:00~16:00)

厚木キャンパス …… 10/31水～11/1日 [予約不要]
進学説明会 (10:00~16:00)

■ これらの受験生向けイベントは予約が必要です。なお、オホーツクキャンパスのイベントは旅費一括助成制度もあります。お問い合わせ先0152-48-3814 (オホーツクキャンパス入試課)

世田谷キャンパスツアーアー2015

Event1 キャンパスツアー

学生がキャンパスをご案内！

普段見ることのできない施設や実験室を見学し、東京農業大学のマナビやキャンパスライフを体感しよう！ 詳細[は裏面をご覧ください！]



Event2 在学生トークブース

農大在学生と話しませんか？！

学科別にブースをご用意！

受験勉強や研究室のこと、学生生活など実際に経験をした先輩だからこそお話しできる情報が沢山あります。

Event4 特別講義

Rice 農 Future ~農学から見るお米~

日本人にとって一番身近な食材である「お米」。この「コメ」をテーマに、様々な学科が講義をおこないます。農学が変われば見方が変わる。農学の面白さ、マナビの違いをぜひ味わってください！

5月24日(日)スケジュール

| | | | | |
|--------|---|---------------------|---|---------------------|
| 10:45～ | 食品化学(ー) ～ご飯を化学できるよ～ コメの生産だけではない水田の役割 | 生物応用化学科 食料環境経済学科 | 10:45～ 「米麹」麹力ビを利用して日本の醸造の原点 | 造園科学科 醸造科学科 |
| 12:00～ | タブレットを活用した新しい官農指導メソッド | 国際バイオビジネス学科 | 12:00～ タブレットを活用した新しい官農指導メソッド | 国際バイオビジネス学科 |
| 13:15～ | コメから生まれた栄養学・コメから生まれた食品学 | 栄養科学科 | 13:15～ 食品化学(ー) ～ご飯も化学できるよ～ ご飯と清酒の味はコメの削り方でも決まる？ | 食品安全健康学科 生物応用化学科 |
| 14:30～ | 酒米とこうじ(麹) | 醸造科学科 | 14:30～ コメから生まれた栄養学・コメから生まれた食品学 | 生産環境工学科 栄養科学科 |
| 13:15～ | ご飯と清酒の味はコメの削り方でも決まる？ | 生産環境工学科 | 中国の米消費事情 日本の炊飯器が売れる理由 | 食料環境経済学科 |

Event3 入試ガイダンス

推薦入試、センター試験利用入試、一般入試について入試センター職員が詳しく説明します。
最新の入試情報や併願制度などを知りたい方はぜひご参加ください。



[場所] 1号館1階 131教室
[開催時間] 10:00～16:00
11:00～11:45
13:00～13:45
15:00～15:45
12:00～12:45
14:00～14:45
16:00～16:45

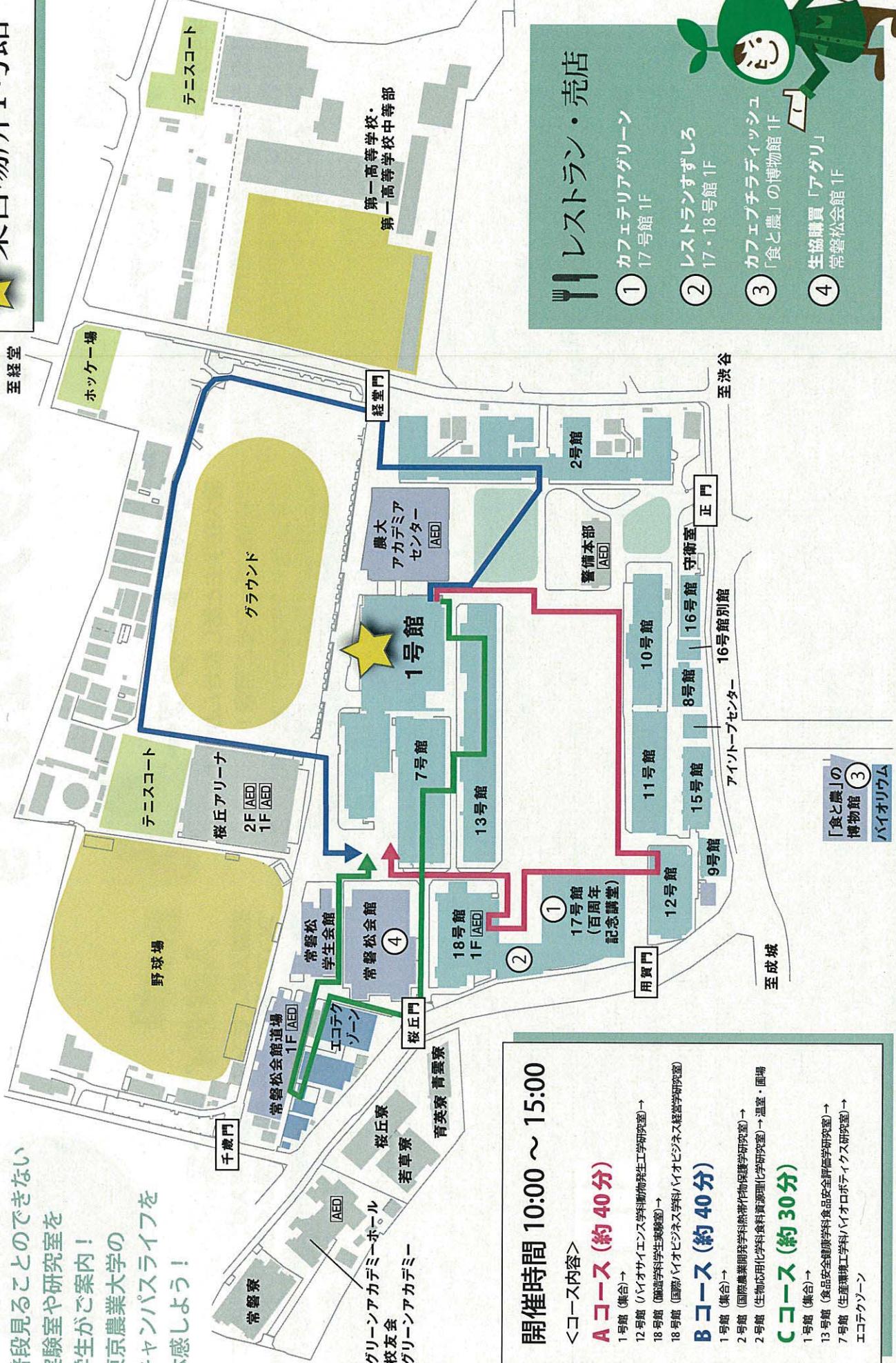


学生食堂も
楽しめます！

2つの学生食堂「レス
トランすずしろ」「カ
フェテリアグリーン」
が本日15時までオ
ンラインで販売しています。
ぜひ食べに来てくださいね！(詳細は裏面で)

ナショナルパスツアーマップ

普段見ることのできない
実験室や研究室を
学生がご案内！
東京農業大学の
キャンパスライフを
体感しよう！



集合場所 1号館



開催時間 10:00 ~ 15:00

<コース内容>

Aコース (約40分)

1号館 (集合) →
12号館 (バイオサイエンス学部動物衛生工学科研究室) →
18号館 (畜産学部学生実験室) →
18号館 (国際バイオビジネス学科「バイオビジネス経営学研究室」)

Bコース (約40分)

1号館 (集合) →
2号館 (国際農業開発学部熱帯作物保育学研究室) →
2号館 (生物応用科学系食料資源処理学研究室) → 溫室・圃場

Cコース (約30分)

1号館 (集合) →
13号館 (食品安全健康学科食品安全評価学研究室) →
7号館 (生産環境工学科/バイオロボティクス研究室) →
エコテックゾーン

レストラン・売店

- ① カフェテリアグリーン
17号館 1F

- ② レストランすずしろ
17・18号館 1F

- ③ カフェチラディッシュ
「食と農」の博物館 1F
常磐松会館 1F

- ④ 生協購買「アグリ」
常磐松会館 1F
バイオリウム





MAP

1号館 | オープンキャンパス
メイン会場

6

→

5

4

3

2

1

DODAI? 農業ヘルプカウンター

東京農業大学が学ぶべきだらう自分でわつたりの
學生はどうぞ?
お問い合わせで何が丁寧に回答。思っている以上幅広い
質問を、お問い合わせ下さい。

MAP

1号館 | オープンキャンパス
メイン会場

学科別マナビ体験

- 432 摂振講義 P7~P8
- 444 バラ地図表示
- 431 國際バイオビジネス学科 P5
- 442 國際農業開発学科 P4
- 443 食料環境経済学科 P4
- 441 生物生産技術学科(短大) P5

学科別マナビ体験

- 331 森林総合科学科 P4
- 332 生産環境工学科 P4
- 333 造園科学科 P4
- 342 酒造科学科(短大) P5
- 343 酒造科学科(短大) P5
- 344 環境緑化学科(短大) P5

学科別マナビ体験

- 231 バイオサイエンス学科 P3
- 232 生物応用化学科 P3
- 242 食品安全健康学科 P3
- 243 栄養学科 P3
- 241 教職

分野別授業

- 211 食品コース
- 212 バイオコース
- 213 菜園コース

学科別マナビ体験

- 131 生物産業学部 P6
- 132 生物生産学部 P6
- 141 農芸学部 P6

入試対策講座

- 113 國際協力センター and 世界学生フォーラム P9

PRESENT!

アンケートに
答えてください。
あなたの「モザイク
アート」や「アート
作品」などもアレンジして
お持ち込み下さい。
アンケートに
答えてください。
あなたの「モザイク
アート」や「アート
作品」などをアレンジして
お持ち込み下さい。

8.2 Sun 8.3 Mon 10:00 ~ 17:00

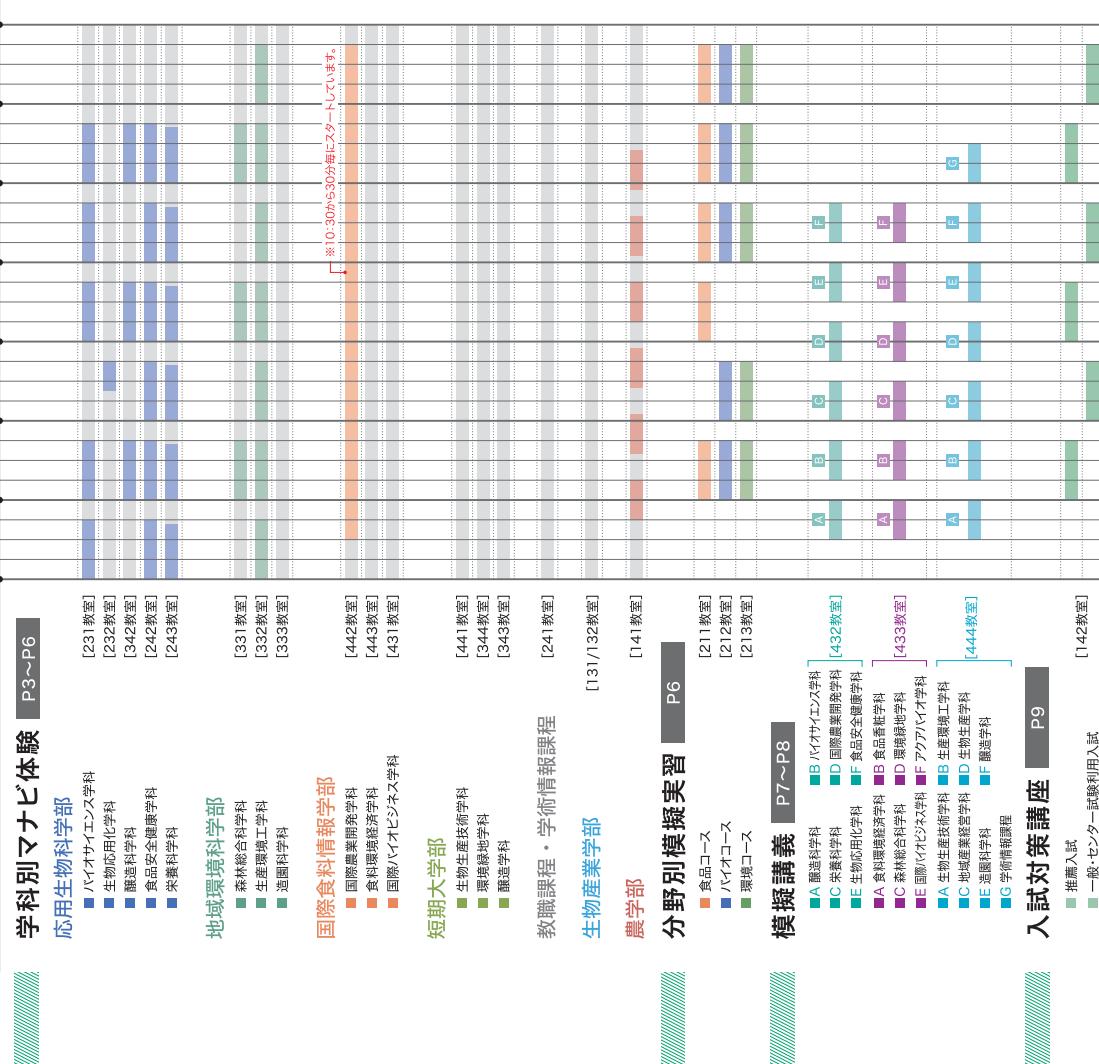
www.nodai.ac.jp

東京農業大学
東京農業大学短期大学部

本気で 向かい合う。 だから 決しい。

「生命、食料、環境、健康、エネルギー」を
キーワードに地球上に生きるすべての生物を対象に、
それらの未知なる可能性、
人間との新たな関係を追求しています。

Time Schedule



Contents

- 学科別マナビ体験 P3~P6
- 応用生物学部 P3~P6
- 地域環境科学部 P3~P6
- 国際食料情報学部 P3~P6
- 短期大学部 P3~P6
- 農学部 P3~P6
- 分野別模擬実習 P6
- 模擬講義 P7~P8
- 入試対策講座 P9
- 模擬講義 P7~P8
- 入試対策講座・他 P9~P10

私たちといっしょに、
「農学」を楽しめましょう。

東京農業大学は設置されている全学科の個性あふれる展示をご覧いただけます。研究室ツアーや学科別進路相談を実施しています。入選自由ですので、お気軽にお越しください！

「食品」「バイオ」「環境」の3分野に分かれた、普段見ることのできない実験室、実習室、触れるこのできない実験器具などを体験できます。ご希望のコースが決まつたら2階集合教室へ！

東京農大の授業を実際に受講してみませんか？30分の講義を体験することで、学科の学びももっとよくわかるかも！各講義の内容は、詳細ページをご覧ください。

推奨入試および一般・センター試験利用入試の説明会を実施。
推薦入試で合格した1年次生の体験談を聞くこともできます！

他

…随時開催

まだまだキャンバスには見どころがいい

SEITAGAYA PADUS



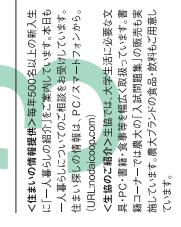
豊かな緑の中を散策しながら、
東京農大の魅力に出会おう！



本日公開中の建物
その他用物への立ち入りはご遠慮ください。
周年記念室は教室のみ立ち入り可能です。



住まい情報＆生協



「食と農」の博物館



バイオリウム



農学フェス



パネル展示階

4階 ラウンジ
入試 対策 補講 座他

3階 ラウンジ
エクスキューションセンター・一一般の方も受講可能な体験・実習など
コンピューターセンター・学内のネットワークやパソコン設備などに
ついて
大学院課・大学院に開かれる全て

バイオリウム

2階
学事課・各学科で取得できる資格
キャリアセンター・卒業後の進路・就職活動について
教職課程・学術課程

休憩可能場所 1号館の各所に充電できる椅子があります。
■ カフェテリア(グリーン) ■ レストラン(オオナシ) ■ 「食と農」の博物館カフェ
10:00~7:00 9:00~16:30 (食事は11:00~L.O.16:00)
(L.O. 16:00)

キヤン

ス

マ

シ

ブ

キヤン
ス

マ

シ

ブ

リ

ア

シ

ブ

リ

ア

シ

ブ

リ

ア

シ

ブ

リ

ア

シ

ブ

リ

ア

シ

ブ

リ

ア

シ

ブ

リ

ア

シ

ブ

リ

ア

シ

ブ

リ

ア

シ

ブ

リ

ア

シ

ブ

リ

ア

シ

ブ

リ

ア

シ

ブ

リ

ア

シ

ブ

リ

ア

シ

ブ

リ

ア

シ

ブ

リ

ノウガク

フェスティバル

10

NOUGAKU FESTIVAL

10:00~17:00

(L.O. 16:00)

NOUGAKU FESTIVAL

9:00~16:30

(食事は11:00~L.O.16:00)

(L.O. 16:00)



大学がよくわかるプログラム

113室

国際協力センター and 世界学生フォーラム [by ISF]

11:00~17:00 (常時見学可能)

本校では、アメリカ、中国、フランス、ブラジルなど世界5カ国・地域の
31校と協定を結び、研究交流、学生交流を行ない、多くの外国人留学生を受け入れて
います。海外協定校への留学や海外農業実習プログラム、各自でプロジェクトする海外学
修活動制度といった特徴的な制度を利用し、海外に出て自分で様々な体験をするこ
ともできます。協校の学生や留学生、そして東京農大的食・農業を学ぶ世界の学生、農
業問題を考る学生論文を毎年発表します。15回目を迎える今年は、10月1日~2日に世田谷キャンパスにお
いて開催します。学生団体ISF(世界学生フォーラム)の活動等、東京農大的国際色豊
かな学生生活をご紹介しますので、ぜひ足をお運びください。

パネル展示階

多摩川農大
教務課
学生課
3階
入試 対策 補講 座他

4階 ラウンジ
エクスキューションセンター・一般の方も受講可能な体験・実習など
コンピューターセンター・学内のネットワークやパソコン設備などに
ついて
大学院課・大学院に開かれる全て

5階 バイオリウム
4階 「食と農」の博物館
3階 ラウンジ
2階
1階 パネル展示階

多摩川農大
教務課
学生課
3階
入試 対策 補講 座他

2階
1階 パネル展示階
0階
1階 ラウンジ
2階
3階 ラウンジ
4階 ラウンジ
5階 バイオリウム
6階
7階
8階
9階
10階
11階
12階
13階
14階
15階
16階
17階
18階
19階
20階
21階
22階
23階
24階
25階
26階
27階
28階
29階
30階
31階
32階
33階
34階
35階
36階
37階
38階
39階
40階
41階
42階

皆様へ

タイムプログラム

模擬店

文化学術展

進学説明会

ステージ企画

体育祭

協賛企業

ECO



※地図は裏表紙に載っています。

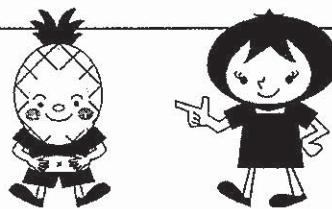
1号館3階 333・344教室

学科別個人相談会

「あの学科とこの学科の違いは?」「こういう勉強がしたいんだけど、この学科でいいの?」「この学科の研究の楽しさを教えてほしい」そんな質問に各学科の先生たちが答えます。

資料展示

推薦入試用作文用紙
入試の過去問題・解答用紙の展示など



農大アカデミアセンター地下1階 横井講堂

入試説明

入学試験を突破するためのポイントは?
「一般入試」「センター試験利用入試」と、目前に迫った「推薦入試」について、入試センターのスタッフが解説します。

オホーツクキャンパス紹介コーナー

横井講堂前にオホーツクキャンパス(北海道)紹介コーナーを開設し、現地の教職員・在学生が展示・紹介をします。

【お問合せ先】入試センター(農大アカデミアセンター1階)

TEL:03-5477-2226
FAX:03-5477-2615

大学研究&学問発見のための国公私立大 合同進学ガイダンス
さあ、未来への第一歩!

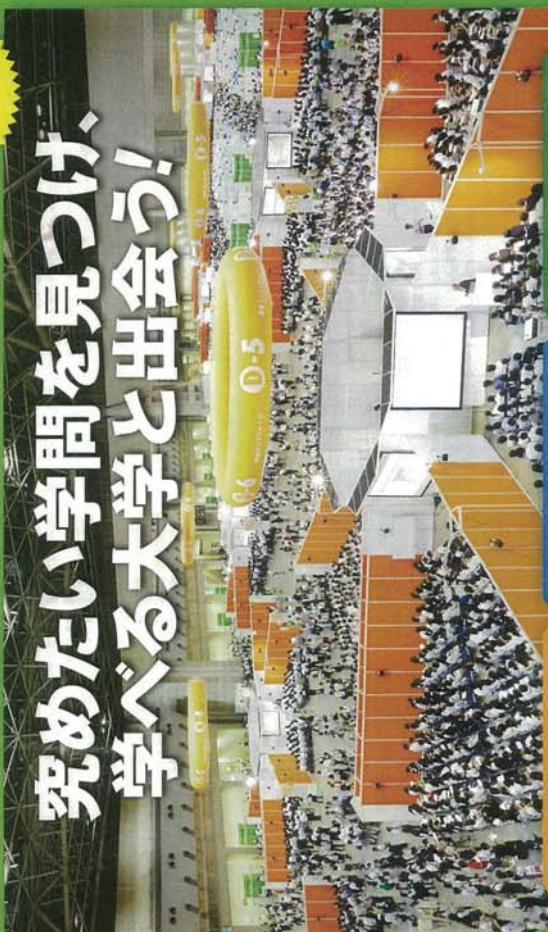
さまざまな大学の入試制度や特色を、直接知ることができます。個別説明
ブースに参加しているすべての大学が、あなたが進学する「可能性」です。
進学について知りたいこと、聞かれることがありますのでぜひ聴きに来てください。

夢ナビライブ yumenavi LIVE 2015

7.11 土 10:30 [10:00] ▶ 17:00
東京ビックサイト 東4・5・6ホール

入場無料
入退場自由
服装自由

研究めたい学問を見つけ、
学べる大学と出会う！



大学個別説明ブース

国公立大学40校 私立大学156校

| | | | | | |
|------------|-----------------|------------|------------|-----------|---------------|
| ○ 札幌大学 | ○ 創価大学 | ○ 東京理科大学 | ○ 東京工業大学 | ○ 東京都市大学 | ○ 横浜市立大学 |
| ○ 千葉学院大学 | ○ 新潟女子短期大学 | ○ 東洋大学 | ○ 大妻女子大学 | ○ 千葉工業大学 | ○ 横浜薬科大学 |
| ○ 千葉工業大学 | ○ 大東文化大学 | ○ 東洋大 | ○ 大正大学 | ○ 千葉商科大学 | ○ 横浜国際技術科学大学 |
| ○ 北里医科大学 | ○ 宝塚大学 | ○ 東京芸術大学 | ○ 東京文化大学 | ○ 日本工大 | ○ 新潟医療福祉大学 |
| ○ 北海道大学 | ○ 葛飾大学 | ○ 東京藝術大学 | ○ 東京藝術大学 | ○ 日本女子大学 | ○ 高山大学 |
| ○ 北海道教育大学 | ○ 多摩美術大学 | ○ 東京造形大学 | ○ 東洋経済大学 | ○ 日本女子大学 | ○ 金沢工業大学 |
| ○ 北海道文教大学 | ○ 中央大学 | ○ 青山学院大学 | ○ 青山学院大学 | ○ 日本文化大学 | ○ 新潟工業大学 |
| ○ 高崎短期大学 | ○ 真理大学 | ○ 至和大学 | ○ 至和大学 | ○ 山梨大学 | ○ 山梨学院大学 |
| ○ 弘前大学 | ○ 諸見学園女子大学 | ○ 諸見学園女子大学 | ○ 諸見学園女子大学 | ○ 文京学院大学 | ○ 佐州大学 |
| ○ 東北大学 | ○ 上野学園大学 | ○ 信州林業大学 | ○ 信州林業大学 | ○ 法政大学 | ○ 鹿児島東京慈恵医科大学 |
| ○ 東北林業大学 | ○ 佐渡女子大学 | ○ 佐渡女子大学 | ○ 佐渡女子大学 | ○ 明治薬科大学 | ○ 明治薬科大学 |
| ○ 栃木大学 | ○ 国際教養大学 | ○ お茶の水女子大学 | ○ お茶の水女子大学 | ○ 早稲田大学 | ○ 京都工大 |
| ○ 国際教養大学 | ○ 学習院大学 | ○ 山形大学 | ○ 山形大学 | ○ 帝京平成大学 | ○ 京都大学 |
| ○ 会津大学 | ○ 国際基督教大學 (ICU) | ○ 北里大学 | ○ 北里大学 | ○ 明治大学 | ○ 京都工大 |
| ○ 奥羽大学 | ○ 共立女子大学 | ○ 国士館大学 | ○ 国士館大学 | ○ 立命館大学 | ○ 京都工大 |
| ○ 茨城大学 | ○ 共立女子短期大学 | ○ 駒澤女子大学 | ○ 駒澤女子大学 | ○ 明治大学 | ○ 京都工大 |
| ○ 埼玉大学 | ○ 工学院大學 | ○ 東京医療保健大学 | ○ 東京医療保健大学 | ○ 大阪医大 | ○ 京都工大 |
| ○ 高崎経営短期大学 | ○ 実践女子大学 | ○ 高崎経営短期大学 | ○ 高崎経営短期大学 | ○ 大阪医大 | ○ 京都工大 |
| ○ 高崎経営大学 | ○ 佐渡工業大学 | ○ 佐渡工業大学 | ○ 佐渡工業大学 | ○ 早稲田大学 | ○ 京都工大 |
| ○ 東邦大学 | ○ 関東工業大学 | ○ 関東工業大学 | ○ 関東工業大学 | ○ 半田田大学 | ○ 京都工大 |
| ○ 埼玉工業大学 | ○ 首都大学東京 | ○ 首都大学東京 | ○ 首都大学東京 | ○ 静岡大 | ○ 京都工大 |
| ○ 埼玉県立大学 | ○ 駒澤女子大学 | ○ 駒澤女子大学 | ○ 駒澤女子大学 | ○ 神奈川工科大学 | ○ 京都工大 |
| ○ 埼玉県立大学 | ○ 城西女子大学 | ○ 城西女子大学 | ○ 城西女子大学 | ○ 神奈川工科大学 | ○ 京都工大 |
| ○ 埼玉県立大学 | ○ 昭和女子短期大学 | ○ 昭和女子大学 | ○ 昭和女子大学 | ○ 神奈川工科大学 | ○ 京都工大 |
| ○ 埼玉県立大学 | ○ 実践女子大学 | ○ 実践女子大学 | ○ 実践女子大学 | ○ 神奈川工科大学 | ○ 京都工大 |
| ○ 埼玉県立大学 | ○ 女子栄養大学 | ○ 女子栄養大学 | ○ 女子栄養大学 | ○ 神奈川工科大学 | ○ 京都工大 |
| ○ 埼玉県立大学 | ○ 能率大学 | ○ 能率大学 | ○ 能率大学 | ○ 神奈川工科大学 | ○ 京都工大 |
| ○ 埼玉県立大学 | ○ 上智大学 | ○ 関東政経大学 | ○ 関東政経大学 | ○ 神奈川工科大学 | ○ 京都工大 |
| ○ 埼玉県立大学 | ○ 駒澤女子大学 | ○ 東京経済大学 | ○ 東京経済大学 | ○ 神奈川工科大学 | ○ 京都工大 |
| ○ 埼玉県立大学 | ○ 昭和女子大学 | ○ 昭和女子大学 | ○ 昭和女子大学 | ○ 神奈川工科大学 | ○ 京都工大 |
| ○ 埼玉県立大学 | ○ 昭和女子大学 | ○ 昭和女子大学 | ○ 昭和女子大学 | ○ 神奈川工科大学 | ○ 京都工大 |
| ○ 埼玉県立大学 | ○ 昭和女子大学 | ○ 昭和女子大学 | ○ 昭和女子大学 | ○ 神奈川工科大学 | ○ 京都工大 |
| ○ 埼玉県立大学 | ○ 白百合女子大学 | ○ 白百合女子大学 | ○ 白百合女子大学 | ○ 神奈川工科大学 | ○ 京都工大 |
| ○ 埼玉県立大学 | ○ 国際基督教大学 | ○ 国際基督教大学 | ○ 国際基督教大学 | ○ 神奈川工科大学 | ○ 京都工大 |
| ○ 埼玉県立大学 | ○ 秀明大学 | ○ 秀明大学 | ○ 秀明大学 | ○ 神奈川工科大学 | ○ 京都工大 |
| ○ 埼玉県立大学 | ○ 滨松学園大学 | ○ 滨松学園大学 | ○ 滨松学園大学 | ○ 神奈川工科大学 | ○ 京都工大 |
| ○ 埼玉県立大学 | ○ 聖心女子大学 | ○ 聖心女子大学 | ○ 聖心女子大学 | ○ 神奈川工科大学 | ○ 京都工大 |
| ○ 埼玉県立大学 | ○ 等修学園 | ○ 等修学園 | ○ 等修学園 | ○ 神奈川工科大学 | ○ 京都工大 |

● 2015年5月現在の情報です。当日の大学別取扱ブースは変動する場合があります。

まなびステーション



まなびステーション



大学個別説明ブース



学問の講義ライブ



参考方法は 裏表紙を チェック！

- コンピュータ理工学 協力：会員大学
- 総合化学・農芸化学・農業経済 協力：東京農業大学
- 地理学 協力：立正大学
- 経済学 協力：立正大学
- 経営学 協力：立正大学
- 教育学 協力：立正大学
- 心理学 協力：立正大学
- 人間科学 協力：立正大学
- 多文化社会学 協力：立正大学
- 社会学 協力：立正大学
- 会員組織運営・公務員ビジネス・スポーツ 協力：東京農業大学
- 開拓学 協力：立正大学
- 情報学 協力：日本農業大学
- 法学 协力：立正大学

- 人文学 協力：立正大学
- 著述思想歴史／比較文化学 協力：立正大学
- 地理学 協力：立正大学
- 経営学 協力：立正大学
- 商学・会計学 协力：立正大学
- 教育学 協力：立正大学
- 心理学 協力：立正大学
- 人間科学 協力：立正大学
- 英語コミュニケーション学 協力：立正大学
- 教育学 協力：立正大学
- 音楽学・音楽教育アセサメント学 协力：立正大学
- メディア音響学（ゲーム・マンガ・アニメーション） 协力：立正大学
- 国際関係学 协力：立正大学
- 情報学 協力：立正大学
- 法学 协力：立正大学

● 2015年5月現在の情報です。当日の大学別取扱ブースは変動する場合があります。最新情報は事前申込登録サイトをご覗ください。

ミライガク2015歩き方ガイド

ミライガク2015_表



東京ドームシティ プリズムホール
13:00～18:30
(入場受付は8:30まで)
参加無料
(土) 入退場自由

*2020年・お金・エコカー・ロボット。

くすり・スマホ・子ども・チョコレート」といった

身近なキーワードから、

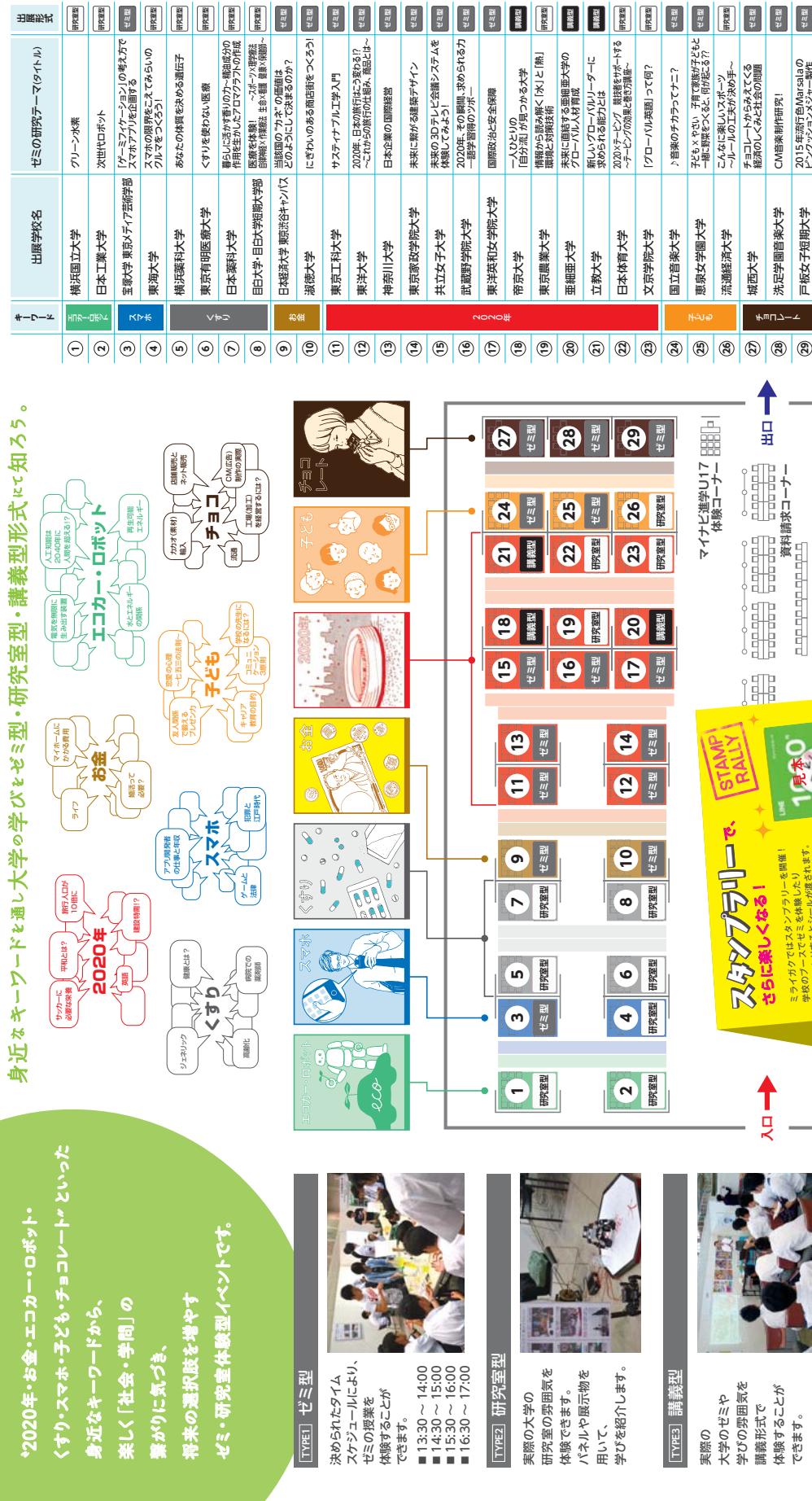
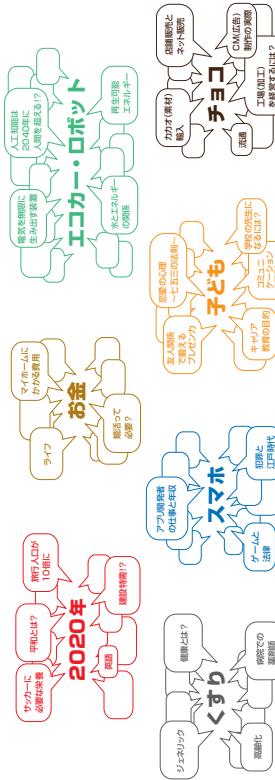
楽しく「社会・学問」の

繋がりに気づき、

将来の選択肢を増やす

セミ・研究室体験型イベントです。

身近なキーワードを通じ大学の学びセミ型・研究室型・講義型形式にて知ろう。



【TYPE1】セミ型

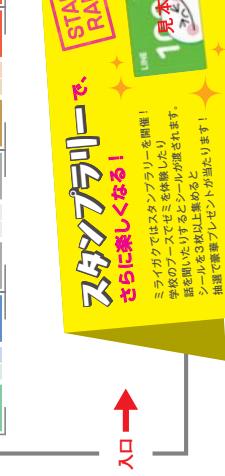
決められたタイム
スケジュールにより、
セミの授業を
体験することができます。

- 13:30～14:00
- 14:30～15:00
- 15:30～16:00
- 16:30～17:00

【TYPE2】研究室型

実際の大学の
研究室の雰囲気を
体験できます。
パネルや展示物を
用いて、
遊びを紹介します。

【TYPE3】講義型

実際の
大学の
雰囲気や
講義形式で
遊びを紹介します。

入口 →

出口 →

マイナビ進学U17
体験コーナー

資料請求コーナー

セミ型

セミ型

セミ型

セミ型

セミ型

セミ型

セミ型

セミ型

ミライガクではスタンプラリーを開催!
学校の「ースマホを体験したり
シールを貰うのが楽しめるよ。
抽選で豪華プレゼントが当たります!

出展大学・短期大学学問系統一覧

興味のある学問のカテゴリーから、話を聞きたい学校を探してみましょう！同じ分野を持つ学校同士でも本身は全然違うので、できる限りたくさんのお話をまわりましょう！

東京農業大学生命科学部（仮称）、
地域環境科学部地域創成科学科（仮称）、
国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）の卒業生に
に対する企業等の採用意向に関するアンケート調査報告

平成27年11月

一般財団法人 日本開発構想研究所

東京農業大学生命科学部（仮称）、地域環境科学部地域創成科学科（仮称）、
国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）の卒業生に対する
企業等の採用意向に関するアンケート調査報告

1. 調査概要

(1) 調査目的

平成 29 年 4 月に予定している東京農業大学生命科学部（仮称）、地域環境科学部地域創成科学科（仮称）、国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）の開設に向けて、東京農業大学卒業生の採用実績のある企業、または卒業生の就職が見込まれる、全国 47 都道府県の企業等の採用担当者にアンケートを実施し、東京農業大学生命科学部（仮称）、地域環境科学部地域創成科学科（仮称）、国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）の卒業生に対する企業等の採用意向を把握することを目的とする。

(2) 調査対象

東京農業大学卒業生の採用実績のある企業、または卒業生の就職が見込まれる企業等 4,000 社の採用担当者にアンケートを実施し、945 件の有効回答があった。

(3) 調査方法

東京農業大学卒業生の採用実績のある企業、または卒業生の就職が見込まれる企業等 4,000 社の採用担当者にアンケート用紙及び東京農業大学生命科学部（仮称）、地域環境科学部地域創成科学科（仮称）、国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）の概要を示したリーフレットを送付し、アンケートを実施した。回答については第三者機関へ企業等から直接郵送。

集計結果より、東京農業大学生命科学部（仮称）、地域環境科学部地域創成科学科（仮称）、国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）の卒業生に対する採用意向を分析した。

(4) 調査実施期間

平成 27 年 9 月～平成 27 年 11 月

(5) 有効回収率等

配布数 : 4,000 社

有効回答数 : 945 件

有効回収率 : 約 23.6%

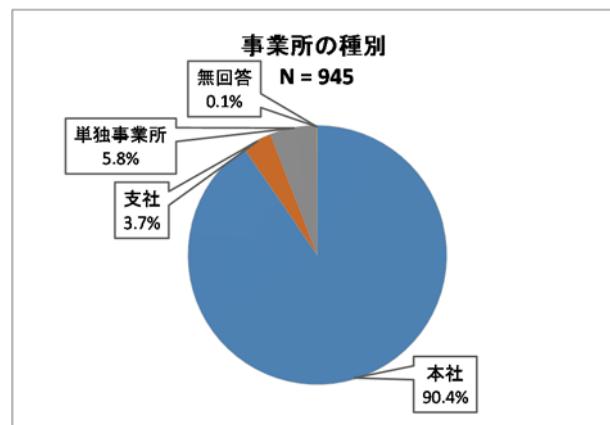
※東京農業大学にて設置を構想している生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科は仮称であるが、その旨の表示を本文中では省略した。

2. 調査結果

(1) 事業所の種別について

事業所の種別について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「本社」が 854 件（90.4%）と最も多く、次いで「単独事業所」55 件（5.8%）、「支社」35 件（3.7%）、「無回答」1 件（0.1%）の順になっている。

| 事業所の種別 | | | |
|--------|----------|-----|-------|
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
| 1 | 本社 | 854 | 90.4 |
| 2 | 支社 | 35 | 3.7 |
| 3 | 単独事業所 | 55 | 5.8 |
| | 無回答 | 1 | 0.1 |
| | N (%ベース) | 945 | 100 |



(2) 事業所の所在地について

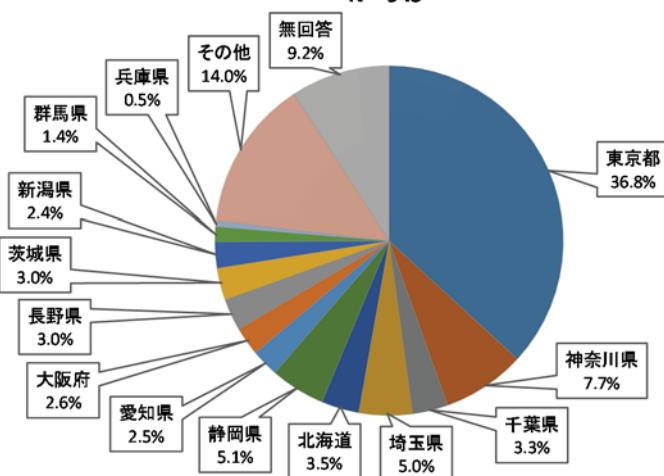
事業所の所在地について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「東京都」が 348 件 (36.8%) と最も多く、次いで「その他」 132 件 (14.0%)、「無回答」 87 件 (9.2%)、「神奈川県」 73 件 (7.7%)、「静岡県」 48 件 (5.1%)、「埼玉県」 47 件 (5.0%)、「北海道」 33 件 (3.5%)、「千葉県」 31 件 (3.3%)、「長野県」 28 件 (3.0%)、「茨城県」 28 件 (3.0%)、「大阪府」 25 件 (2.6%)、「愛知県」 24 件 (2.5%)、「新潟県」 23 件 (2.4%)、「群馬県」 13 件 (1.4%)、「兵庫県」 5 件 (0.5%) の順になっている。

事業所の所在地

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1 | 東京都 | 348 | 36.8 |
| 2 | 神奈川県 | 73 | 7.7 |
| 3 | 千葉県 | 31 | 3.3 |
| 4 | 埼玉県 | 47 | 5.0 |
| 5 | 北海道 | 33 | 3.5 |
| 6 | 静岡県 | 48 | 5.1 |
| 7 | 愛知県 | 24 | 2.5 |
| 8 | 大阪府 | 25 | 2.6 |
| 9 | 長野県 | 28 | 3.0 |
| 10 | 茨城県 | 28 | 3.0 |
| 11 | 新潟県 | 23 | 2.4 |
| 12 | 群馬県 | 13 | 1.4 |
| 13 | 兵庫県 | 5 | 0.5 |
| 14 | その他 | 132 | 14.0 |
| | 無回答 | 87 | 9.2 |
| | N (%ベース) | 945 | 100 |

事業所の所在地

N = 945

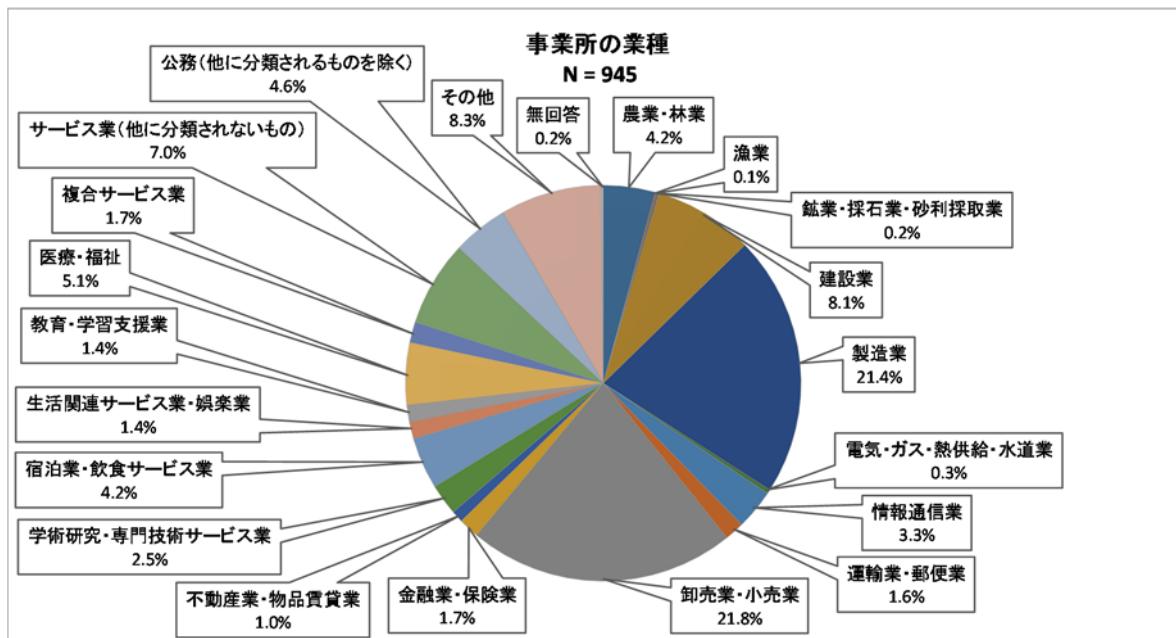


(3) 事業所の業種について

事業所の業種について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「卸売業・小売業」が 206 件 (21.8%) と最も多く、次いで「製造業」202 件 (21.4%)、「その他」78 件 (8.3%)、「建設業」77 件 (8.1%)、「サービス業（他に分類されないもの）」66 件 (7.0%)、「医療・福祉」48 件 (5.1%)、「公務（他に分類されるものを除く）」43 件 (4.6%)、「農業・林業」40 件 (4.2%)、「宿泊業・飲食サービス業」40 件 (4.2%)、「情報通信業」31 件 (3.3%) の順になっている。

事業所の業種

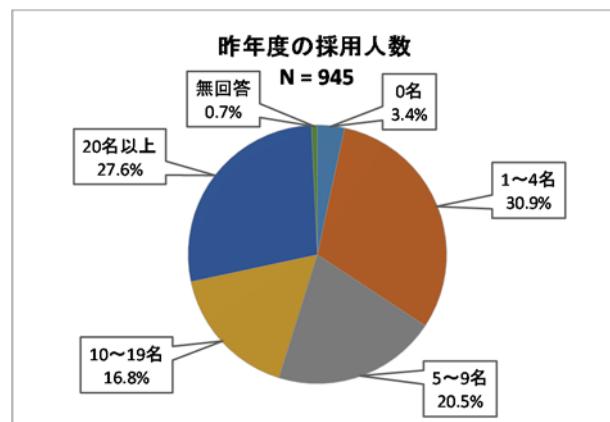
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|-------------------|-----|-------|
| 1 | 農業・林業 | 40 | 4.2 |
| 2 | 漁業 | 1 | 0.1 |
| 3 | 鉱業・採石業・砂利採取業 | 2 | 0.2 |
| 4 | 建設業 | 77 | 8.1 |
| 5 | 製造業 | 202 | 21.4 |
| 6 | 電気・ガス・熱供給・水道業 | 3 | 0.3 |
| 7 | 情報通信業 | 31 | 3.3 |
| 8 | 運輸業・郵便業 | 15 | 1.6 |
| 9 | 卸売業・小売業 | 206 | 21.8 |
| 10 | 金融業・保険業 | 16 | 1.7 |
| 11 | 不動産業・物品賃貸業 | 9 | 1.0 |
| 12 | 学術研究・専門技術サービス業 | 24 | 2.5 |
| 13 | 宿泊業・飲食サービス業 | 40 | 4.2 |
| 14 | 生活関連サービス業・娯楽業 | 13 | 1.4 |
| 15 | 教育・学習支援業 | 13 | 1.4 |
| 16 | 医療・福祉 | 48 | 5.1 |
| 17 | 複合サービス業 | 16 | 1.7 |
| 18 | サービス業（他に分類されないもの） | 66 | 7.0 |
| 19 | 公務（他に分類されるものを除く） | 43 | 4.6 |
| 20 | その他 | 78 | 8.3 |
| | 無回答 | 2 | 0.2 |
| | N (%ベース) | 945 | 100 |



(4) 昨年度の採用人数について

昨年度の採用人数について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「1~4 名」が 292 件 (30.9%) と最も多く、次いで「20 名以上」 261 件 (27.6%)、「5~9 名」 194 件 (20.5%)、「10~19 名」 159 件 (16.8%)、「0 名」 32 件 (3.4%)、「無回答」 7 件 (0.7%) の順になっている。

| 昨年度の採用人数 | | | |
|----------|----------|-----|-------|
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
| 1 | 0名 | 32 | 3.4 |
| 2 | 1~4名 | 292 | 30.9 |
| 3 | 5~9名 | 194 | 20.5 |
| 4 | 10~19名 | 159 | 16.8 |
| 5 | 20名以上 | 261 | 27.6 |
| | 無回答 | 7 | 0.7 |
| | N (%ベース) | 945 | 100 |

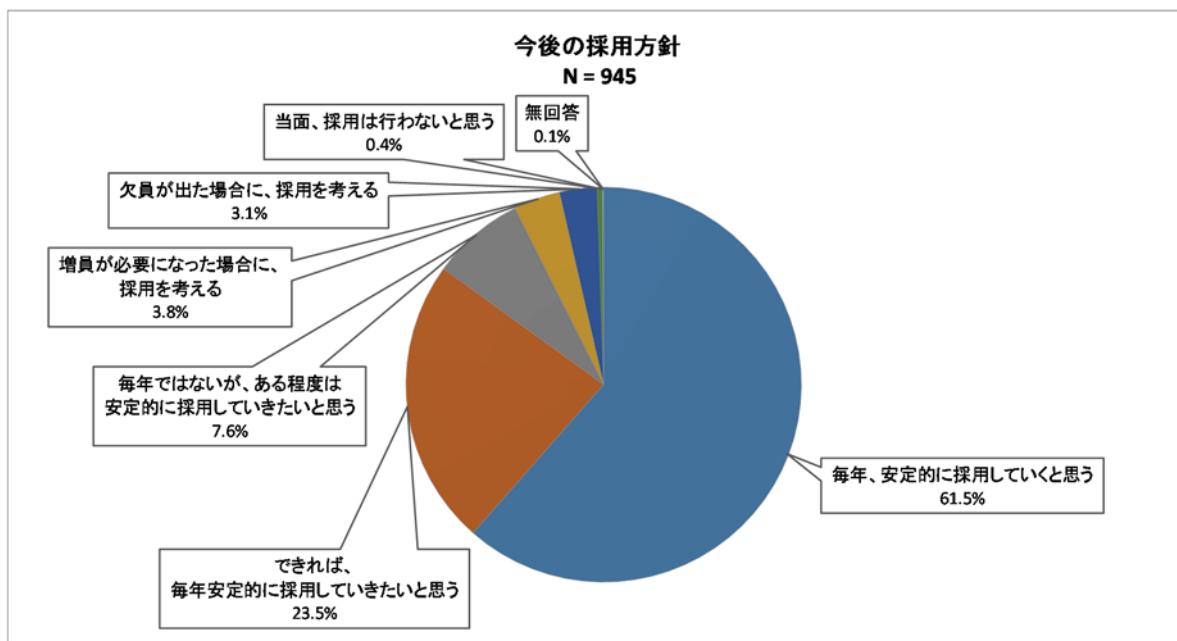


(5) 今後の採用方針について

今後の採用方針について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「毎年、安定的に採用していくと思う」が 581 件 (61.5%) と最も多く、次いで「できれば、毎年安定的に採用していきたいと思う」 222 件 (23.5%)、「毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していきたいと思う」 72 件 (7.6%)、「増員が必要になった場合に、採用を考える」 36 件 (3.8%)、「欠員が出た場合に、採用を考える」 29 件 (3.1%)、「当面、採用は行わないと思う」 4 件 (0.4%)、「無回答」 1 件 (0.1%) の順になっている。

今後の採用方針

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|------------------------------|-----|-------|
| 1 | 毎年、安定的に採用していくと思う | 581 | 61.5 |
| 2 | できれば、毎年安定的に採用していきたいと思う | 222 | 23.5 |
| 3 | 毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していきたいと思う | 72 | 7.6 |
| 4 | 増員が必要になった場合に、採用を考える | 36 | 3.8 |
| 5 | 欠員が出た場合に、採用を考える | 29 | 3.1 |
| 6 | 当面、採用は行わないと思う | 4 | 0.4 |
| | 無回答 | 1 | 0.1 |
| | N (%ベース) | 945 | 100 |

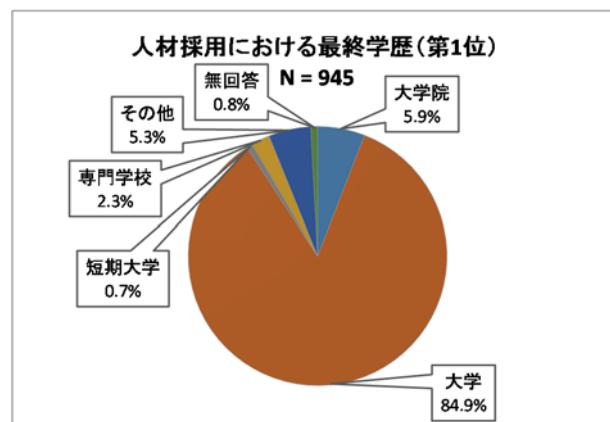


(6) 人材採用における最終学歴について

6-1 人材採用における最終学歴（第1位）について

人材採用における最終学歴（第1位）について調査したところ、回答のあった企業等945件のうち、「大学」が802件（84.9%）と最も多く、次いで「大学院」56件（5.9%）、「その他」50件（5.3%）、「専門学校」22件（2.3%）、「無回答」8件（0.8%）、「短期大学」7件（0.7%）の順になっている。

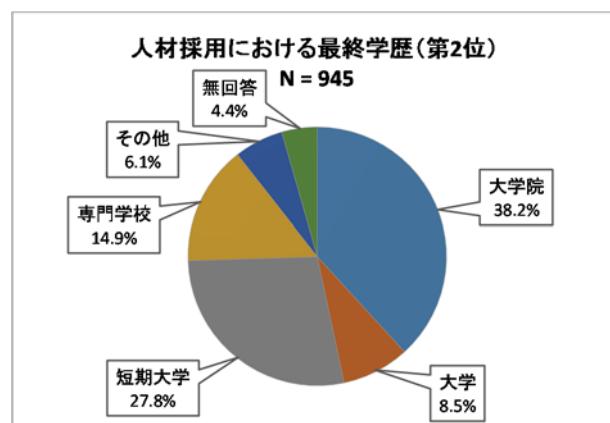
| 人材採用における最終学歴(第1位) | | | |
|-------------------|----------|-----|-------|
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
| 1 | 大学院 | 56 | 5.9 |
| 2 | 大学 | 802 | 84.9 |
| 3 | 短期大学 | 7 | 0.7 |
| 4 | 専門学校 | 22 | 2.3 |
| 5 | その他 | 50 | 5.3 |
| | 無回答 | 8 | 0.8 |
| | N (%ベース) | 945 | 100 |



6-2 人材採用における最終学歴（第2位）について

人材採用における最終学歴（第2位）について調査したところ、回答のあった企業等945件のうち、「大学院」が361件（38.2%）と最も多く、次いで「短期大学」263件（27.8%）、「専門学校」141件（14.9%）、「大学」80件（8.5%）、「その他」58件（6.1%）、「無回答」42件（4.4%）の順になっている。

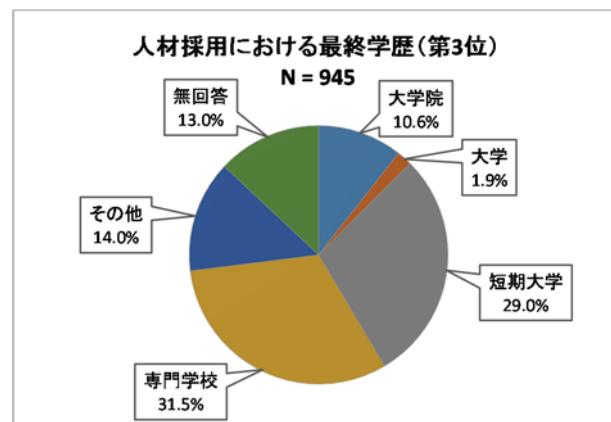
| 人材採用における最終学歴(第2位) | | | |
|-------------------|----------|-----|-------|
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
| 1 | 大学院 | 361 | 38.2 |
| 2 | 大学 | 80 | 8.5 |
| 3 | 短期大学 | 263 | 27.8 |
| 4 | 専門学校 | 141 | 14.9 |
| 5 | その他 | 58 | 6.1 |
| | 無回答 | 42 | 4.4 |
| | N (%ベース) | 945 | 100 |



6-3 人材採用における最終学歴（第3位）について

人材採用における最終学歴（第3位）について調査したところ、回答のあった企業等945件のうち、「専門学校」が298件（31.5%）と最も多く、次いで「短期大学」274件（29.0%）、「その他」132件（14.0%）、「無回答」123件（13.0%）、「大学院」100件（10.6%）、「大学」18件（1.9%）の順になっている。

| 人材採用における最終学歴(第3位) | | |
|-------------------|----------|-----|
| No. | カテゴリ | 件数 |
| 1 | 大学院 | 100 |
| 2 | 大学 | 18 |
| 3 | 短期大学 | 274 |
| 4 | 専門学校 | 298 |
| 5 | その他 | 132 |
| | 無回答 | 123 |
| | N (%ペース) | 945 |
| | (全体)% | 100 |



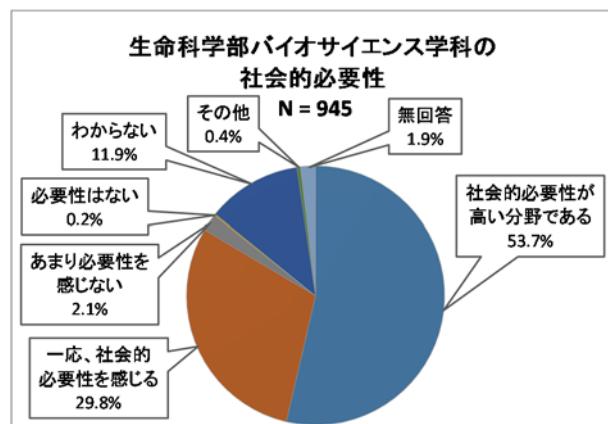
(7) 新設学部・新設学科の社会的必要性について

7-1 生命科学部バイオサイエンス学科の社会的必要性について

東京農業大学生命科学部バイオサイエンス学科の社会的必要性について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「社会的必要性が高い分野である」が 507 件 (53.7%) と最も多く、次いで「一応、社会的必要性を感じる」282 件 (29.8%)、「わからない」112 件 (11.9%)、「あまり必要性を感じない」20 件 (2.1%)、「無回答」18 件 (1.9%)、「その他」4 件 (0.4%)、「必要性はない」2 件 (0.2%) の順になっている。

なお、東京農業大学生命科学部バイオサイエンス学科について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、789 件 (83.5%) となっている。

| 生命科学部バイオサイエンス学科の社会的必要性 | | 件数 | (全体)% |
|------------------------|----------------|-----|-------|
| No. | カテゴリ | | |
| 1 | 社会的必要性が高い分野である | 507 | 53.7 |
| 2 | 一応、社会的必要性を感じる | 282 | 29.8 |
| 3 | あまり必要性を感じない | 20 | 2.1 |
| 4 | 必要性はない | 2 | 0.2 |
| 5 | わからない | 112 | 11.9 |
| 6 | その他 | 4 | 0.4 |
| | 無回答 | 18 | 1.9 |
| | N (%ベース) | 945 | 100 |

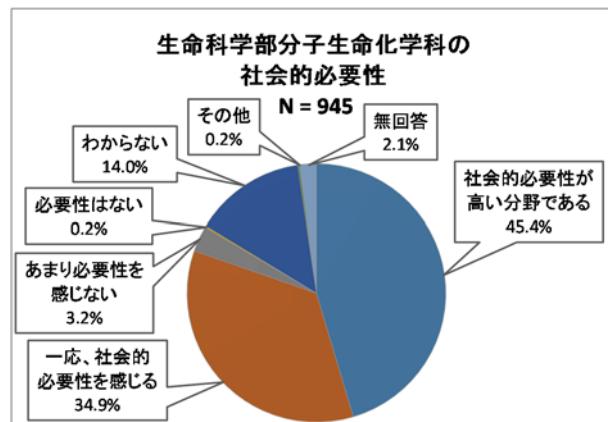


7-2 生命科学部分子生命化学科の社会的必要性について

東京農業大学生命科学部分子生命化学科の社会的必要性について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「社会的必要性が高い分野である」が 429 件 (45.4%) と最も多く、次いで「一応、社会的必要性を感じる」330 件 (34.9%)、「わからない」132 件 (14.0%)、「あまり必要性を感じない」30 件 (3.2%)、「無回答」20 件 (2.1%)、「必要性はない」2 件 (0.2%)、「その他」2 件 (0.2%) の順になっている。

なお、東京農業大学生命科学部分子生命化学科について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、759 件 (80.3%) となっている。

| 生命科学部分子生命化学科の社会的必要性 | | 件数 | (全体)% |
|---------------------|----------------|-----|-------|
| No. | カテゴリ | | |
| 1 | 社会的必要性が高い分野である | 429 | 45.4 |
| 2 | 一応、社会的必要性を感じる | 330 | 34.9 |
| 3 | あまり必要性を感じない | 30 | 3.2 |
| 4 | 必要性はない | 2 | 0.2 |
| 5 | わからない | 132 | 14.0 |
| 6 | その他 | 2 | 0.2 |
| | 無回答 | 20 | 2.1 |
| | N (%ベース) | 945 | 100 |

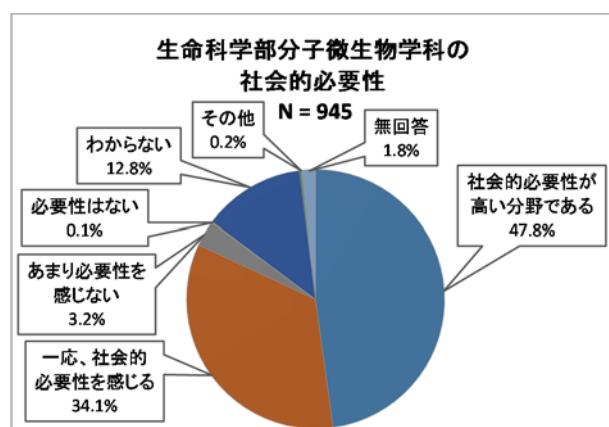


7-3 生命科学部分子微生物学科の社会的必要性について

東京農業大学生命科学部分子微生物学科の社会的必要性について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「社会的必要性が高い分野である」が 452 件 (47.8%) と最も多く、次いで「一応、社会的必要性を感じる」322 件 (34.1%)、「わからない」121 件 (12.8%)、「あまり必要性を感じない」30 件 (3.2%)、「無回答」17 件 (1.8%)、「その他」2 件 (0.2%)、「必要性はない」1 件 (0.1%) の順になっている。

なお、東京農業大学生命科学部分子微生物学科について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、774 件 (81.9%) となっている。

| 生命科学部分子微生物学科の社会的必要性 | | | |
|---------------------|----------------|-----|-------|
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
| 1 | 社会的必要性が高い分野である | 452 | 47.8 |
| 2 | 一応、社会的必要性を感じる | 322 | 34.1 |
| 3 | あまり必要性を感じない | 30 | 3.2 |
| 4 | 必要性はない | 1 | 0.1 |
| 5 | わからない | 121 | 12.8 |
| 6 | その他 | 2 | 0.2 |
| | 無回答 | 17 | 1.8 |
| | N (%ベース) | 945 | 100 |

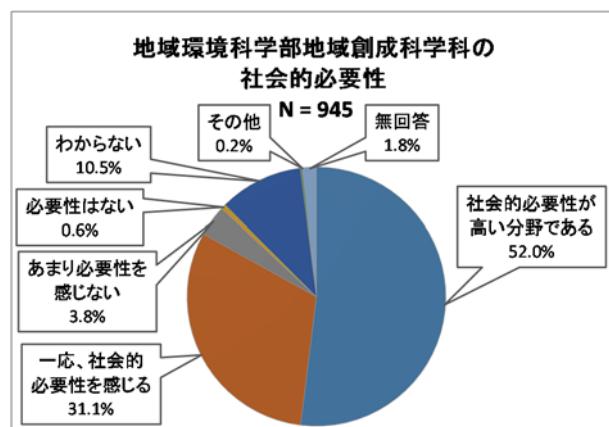


7-4 地域環境科学部地域創成科学科の社会的必要性について

東京農業大学地域環境科学部地域創成科学科の社会的必要性について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「社会的必要性が高い分野である」が 491 件 (52.0%) と最も多く、次いで「一応、社会的必要性を感じる」294 件 (31.1%)、「わからない」99 件 (10.5%)、「あまり必要性を感じない」36 件 (3.8%)、「無回答」17 件 (1.8%)、「必要性はない」6 件 (0.6%)、「その他」2 件 (0.2%) の順になっている。

なお、東京農業大学地域環境科学部地域創成科学科について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、785 件 (83.1%) となっている。

| 地域環境科学部地域創成科学科の社会的必要性 | | | |
|-----------------------|----------------|-----|-------|
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
| 1 | 社会的必要性が高い分野である | 491 | 52.0 |
| 2 | 一応、社会的必要性を感じる | 294 | 31.1 |
| 3 | あまり必要性を感じない | 36 | 3.8 |
| 4 | 必要性はない | 6 | 0.6 |
| 5 | わからない | 99 | 10.5 |
| 6 | その他 | 2 | 0.2 |
| | 無回答 | 17 | 1.8 |
| | N (%ベース) | 945 | 100 |

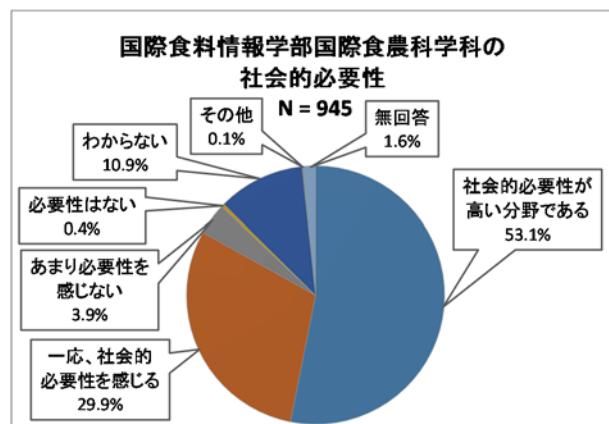


7-5 國際食料情報學部國際食農科学科の社会的必要性について

東京農業大学國際食料情報學部國際食農科学科の社会的必要性について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「社会的必要性が高い分野である」が 502 件（53.1%）と最も多く、次いで「一応、社会的必要性を感じる」283 件（29.9%）、「わからない」103 件（10.9%）、「あまり必要性を感じない」37 件（3.9%）、「無回答」15 件（1.6%）、「必要性はない」4 件（0.4%）、「その他」1 件（0.1%）の順になっている。

なお、東京農業大学國際食料情報學部國際食農科学科について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、785 件（83.0%）となっている。

| 国際食料情報學部國際食農科学科の社会的必要性 | | |
|------------------------|----------------|-------------|
| No. | カテゴリ | 件数 (全体)% |
| 1 | 社会的必要性が高い分野である | 502 53.1 |
| 2 | 一応、社会的必要性を感じる | 283 29.9 |
| 3 | あまり必要性を感じない | 37 3.9 |
| 4 | 必要性はない | 4 0.4 |
| 5 | わからない | 103 10.9 |
| 6 | その他 | 1 0.1 |
| | 無回答 | 15 1.6 |
| | N (%ベース) | 945 100 |



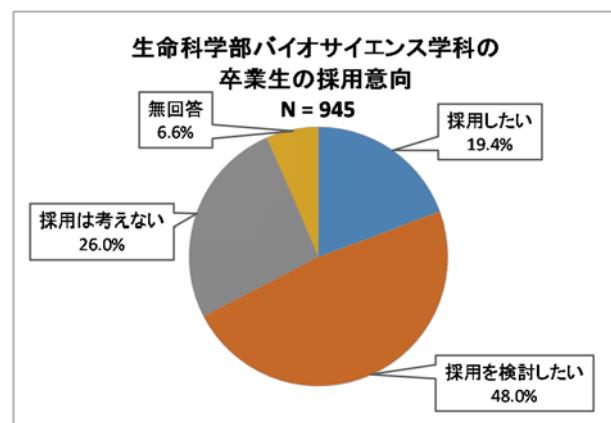
(8) 新設学部・新設学科の卒業生の採用意向について

8-1 生命科学部バイオサイエンス学科の卒業生の採用意向について

東京農業大学生命科学部バイオサイエンス学科の卒業生の採用意向について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「採用を検討したい」が 454 件 (48.0%) と最も多く、次いで「採用は考えない」 246 件 (26.0%)、「採用したい」 183 件 (19.4%)、「無回答」 62 件 (6.6%) の順になっている。

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、637 件 (67.4%) となっている。

| 生命科学部バイオサイエンス学科の卒業生の採用意向 | | |
|--------------------------|----------|----------|
| No. | カテゴリ | 件数 (全体)% |
| 1 | 採用したい | 183 19.4 |
| 2 | 採用を検討したい | 454 48.0 |
| 3 | 採用は考えない | 246 26.0 |
| | 無回答 | 62 6.6 |
| | N (%ベース) | 945 100 |

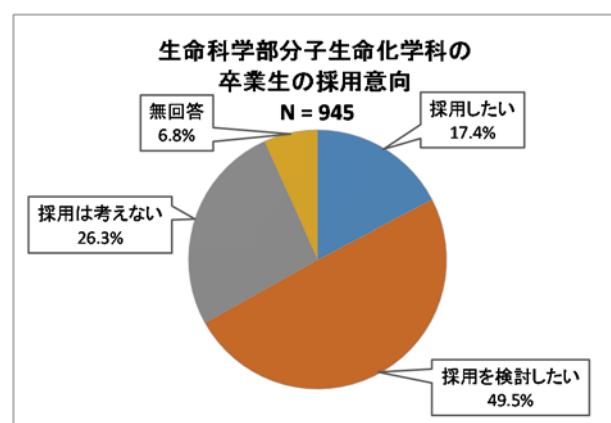


8-2 生命科学部分子生命化学科の卒業生の採用意向について

東京農業大学生命科学部分子生命化学科の卒業生の採用意向について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「採用を検討したい」が 468 件 (49.5%) と最も多く、次いで「採用は考えない」 249 件 (26.3%)、「採用したい」 164 件 (17.4%)、「無回答」 64 件 (6.8%) の順になっている。

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、632 件 (66.9%) となっている。

| 生命科学部分子生命化学科の卒業生の採用意向 | | |
|-----------------------|----------|----------|
| No. | カテゴリ | 件数 (全体)% |
| 1 | 採用したい | 164 17.4 |
| 2 | 採用を検討したい | 468 49.5 |
| 3 | 採用は考えない | 249 26.3 |
| | 無回答 | 64 6.8 |
| | N (%ベース) | 945 100 |

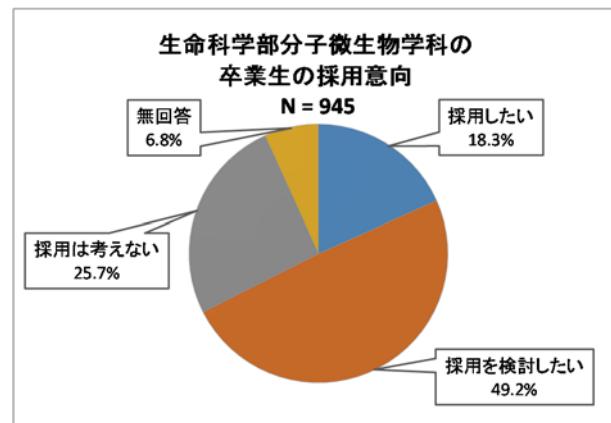


8-3 生命科学部分子微生物学科の卒業生の採用意向について

東京農業大学生命科学部分子微生物学科の卒業生の採用意向について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「採用を検討したい」が 465 件（49.2%）と最も多く、次いで「採用は考えない」 243 件（25.7%）、「採用したい」 173 件（18.3%）、「無回答」 64 件（6.8%）の順になっている。

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、638 件（67.5%）となっている。

| 生命科学部分子微生物学科の卒業生の採用意向 | | | |
|-----------------------|----------|-----|-------|
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
| 1 | 採用したい | 173 | 18.3 |
| 2 | 採用を検討したい | 465 | 49.2 |
| 3 | 採用は考えない | 243 | 25.7 |
| | 無回答 | 64 | 6.8 |
| | N (%ベース) | 945 | 100 |

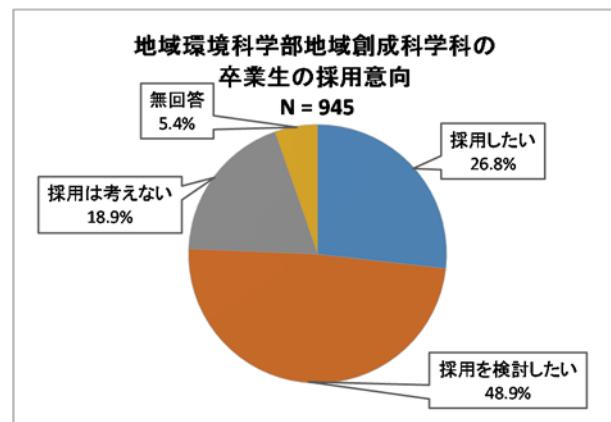


8-4 地域環境科学部地域創成科学科の卒業生の採用意向について

東京農業大学地域環境科学部地域創成科学科の卒業生の採用意向について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「採用を検討したい」が 462 件（48.9%）と最も多く、次いで「採用したい」 253 件（26.8%）、「採用は考えない」 179 件（18.9%）、「無回答」 51 件（5.4%）の順になっている。

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、715 件（75.7%）となっている。

| 地域環境科学部地域創成科学科の卒業生の採用意向 | | | |
|-------------------------|----------|-----|-------|
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
| 1 | 採用したい | 253 | 26.8 |
| 2 | 採用を検討したい | 462 | 48.9 |
| 3 | 採用は考えない | 179 | 18.9 |
| | 無回答 | 51 | 5.4 |
| | N (%ベース) | 945 | 100 |

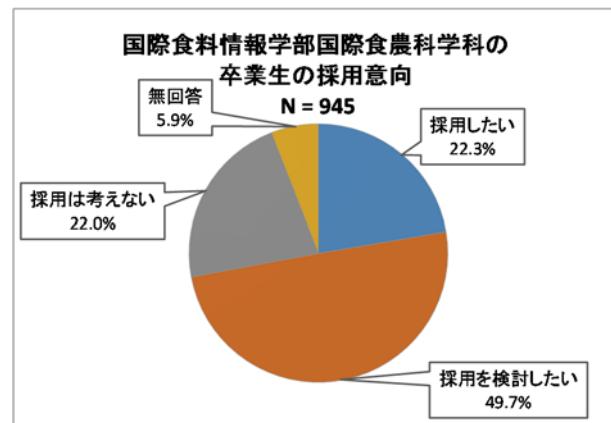


8-5 国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生の採用意向について

東京農業大学国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生の採用意向について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「採用を検討したい」が 470 件 (49.7%) と最も多く、次いで「採用したい」 211 件 (22.3%)、「採用は考えない」 208 件 (22.0%)、「無回答」 56 件 (5.9%) の順になっている。

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、681 件 (72.0%) となっている。

| 国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生の採用意向 | | |
|--------------------------|----------|----------|
| No. | カテゴリ | 件数 (全体)% |
| 1 | 採用したい | 211 22.3 |
| 2 | 採用を検討したい | 470 49.7 |
| 3 | 採用は考えない | 208 22.0 |
| | 無回答 | 56 5.9 |
| | N (%ベース) | 945 100 |

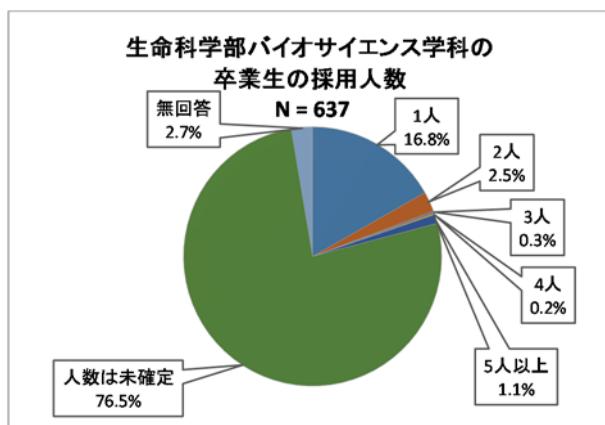


(9) 新設学部・新設学科の卒業生の採用人数について

9-1 生命科学部バイオサイエンス学科の卒業生の採用人数について

「(8) 8-1 生命科学部バイオサイエンス学科の卒業生の採用意向について」で肯定的な採用意向を示した 637 件に対して、東京農業大学生命科学部バイオサイエンス学科の卒業生の将来的な採用人数について調査したところ、「人数は未確定」が 487 件 (76.5%) と最も多く、次いで「1人」 107 件 (16.8%)、「無回答」 17 件 (2.7%)、「2人」 16 件 (2.5%)、「5人以上」 7 件 (1.1%)、「3人」 2 件 (0.3%)、「4人」 1 件 (0.2%) の順になっている。

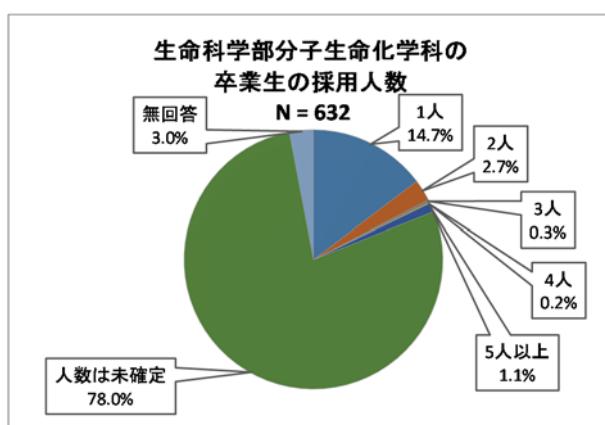
| 生命科学部バイオサイエンス学科の卒業生の採用人数 | | | |
|--------------------------|----------|-----|-------|
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
| 1 | 1人 | 107 | 16.8 |
| 2 | 2人 | 16 | 2.5 |
| 3 | 3人 | 2 | 0.3 |
| 4 | 4人 | 1 | 0.2 |
| 5 | 5人以上 | 7 | 1.1 |
| 6 | 人数は未確定 | 487 | 76.5 |
| | 無回答 | 17 | 2.7 |
| | N (%ベース) | 637 | 100 |



9-2 生命科学部分子生命化学科の卒業生の採用人数について

「(8) 8-2 生命科学部分子生命化学科の卒業生の採用意向について」で肯定的な採用意向を示した 637 件に対して、東京農業大学生命科学部分子生命化学科の卒業生の将来的な採用人数について調査したところ、「人数は未確定」が 493 件 (78.0%) と最も多く、次いで「1人」 93 件 (14.7%)、「無回答」 19 件 (3.0%)、「2人」 17 件 (2.7%)、「5人以上」 7 件 (1.1%)、「3人」 2 件 (0.3%)、「4人」 1 件 (0.2%) の順になっている。

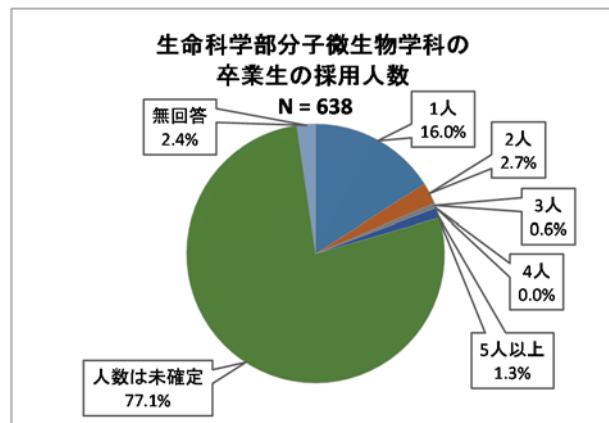
| 生命科学部分子生命化学科の卒業生の採用人数 | | | |
|-----------------------|----------|-----|-------|
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
| 1 | 1人 | 93 | 14.7 |
| 2 | 2人 | 17 | 2.7 |
| 3 | 3人 | 2 | 0.3 |
| 4 | 4人 | 1 | 0.2 |
| 5 | 5人以上 | 7 | 1.1 |
| 6 | 人数は未確定 | 493 | 78.0 |
| | 無回答 | 19 | 3.0 |
| | N (%ベース) | 632 | 100 |



9-3 生命科学部分子微生物学科の卒業生の採用人数について

「(8) 8-3 生命科学部分子微生物学科の卒業生の採用意向について」で肯定的な採用意向を示した 638 件に対して、東京農業大学生命科学部分子微生物学科の卒業生の将来的な採用人数について調査したところ、「人数は未確定」が 492 件 (77.1%) と最も多く、次いで「1人」 102 件 (16.0%)、「2人」 17 件 (2.7%)、「無回答」 15 件 (2.4%)、「5人以上」 8 件 (1.3%)、「3人」 4 件 (0.6%)、「4人」 0 件 (0%) の順になっている。

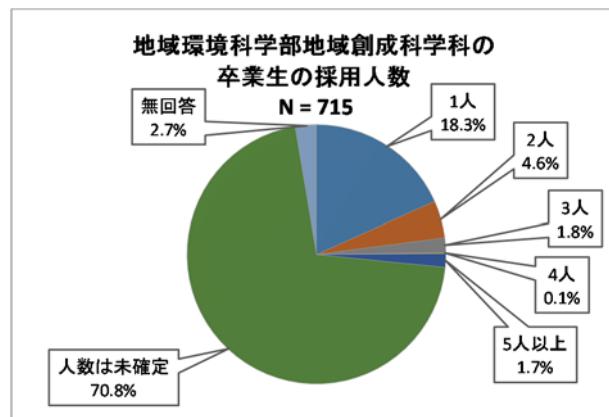
| 生命科学部分子微生物学科の卒業生の採用人数 | | |
|-----------------------|----------|----------|
| No. | カテゴリ | 件数 (全体)% |
| 1 | 1人 | 102 16.0 |
| 2 | 2人 | 17 2.7 |
| 3 | 3人 | 4 0.6 |
| 4 | 4人 | 0 0.0 |
| 5 | 5人以上 | 8 1.3 |
| 6 | 人数は未確定 | 492 77.1 |
| | 無回答 | 15 2.4 |
| | N (%ベース) | 638 100 |



9-4 地域環境科学部地域創成科学科の卒業生の採用人数について

「(8) 8-4 地域環境科学部地域創成科学科の卒業生の採用意向について」で肯定的な採用意向を示した 715 件に対して、東京農業大学地域環境科学部地域創成科学科の卒業生の将来的な採用人数について調査したところ、「人数は未確定」が 506 件 (70.8%) と最も多く、次いで「1人」 131 件 (18.3%)、「2人」 33 件 (4.6%)、「無回答」 19 件 (2.7%)、「3人」 13 件 (1.8%)、「5人以上」 12 件 (1.7%)、「4人」 1 件 (0.1%) の順になっている。

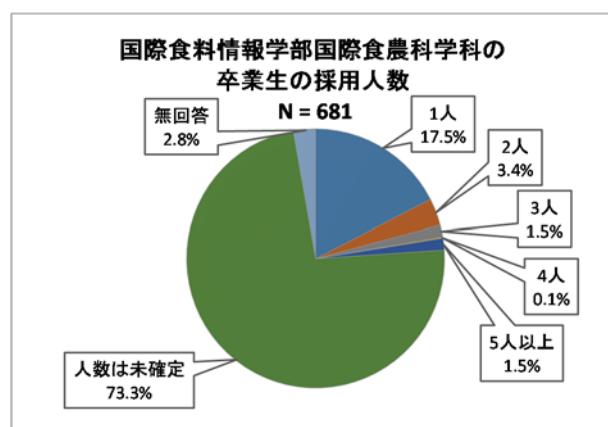
| 地域環境科学部地域創成科学科の卒業生の採用人数 | | |
|-------------------------|----------|----------|
| No. | カテゴリ | 件数 (全体)% |
| 1 | 1人 | 131 18.3 |
| 2 | 2人 | 33 4.6 |
| 3 | 3人 | 13 1.8 |
| 4 | 4人 | 1 0.1 |
| 5 | 5人以上 | 12 1.7 |
| 6 | 人数は未確定 | 506 70.8 |
| | 無回答 | 19 2.7 |
| | N (%ベース) | 715 100 |



9-5 国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生の採用人数について

「(8) 8-5 国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生の採用意向について」で肯定的な採用意向を示した 681 件に対して、東京農業大学国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生の将来的な採用人数について調査したところ、「人数は未確定」が 499 件 (73.3%) と最も多く、次いで「1人」119 件 (17.5%)、「2人」23 件 (3.4%)、「無回答」19 件 (2.8%)、「3人」10 件 (1.5%)、「5人以上」10 件 (1.5%)、「4人」1 件 (0.1%) の順になっている。

| 国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生の採用人数 | | |
|--------------------------|----------|-------------|
| No. | カテゴリ | 件数 (全体)% |
| 1 | 1人 | 119 17.5 |
| 2 | 2人 | 23 3.4 |
| 3 | 3人 | 10 1.5 |
| 4 | 4人 | 1 0.1 |
| 5 | 5人以上 | 10 1.5 |
| 6 | 人数は未確定 | 499 73.3 |
| | 無回答 | 19 2.8 |
| | N (%ベース) | 681 100 |



3. 調査結果のまとめ

東京農業大学 生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生に対する将来的な採用意向人数の集計にあたっては、「(8) 新設学部・新設学科の卒業生の採用意向について」の肯定的な回答数と、「(9) 新設学部・新設学科の卒業生の採用人数について」の将来的な採用人数の各選択肢（「1人」、「2人」、「3人」、「4人」、「5人以上」、「人数は未確定（※）」）を乗じ、これを合計し、算出した。

※「人数は未確定」とは、「(8) 新設学部・新設学科の卒業生の採用意向について」にて、「採用したい」「採用を検討したい」と回答し将来的な採用意向は示すが、アンケートの時点では将来的な採用人数について確定していないものである。したがって、本調査では「人数は未確定」の将来的な採用人数を最低数である「1人」として計算した。

生命科学部バイオサイエンス学科

下記の表より、東京農業大学生命科学部バイオサイエンス学科の卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、213人分となる。入学定員は140名であるため、約1.52倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は671人となり、これは、入学定員140名に対して、約4.79倍となる。

生命科学部バイオサイエンス学科

| 回答数(件) 人数(人) | 「採用したい」 のみ | 合計 |
|-----------------|---------------|-------------------|
| 1人(A) | 40 | (a) (A) × (a) 40 |
| 2人(B) | 9 | (b) (B) × (b) 18 |
| 3人(C) | 1 | (c) (C) × (c) 3 |
| 4人(D) | - | (d) (D) × (d) - |
| 5人以上(E) | 6 | (e) (E) × (e) 30 |
| 人数は未確定(F) | 122 | (f) (F) × (f) 122 |
| 無回答 | 5 | |

合計採用意向 213人

※採用人数が無回答であった場合は、計算から除外した

| 回答数(件) 人数(人) | 「採用したい」 「採用を検討し たい」の合計 | 合計 |
|-----------------|------------------------------|----|
| 1人(A) | 107 (a) (A) × (a) 107 | |
| 2人(B) | 16 (b) (B) × (b) 32 | |
| 3人(C) | 2 (c) (C) × (c) 6 | |
| 4人(D) | 1 (d) (D) × (d) 4 | |
| 5人以上(E) | 7 (e) (E) × (e) 35 | |
| 人数は未確定(F) | 487 (f) (F) × (f) 487 | |
| 無回答 | 17 | |

合計採用意向 671人

生命科学部分子生命化学科

下記の表より、東京農業大学生命科学部分子生命化学科の卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、195 人分となる。入学定員は 115 名であるため、約 1.69 倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は 665 人となり、これは、入学定員 115 名に対して、約 5.78 倍となる。

生命科学部分子生命化学科

| 回答数(件) 人数(人) | 「採用したい」 のみ | 合計 | 回答数(件) 人数(人) | 「採用したい」 「採用を検討し たい」の合計 | 合計 |
|-----------------|---------------|---------------|-----------------|------------------------------|---------------|
| 1人(A) | 30 (a) | (A) × (a) 30 | 1人(A) | 93 (a) | (A) × (a) 93 |
| 2人(B) | 10 (b) | (B) × (b) 20 | 2人(B) | 17 (b) | (B) × (b) 34 |
| 3人(C) | 1 (c) | (C) × (c) 3 | 3人(C) | 2 (c) | (C) × (c) 6 |
| 4人(D) | - (d) | (D) × (d) - | 4人(D) | 1 (d) | (D) × (d) 4 |
| 5人以上(E) | 6 (e) | (E) × (e) 30 | 5人以上(E) | 7 (e) | (E) × (e) 35 |
| 人数は未確定(F) | 112 (f) | (F) × (f) 112 | 人数は未確定(F) | 493 (f) | (F) × (f) 493 |
| 無回答 | 5 | | 無回答 | 19 | |
| 合計採用意向 195 人 | | | 合計採用意向 665 人 | | |

※採用人数が無回答であった場合は、計算から除外した

生命科学部分子微生物学科

下記の表より、東京農業大学生命科学部分子微生物学科の卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、211 人分となる。入学定員は 115 名であるため、約 1.83 倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は 680 人となり、これは、入学定員 115 名に対して、約 5.91 倍となる。

生命科学部分子微生物学科

| 回答数(件) 人数(人) | 「採用したい」 のみ | 合計 | 回答数(件) 人数(人) | 「採用したい」 「採用を検討し たい」の合計 | 合計 |
|-----------------|---------------|---------------|-----------------|------------------------------|---------------|
| 1人(A) | 34 (a) | (A) × (a) 34 | 1人(A) | 102 (a) | (A) × (a) 102 |
| 2人(B) | 11 (b) | (B) × (b) 22 | 2人(B) | 17 (b) | (B) × (b) 34 |
| 3人(C) | 2 (c) | (C) × (c) 6 | 3人(C) | 4 (c) | (C) × (c) 12 |
| 4人(D) | - (d) | (D) × (d) - | 4人(D) | - (d) | (D) × (d) - |
| 5人以上(E) | 7 (e) | (E) × (e) 35 | 5人以上(E) | 8 (e) | (E) × (e) 40 |
| 人数は未確定(F) | 114 (f) | (F) × (f) 114 | 人数は未確定(F) | 492 (f) | (F) × (f) 492 |
| 無回答 | 5 | | 無回答 | 15 | |
| 合計採用意向 211 人 | | | 合計採用意向 680 人 | | |

※採用人数が無回答であった場合は、計算から除外した

地域環境科学部地域創成科学科

下記の表より、東京農業大学地域環境科学部地域創成科学科の卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、341 人分となる。入学定員は 80 名であるため、約 4.26 倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は 806 人となり、これは、入学定員 80 名に対して、約 10.07 倍となる。

地域環境科学部地域創成科学科

| 回答数(件) 人数(人) | 「採用したい」 のみ | 合計 | 回答数(件) 人数(人) | 「採用したい」 「採用を検討し たい」の合計 | 合計 |
|-----------------|-------------------|-----|-----------------|------------------------------|-----|
| 1人(A) | 53 (a) (A) × (a) | 53 | 1人(A) | 131 (a) (A) × (a) | 131 |
| 2人(B) | 25 (b) (B) × (b) | 50 | 2人(B) | 33 (b) (B) × (b) | 66 |
| 3人(C) | 11 (c) (C) × (c) | 33 | 3人(C) | 13 (c) (C) × (c) | 39 |
| 4人(D) | 1 (d) (D) × (d) | 4 | 4人(D) | 1 (d) (D) × (d) | 4 |
| 5人以上(E) | 11 (e) (E) × (e) | 55 | 5人以上(E) | 12 (e) (E) × (e) | 60 |
| 人数は未確定(F) | 146 (f) (F) × (f) | 146 | 人数は未確定(F) | 506 (f) (F) × (f) | 506 |
| 無回答 | 6 | | 無回答 | 19 | |

合計採用意向 341 人

合計採用意向 806 人

※採用人数が無回答であった場合は、計算から除外した

国際食料情報学部国際食農科学科

下記の表より、東京農業大学国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、278 人分となる。入学定員は 100 名であるため、2.78 倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は 748 人となり、これは、入学定員 100 名に対して、7.48 倍となる。

国際食料情報学部国際食農科学科

| 回答数(件) 人数(人) | 「採用したい」 のみ | 合計 | 回答数(件) 人数(人) | 「採用したい」 「採用を検討し たい」の合計 | 合計 |
|-----------------|-------------------|-----|-----------------|------------------------------|-----|
| 1人(A) | 38 (a) (A) × (a) | 38 | 1人(A) | 119 (a) (A) × (a) | 119 |
| 2人(B) | 14 (b) (B) × (b) | 28 | 2人(B) | 23 (b) (B) × (b) | 46 |
| 3人(C) | 9 (c) (C) × (c) | 27 | 3人(C) | 10 (c) (C) × (c) | 30 |
| 4人(D) | 1 (d) (D) × (d) | 4 | 4人(D) | 1 (d) (D) × (d) | 4 |
| 5人以上(E) | 9 (e) (E) × (e) | 45 | 5人以上(E) | 10 (e) (E) × (e) | 50 |
| 人数は未確定(F) | 136 (f) (F) × (f) | 136 | 人数は未確定(F) | 499 (f) (F) × (f) | 499 |
| 無回答 | 4 | | 無回答 | 19 | |

合計採用意向 278 人

合計採用意向 748 人

※採用人数が無回答であった場合は、計算から除外した

以上の調査結果と、今回の調査対象以外の進路も考えられることから、東京農業大学生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生の進路は十分に確保できるものと考える。

調査票

東京農業大学 生命科学部(仮称)、地域環境科学部地域創成科学科(仮称)、
国際食料情報学部国際食農科学科(仮称)の設置に係るアンケート調査

- ・このアンケート調査は2017年4月に設置を予定している新学部・新学科の設置構想の基礎資料とするため、貴社の採用状況・意向についてお聞きするものです。
- ・このアンケート結果は、統計資料としてのみ用い、目的以外に利用することはありません。
- ・回答は、該当する番号を回答欄へ直接記入してください。

★調査回答締め切りのお願い

2015年10月2日(金)までに、同封の返信用封筒にてご投函頂きますようお願いいたします。

【 貴社についてお聞きします 】

【回答欄】

- Q1. 本社・支社・事業所等についてお聞きします。
次の中から該当する番号を1つお選びください。

1. 本社 2. 支社 3. 単独事業所

- Q2. 所在地についてお聞きします。次の中から該当する番号を1つお選びください。
※Q1の【企業】で「1. 本社」以外を選択された場合は、その所在地をお答えください。

1. 東京都 2. 神奈川県 3. 千葉県 4. 埼玉県
5. 北海道 6. 静岡県 7. 愛知県 8. 大阪府
9. 長野県 10. 茨城県 11. 新潟県 12. 群馬県
13. 兵庫県 14. その他()

- Q3. 業種についてお聞きします。次の中から最も当てはまる番号を1つお選びください。

1. 農業・林業 2. 漁業
3. 鉱業・採石業・砂利採取業 4. 建設業
5. 製造業 6. 電気・ガス・熱供給・水道業
7. 情報通信業 8. 運輸業・郵便業
9. 卸売業・小売業 10. 金融業・保険業
11. 不動産業・物品販貸業 12. 学術研究・専門技術サービス業
13. 宿泊業・飲食サービス業 14. 生活関連サービス業・娯楽業
15. 教育・学習支援業 16. 医療・福祉
17. 複合サービス業 18. サービス業(他に分類されないもの)
19. 公務(他に分類されるものを除く) 20. その他(具体的に)

- Q4. 昨年度に採用された人数について、該当する番号を1つお選びください。

(支社または単独事業所でお答えいただいている場合は、そちらでの採用数をお願いします)

1. 0名 2. 1~4名 3. 5~9名 4. 10~19名 5. 20名以上

- Q5. 今後の人材採用について、どのようにお考えですか。お考えに近い番号を1つお選びください。

1. 毎年、安定的に採用していくと思う
2. できれば、毎年安定的に採用していきたいと思う
3. 每年ではないが、ある程度は安定的に採用していきたいと思う
4. 増員が必要になった場合に、採用を考える
5. 欠員が出た場合に、採用を考える
6. 当面、採用は行わないと思う

- Q6. 今後、人材の採用にあたり、どのような出身学歴(最終学歴)の方の採用をお考えですか。

「採用対象となる」と思われる番号を第3位までお選びください。

1. 大学院
2. 大学
3. 短期大学
4. 専門学校
5. その他()

a: 第1位

b: 第2位

c: 第3位

【 ここからは、同封の「生命科学部(仮称)、地域環境科学部地域創成科学科(仮称)、国際食料情報学部国際食農科学科(仮称)の概要」をご覧になりながらお答えください 】

Q7. 東京農業大学が構想している新学部・新学科の社会的必要性についてどのようにお考えになりますか。学部・学科ごとに次の中から該当する番号を1つお選びください。

1. 社会的必要性が高い分野である 2. 一応、社会的必要性を感じる
3. あまり必要性を感じない 4. 必要性はない
5. わからない 6. その他（具体的に）

a : 生命科学部バイオサイエンス学科（仮称）→ b : 生命科学部分子生命化学科（仮称）→
c : 生命科学部分子微生物学科（仮称）→ d : 地域環境科学部地域創成科学科（仮称）→
e : 国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）→

Q8. 東京農業大学が構想している新学部・新学科卒業生の採用意向についておたずねします。学部・学科ごとに次の中から該当する番号を1つお選びください。

1. 採用したい
2. 採用を検討したい
3. 採用は考えない

1つでも1、2を選ばれた方はQ9へお進みください。
全て3を選ばれた方はQ10へお進みください。

a : 生命科学部バイオサイエンス学科（仮称）→ b : 生命科学部分子生命化学科（仮称）→
c : 生命科学部分子微生物学科（仮称）→ d : 地域環境科学部地域創成科学科（仮称）→
e : 国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）→

Q9. 東京農業大学が構想している新学部・新学科の卒業生を何人程度採用したいと考えますか。Q8にて「採用したい」「採用を検討したい」を選択した学科について、次の中から該当する番号を1つお選びください。

1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人以上 6. 人数は未確定

a : 生命科学部バイオサイエンス学科（仮称）→ b : 生命科学部分子生命化学科（仮称）→
c : 生命科学部分子微生物学科（仮称）→ d : 地域環境科学部地域創成科学科（仮称）→
e : 国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）→

Q10. 東京農業大学が構想している新学部・新学科の設置構想にあたり、ご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。その他、大学の教育内容・活動等について、ご意見等ございましたら、あわせてご記入ください。

◆◆ 最後までご協力いただき、ありがとうございました ◆◆

東京農業大学 大学改革推進室（担当：村越）

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1 電話：03-5477-2650 FAX：03-5477-2804



正門に掛かる門標は棟方志功の揮毫

進化する東京農大

2017年4月設置構想中

新設 生命科学部※<仮称> 世田谷キャンパス

新設 バイオサイエンス学科※<仮称> 定員 140名

新設 分子生命化学科※<仮称> 定員 115名

新設 分子微生物学科※<仮称> 定員 115名

地域環境科学部 世田谷キャンパス

新設 地域創成科学科※<仮称> 定員 80名

国際食料情報学部 世田谷キャンパス

新設 国際食農科学科※<仮称> 定員 100名

“生きる”を支える

東京農業大学

TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE FOUNDED IN 1891

※学部・学科の概要等は予定であり、変更する場合があります。

「農のこころ」を育み “生きる”を支える東京農業大学



東京農業大学 学長

農学博士 高野 克己

東京農大は生命・食料・環境・健康・エネルギー・地域再生など、人類の生存に関わる幅広い農学領域を対象に、国内外の様々な課題解決に取り組んでいます。

人類はその叡智により自然の恵みを享受し、高度に複雑化した現代社会を創造しました。一方では、地球規模の気候変動に伴う環境変化と自然災害の増加、人口増加による食料危機、水不足、生活環境の悪化、経済格差の拡大など、地球とそこに生きる多様な生き物、人類の生存を脅かす課題に直面しています。

東京農大は建学の精神「人物を畠に還す」と教育・研究の理念「実学主義」に基づき、世界水準の先端研究と生命を大切にする「農のこころ」を育む実学教育を推進し、未来の問題を解決できる人物をグローバル社会に輩出します。

東京農大は、農と生命を科学し、“生きる”を支えるエシカル（環境保全・社会貢献など）な社会の構築を目指します。

学部改組の趣旨

新設 ●生命科学部（新設・仮称）※¹

生物の設計図である遺伝子は、生命のメカニズムの情報を伝える物質であり、それを利用して人々の生活をより豊かにする試みに、社会の注目が年々高まっています。また、生命を作り機能させている化学反応と、最もシンプルな生物である微生物の研究・応用は、環境、食料、健康、エネルギーなどの新技術開発に貢献する大きな潜在能力を秘めています。生命の本質を科学する本学部では、基盤をなす分子・遺伝子・細胞からまるごとの微生物・動植物まで幅広い理解をベースに、それらの解析と革新的な活用法の探求に主眼をおいています。その専門教育と研究活動の成果によって、将来にわたり社会問題の解決に貢献し国際的に活躍できる人材の育成をめざしていきます。

●地域環境科学部

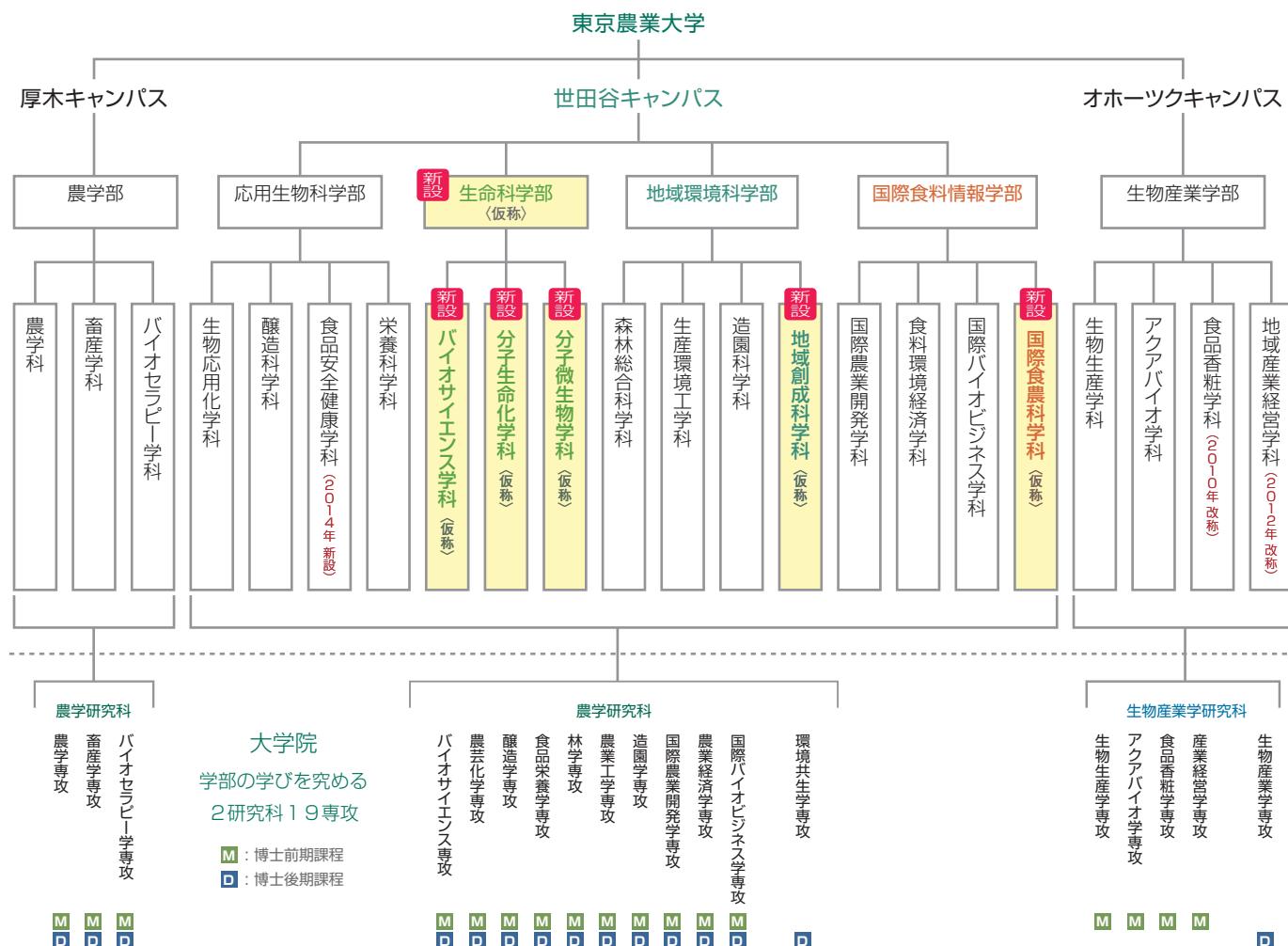
近年、地球温暖化や気候変動などによって巨大台風の襲来や局地的豪雨、猛暑日など地球規模の環境問題が表面化しています。2013年6月のリオ+20では「グリーンエコノミー」が提言され、環境問題への具体的な取り組みが世界的に問われています。社会では、生産力優先から生活重視へ、開発主義から生物多様性保全へ、さらに地域づくりの視点もグローバル経済からローカル経済重視へと変化してきました。そのため新たな地域環境科学部では、21世紀の環境の時代における「地域づくり」や「地域再生」を基本理念に、農学系の知識や技術を基礎として、持続可能な循環型社会の構築に貢献し、地域で活躍できる人材の育成をめざします。

●国際食料情報学部

日本の「和食」が世界無形文化遺産に、「能登の里山里海」等が世界農業遺産に登録されるなど、近年、伝統的な食農文化に対する国民の関心が増大しています。こうした背景から、農業生産をとりまく社会では、地域の食農文化を継承し世界に発信していくことのできる人材、また、農業を基盤とした経営の6次産業化の発展に貢献できる人材、さらに食の世界市場に向けた経営展開を実現できる人材の育成が欠かせない時代を迎えています。そのため「日本と世界の食料・農業・農村問題の解決に向けて、国際的情報網の活用のもと、総合的・実践的に挑戦する」を国際食料情報学部の基本理念とし、社会のニーズに応え、活躍できる人材の育成をめざします。

※1 学部・学科の概要等は予定であり、変更する場合があります。

多様な農学分野をカバーする 3キャンパス6学部22学科へ



生命科学部

バイオサイエンス学科

<仮称／設置構想中>

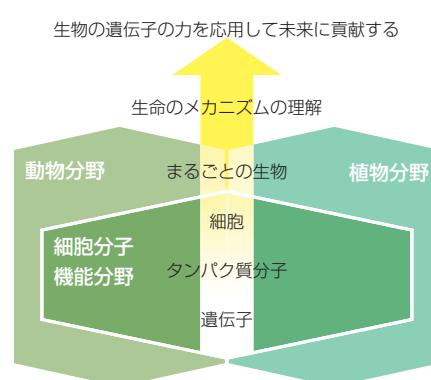
学科のキーワード

- ◆動物 ◆植物 ◆細胞 ◆機能分子 ◆遺伝子操作 ◆ゲノム
- ◆脳 ◆発生 ◆細胞培養 ◆増殖・分化 ◆育種 ◆遺伝子工学
- ◆植物の環境耐性 ◆創薬 ◆機能性食品開発 ◆イメージング

遺伝子の力を解き明かし、未来の生活に貢献する

遺伝子は生物の設計図。最先端のバイオ技術を駆使して、遺伝子の働きを解き明かし、遺伝子の力を最大限に引き出して、人類が抱えている食料、健康、環境の諸問題の解決をめざします。細胞、そして動物と植物を研究対象として、遺伝子操作を中心とした遺伝子工学技術から、生きている生物の内部を観察するライブイメージング（可視化）技術に至るまで、基礎・専門的の技法を身につけます。講義では最先端の知識を学習します。

●教育課程の特色



■取得資格(予定)

中学校教諭一種免許状(理科)^{*2}
高等学校教諭一種免許状(理科／農業)^{*2}
危険物取扱責任者、学芸員、司書

■予想される進路

大学院、化学系企業、製薬企業、環境科学・生物関連企業、食品系企業など

予想される研究テーマ

- 遺伝子操作マウスを用いたレチノイン酸(ビタミンA)により記憶力が良くなるメカニズムの解析 ●藻類の細胞増殖制御に関する研究 ●生物間コミュニケーション分子の解析 ●哺乳動物の未熟な卵子を成熟させる体外培養法の確立 ●イネ乾燥耐性品種選抜のためのDNAマーカー探索 ●植物の低温驯化プロセスにおけるタンパク質リン酸化酵素活性化の分子機構

*1 学部・学科の概要等は予定であり、変更する場合があります。

*2 課程認定申請予定。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更となる可能性があります。

生命科学部

分子生命化学科^{※1}

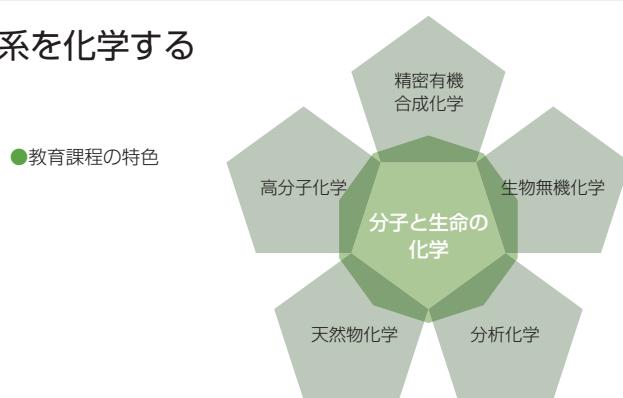
<仮称／設置構想中>

学科のキーワード

- ◆原子・分子 ◆化学力養成 ◆農学領域を化学の視点から
- ◆日常生活で取り扱う最小単位 ◆遺伝子よりも小さい
- ◆新物質の探究 ◆バイオプラスチック

原子・分子の視点から生命、農業、生態系を化学する

生物圏のあらゆる“生命”現象には、原子・分子が関わっています。この原子・分子の動きを化学的な視点で解き明かしていくことで、これから農学の可能性をより広げていくことを狙いとしています。精密有機合成化学、天然物化学を中心に、高分子化学、分析化学を基盤とする研究・教育を展開、また大学院への進学もサポートし、汎用性のある基礎力を有する人材を育成します。さらに、農場実習などの「農の現場を知る」ための実習も行います。



■取得資格(予定)

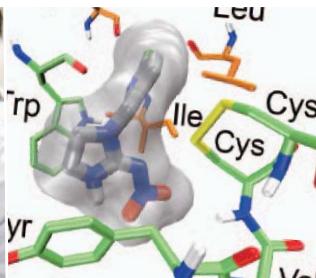
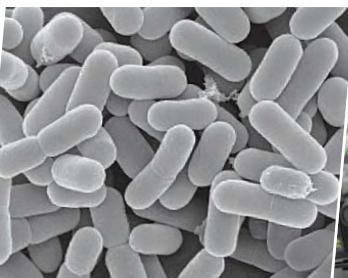
中学校・高等学校教諭一種免許状(理科)^{※2}、
危険物取扱責任者、学芸員、司書

■予想される進路

大学院、化学系企業、製薬企業、公務員、環境科学・生物関連企業など

予想される研究テーマ

- 超微量で生物の機能・行動に影響を与える物質の設計
- 植物・動物・微生物からの新規有用化合物の探索および分離
- 生物学的・化学的手法によるバイオプラスチックの創製
- 細胞を構成する有機分子の解析・合成
- 医療・農薬の開発につながる天然有機化合物の合成



生命科学部

分子微生物学科^{※1}

<仮称／設置構想中>

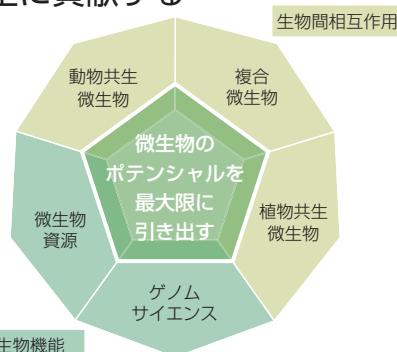
学科のキーワード

- ◆微生物探索 ◆プロバイオティクスと健康 ◆病原菌応答 ◆生物間相互作用
- ◆ゲノム ◆バイオインフォマティクス ◆環境浄化 ◆有用物質生産
- ◆発酵代謝 ◆腸内細菌 ◆極限微生物 ◆微細藻類

微生物を先端科学で追求し、動植物の健全な生育と環境保全に貢献する

微生物は地球上の最もシンプルな生命体。あらゆる環境に生息しますが、これまでに見つかっている微生物種はほんの数%にすぎません。植物や動物、そして広大な地球環境を研究対象として、これまで未解明であったミクロの世界を先端科学のちからで追求することで、未来の農学分野への貢献を目指します。未解明の生命現象へ果敢に挑戦する独創性に富む人材の育成を目指します。

●教育課程の特色



■取得資格(予定)

中学校教諭一種免許状(理科)^{※2}、
高等学校教諭一種免許状(理科／農業)^{※2}、
学芸員、司書、危険物取扱責任者

■予想される進路

大学院、バイオ産業、製薬企業、食品産業、発酵産業、
健康産業、検査業界、環境科学、公務員、教員

予想される研究テーマ

- 未知微生物の探索と有用な生命現象の発見
- ゲノム情報を活用した微生物の新規機能開発
- 植物-微生物間の病原応答機構に関する分子応答解析
- 微生物に対する動物の生体防御機構
- 極限環境微生物が持つ環境ストレス耐性能力の有効利用
- 乳酸菌のゲノムネットワーク解析による有用物質生産
- 酵母と乳酸菌の協調的増幅に関わる因子の推定
- 腸内細菌が健康におよぼす影響

※1 学部・学科の概要等は予定であり、変更する場合があります。

※2 課程認定申請予定。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更となる可能性があります。

地域環境科学部

地域創成科学科^{※1}

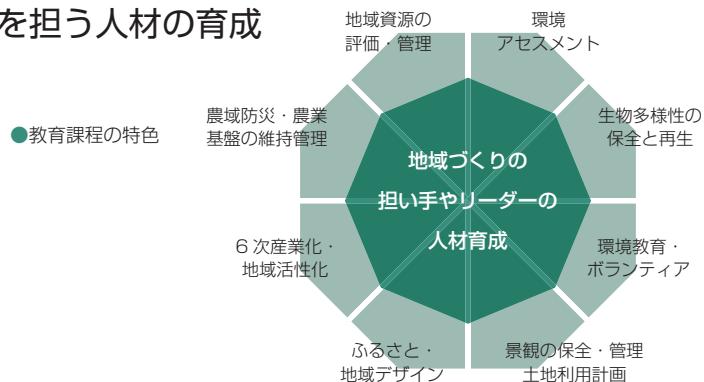
<仮称／設置構想中>

学科のキーワード

- ◆生物多様性 ◆土地利用 ◆自然再生 ◆SATOYAMA
- ◆地域防災 ◆農業施設 ◆農村都市交流 ◆地域貢献 ◆環境教育
- ◆農山村インターンシップ

持続可能な循環型社会の再構築とそれを担う人材の育成

里山などの“地域”的伝統的な文化や知恵と最新の技術を融合させ、持続可能な土地利用の構築、地域づくりの実現に貢献します。地域が抱える問題を総合的に捉え、生物多様性や生態系に配慮した土地利用、地域防災に関する保全・管理技術、環境教育、政策立案、地域マネジメントといった実学型教育を通じて、地域づくりの担い手やリーダーになり得る人材の育成を目指します。



■取得資格(予定)

高等学校教諭一種免許状(農業)^{※2}、学芸員、司書、測量士補、自然再生士補、樹木医補、技術士補

■予想される進路

大学院、農産物流通業、建設業(土木・造園)、農業協同組合、観光・レクリエーション業、地方自治体、教員など

予想される研究テーマ

- 伝統的な草地利用による春植物の保全 ●農地や樹林地におけるファイトレメディエーション ●動植物、植生調査による自然空間の実態把握 ●気象観測データによる土砂災害の予測と最適避難経路の選定
- 食品廃棄物の肥料化による地域内の窒素・炭素循環 ●住民参加型の農業施設管理とその経済性評価
- ボランティアによる中山間地の草地管理と景観認識調査



国際食料情報学部

国際食農科学科^{※1}

<仮称／設置構想中>

学科のキーワード

- ◆和食 日本人の伝統的な食文化 ◆世界農業遺産 ◆伝統野菜
- ◆食育 ◆農業の教育力 ◆食のマルシェ ◆6次産業化 ◆フードツーリズム
- ◆地産地消 ◆スローフード ◆フェアトレード

世界に向けて日本の食農技術・文化を展開

日本の食と農に関する文化、それらを支える栽培や加工技術は、今日、世界的に注目を集めています。本学科では、農学の柱となる生産科学系、食品科学系、食農文化系、食農政策系、食農教育系などの多様性のある教育システムで、総合的に食と農の伝統と新たな発展の可能性を理解し、国際的な視野で活躍できる人材の育成を目指します。

●教育課程の特色



■取得資格(予定)

高等学校教諭一種免許状(農業)^{※2}、学芸員、司書、食の6次産業化プロデューサー、フードスペシャリスト

■予想される進路

大学院、食品系商社、総合商社、食品メーカー、貿易、広告・マスコミ、農業協同組合・生活協同組合、NPO、公務員、教員、新規就農、農業法人など

予想される研究テーマ

- 食文化・農村文化と地域振興 ●都市農村交流による地域活性化とメディア戦略 ●調理加工特性を活かした食品素材の有効利用
- 食品の機能性に関する研究 ●伝統野菜の生理・生態に関する研究
- 世界のフェアトレードによる国際貢献活動に関する研究 ●海外における学校菜園の教育効果
- 食育プログラムの開発

※1 学部・学科の概要等は予定であり、変更する場合があります。

※2 課程認定申請予定。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更となる可能性があります。

緑あふれる都市型キャンパス

東京農業大学のメインキャンパスである世田谷キャンパスは、小田急線経堂駅を最寄りとしています。新宿まで30分強、渋谷へは正門前バス停からやはり30分程度ということもあります、非常に都心にアクセスしやすい立地にあります。

広い敷地内には、100種類以上の樹木があふれ、落ち着いた雰囲気に包まれています。講義棟である1号館、図書館やコンピュータセンターが入った「農大アカデミアセンター」など、新校舎も次々に誕生しています。



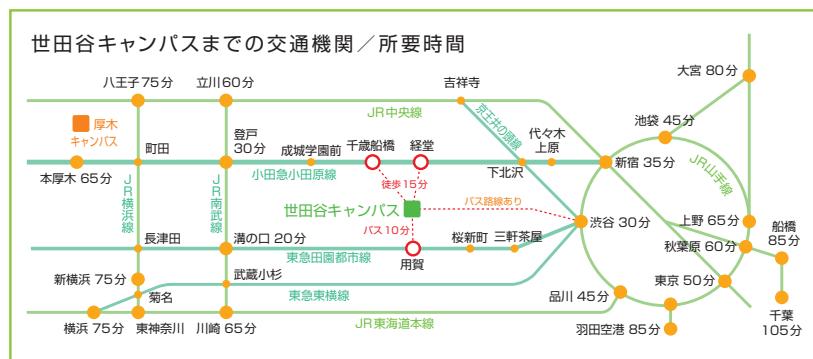
キャンパスより新宿方面を望む



6階建ての講義棟・1号館



芝生がひろがる「ユリノキ広場」は学生の人気スポット



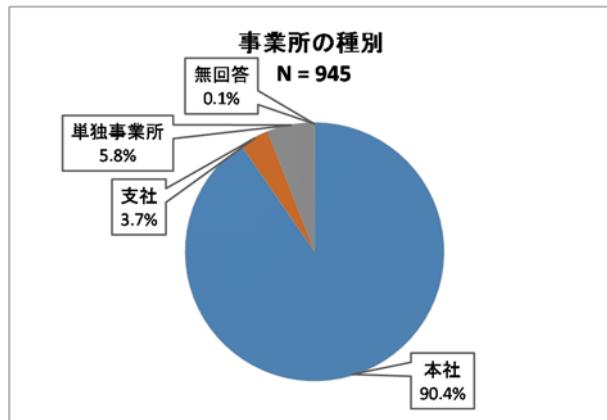
東京農業大学
www.nodai.ac.jp

お問い合わせ先

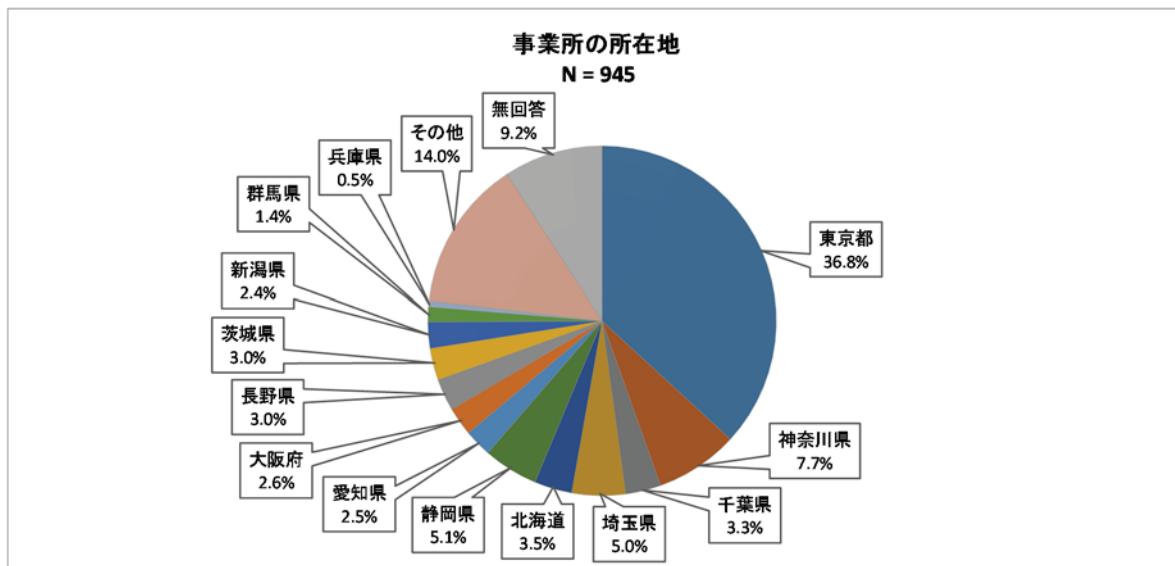
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
TEL.03-5477-2226 (入試センター)

单纯集計表

| 事業所の種別 | | | |
|--------|----------|-----|-------|
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
| 1 | 本社 | 854 | 90.4 |
| 2 | 支社 | 35 | 3.7 |
| 3 | 単独事業所 | 55 | 5.8 |
| | 無回答 | 1 | 0.1 |
| | N (%ベース) | 945 | 100 |



| 事業所の所在地 | | | |
|---------|----------|-----|-------|
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
| 1 | 東京都 | 348 | 36.8 |
| 2 | 神奈川県 | 73 | 7.7 |
| 3 | 千葉県 | 31 | 3.3 |
| 4 | 埼玉県 | 47 | 5.0 |
| 5 | 北海道 | 33 | 3.5 |
| 6 | 静岡県 | 48 | 5.1 |
| 7 | 愛知県 | 24 | 2.5 |
| 8 | 大阪府 | 25 | 2.6 |
| 9 | 長野県 | 28 | 3.0 |
| 10 | 茨城県 | 28 | 3.0 |
| 11 | 新潟県 | 23 | 2.4 |
| 12 | 群馬県 | 13 | 1.4 |
| 13 | 兵庫県 | 5 | 0.5 |
| 14 | その他 | 132 | 14.0 |
| | 無回答 | 87 | 9.2 |
| | N (%ベース) | 945 | 100 |

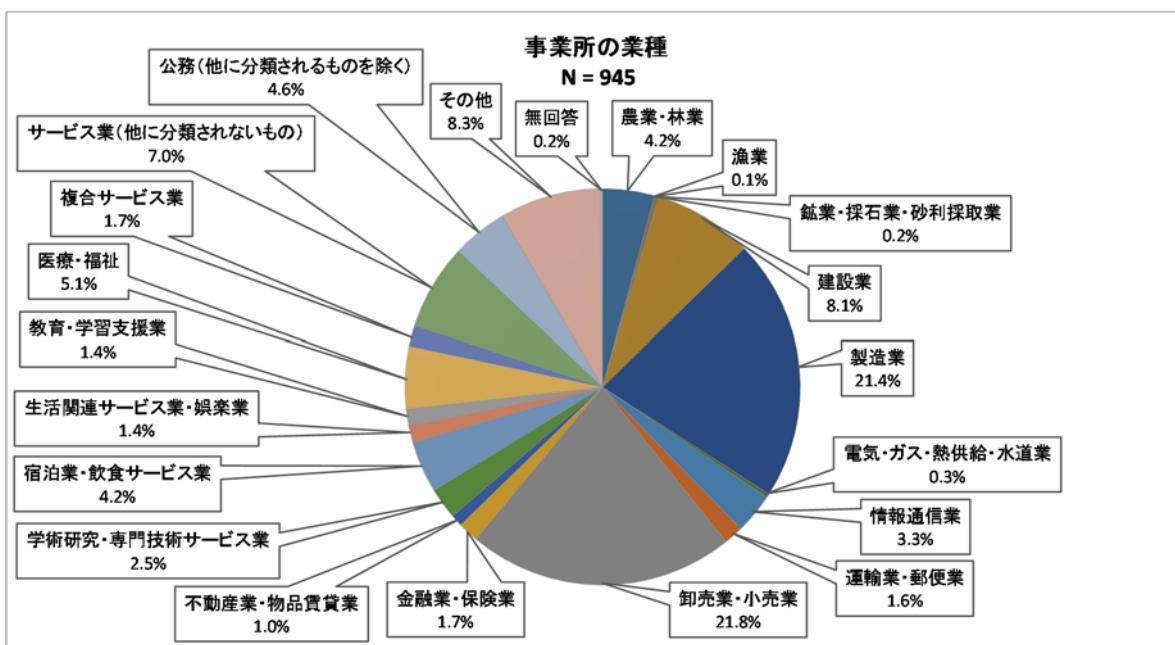


事業所の業種

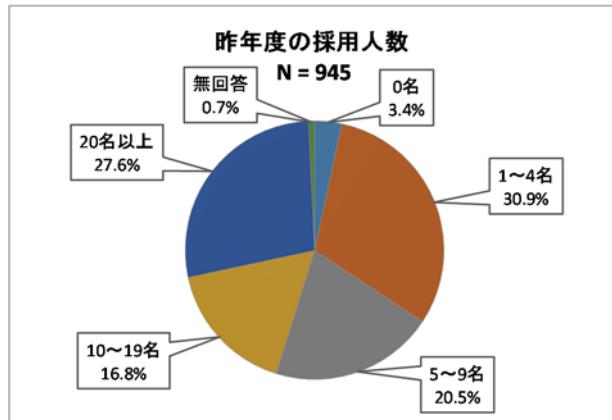
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|-----|-------------------|-----|-------|
| 1 | 農業・林業 | 40 | 4.2 |
| 2 | 漁業 | 1 | 0.1 |
| 3 | 鉱業・採石業・砂利採取業 | 2 | 0.2 |
| 4 | 建設業 | 77 | 8.1 |
| 5 | 製造業 | 202 | 21.4 |
| 6 | 電気・ガス・熱供給・水道業 | 3 | 0.3 |
| 7 | 情報通信業 | 31 | 3.3 |
| 8 | 運輸業・郵便業 | 15 | 1.6 |
| 9 | 卸売業・小売業 | 206 | 21.8 |
| 10 | 金融業・保険業 | 16 | 1.7 |
| 11 | 不動産業・物品貯蔵業 | 9 | 1.0 |
| 12 | 学術研究・専門技術サービス業 | 24 | 2.5 |
| 13 | 宿泊業・飲食サービス業 | 40 | 4.2 |
| 14 | 生活関連サービス業・娯楽業 | 13 | 1.4 |
| 15 | 教育・学習支援業 | 13 | 1.4 |
| 16 | 医療・福祉 | 48 | 5.1 |
| 17 | 複合サービス業 | 16 | 1.7 |
| 18 | サービス業(他に分類されないもの) | 66 | 7.0 |
| 19 | 公務(他に分類されるものを除く) | 43 | 4.6 |
| 20 | その他 | 78 | 8.3 |
| | 無回答 | 2 | 0.2 |
| | N (%ベース) | 945 | 100 |

事業所の業種

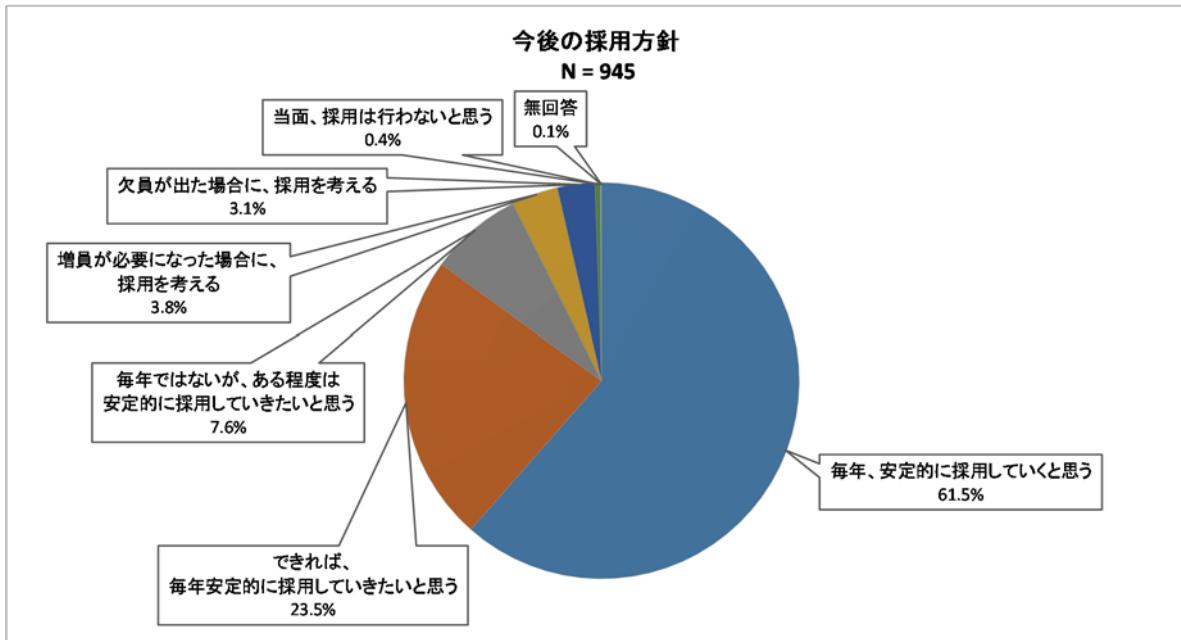
N = 945



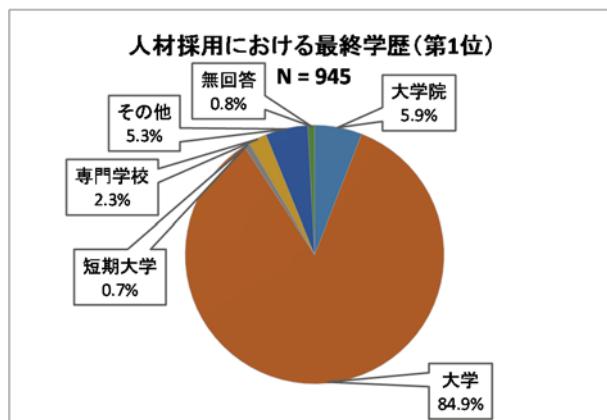
| 昨年度の採用人数 | | | |
|----------|----------|-----|-------|
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
| 1 | 0名 | 32 | 3.4 |
| 2 | 1~4名 | 292 | 30.9 |
| 3 | 5~9名 | 194 | 20.5 |
| 4 | 10~19名 | 159 | 16.8 |
| 5 | 20名以上 | 261 | 27.6 |
| | 無回答 | 7 | 0.7 |
| | N (%ベース) | 945 | 100 |



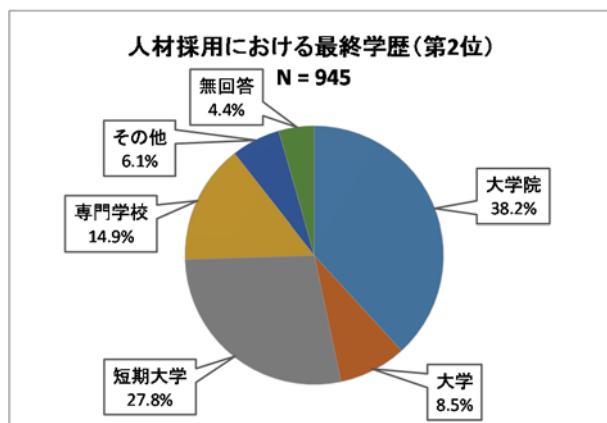
| 今後の採用方針 | | | |
|---------|------------------------------|-----|-------|
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
| 1 | 毎年、安定的に採用していくと思う | 581 | 61.5 |
| 2 | できれば、毎年安定的に採用していきたいと思う | 222 | 23.5 |
| 3 | 毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していきたいと思う | 72 | 7.6 |
| 4 | 増員が必要になった場合に、採用を考える | 36 | 3.8 |
| 5 | 欠員が出た場合に、採用を考える | 29 | 3.1 |
| 6 | 当面、採用は行わないと思う | 4 | 0.4 |
| | 無回答 | 1 | 0.1 |
| | N (%ベース) | 945 | 100 |



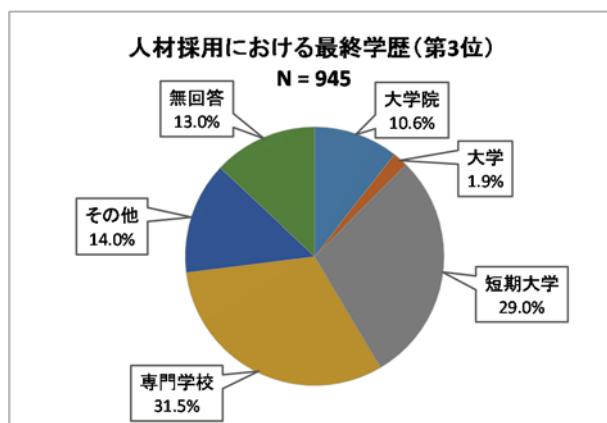
| 人材採用における最終学歴(第1位) | | | |
|-------------------|----------|-----|-------|
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
| 1 | 大学院 | 56 | 5.9 |
| 2 | 大学 | 802 | 84.9 |
| 3 | 短期大学 | 7 | 0.7 |
| 4 | 専門学校 | 22 | 2.3 |
| 5 | その他 | 50 | 5.3 |
| | 無回答 | 8 | 0.8 |
| | N (%ベース) | 945 | 100 |



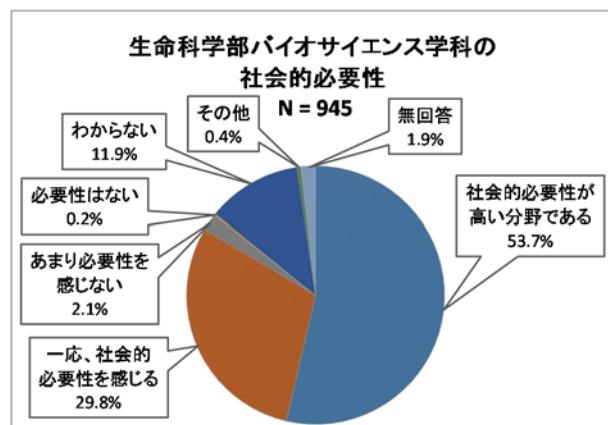
| 人材採用における最終学歴(第2位) | | | |
|-------------------|----------|-----|-------|
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
| 1 | 大学院 | 361 | 38.2 |
| 2 | 大学 | 80 | 8.5 |
| 3 | 短期大学 | 263 | 27.8 |
| 4 | 専門学校 | 141 | 14.9 |
| 5 | その他 | 58 | 6.1 |
| | 無回答 | 42 | 4.4 |
| | N (%ベース) | 945 | 100 |



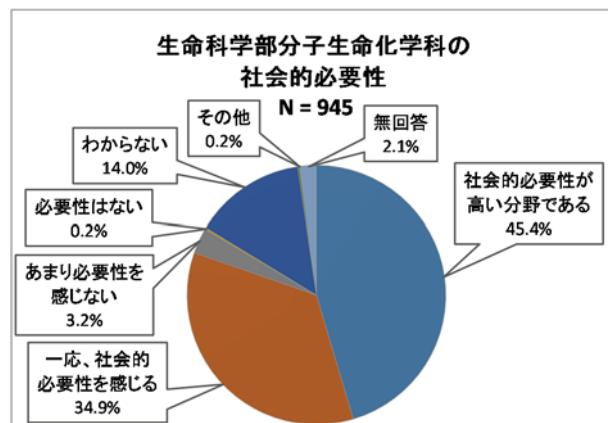
| 人材採用における最終学歴(第3位) | | | |
|-------------------|----------|-----|-------|
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
| 1 | 大学院 | 100 | 10.6 |
| 2 | 大学 | 18 | 1.9 |
| 3 | 短期大学 | 274 | 29.0 |
| 4 | 専門学校 | 298 | 31.5 |
| 5 | その他 | 132 | 14.0 |
| | 無回答 | 123 | 13.0 |
| | N (%ベース) | 945 | 100 |



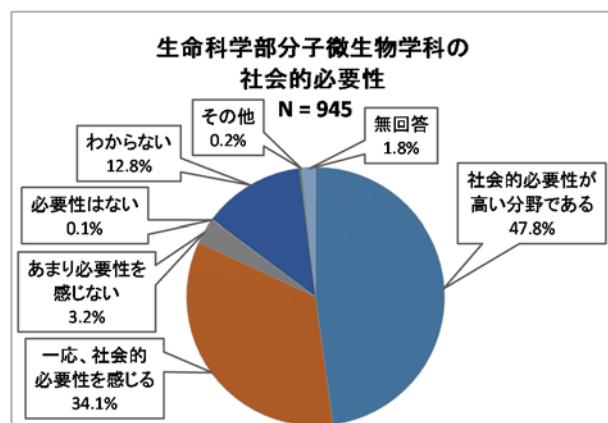
| 生命科学部バイオサイエンス学科の社会的必要性 | | |
|------------------------|----------------|----------|
| No. | カテゴリ | 件数 (全体)% |
| 1 | 社会的必要性が高い分野である | 507 53.7 |
| 2 | 一応、社会的必要性を感じる | 282 29.8 |
| 3 | あまり必要性を感じない | 20 2.1 |
| 4 | 必要性はない | 2 0.2 |
| 5 | わからない | 112 11.9 |
| 6 | その他 | 4 0.4 |
| | 無回答 | 18 1.9 |
| | N (%ベース) | 945 100 |



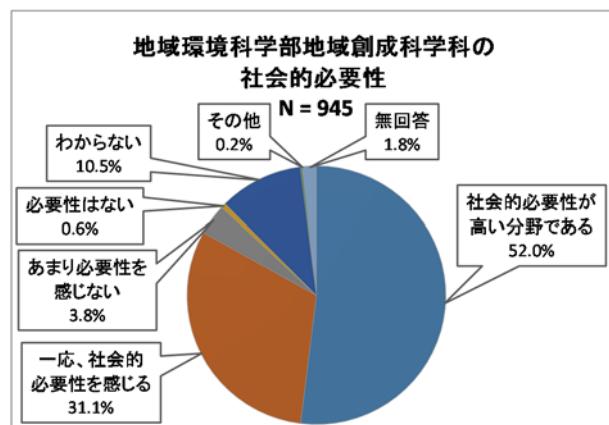
| 生命科学部分子生命化学科の社会的必要性 | | |
|---------------------|----------------|----------|
| No. | カテゴリ | 件数 (全体)% |
| 1 | 社会的必要性が高い分野である | 429 45.4 |
| 2 | 一応、社会的必要性を感じる | 330 34.9 |
| 3 | あまり必要性を感じない | 30 3.2 |
| 4 | 必要性はない | 2 0.2 |
| 5 | わからない | 132 14.0 |
| 6 | その他 | 2 0.2 |
| | 無回答 | 20 2.1 |
| | N (%ベース) | 945 100 |



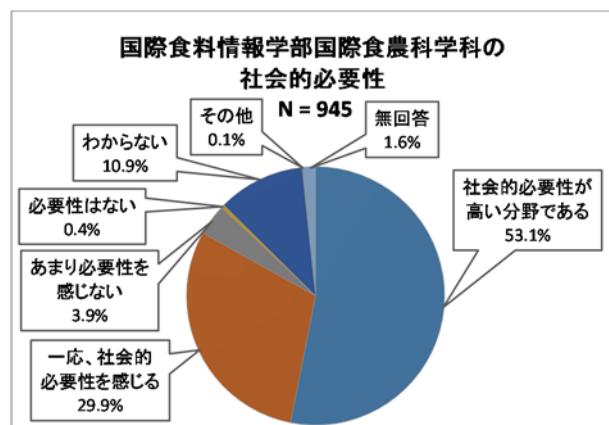
| 生命科学部分子微生物学科の社会的必要性 | | |
|---------------------|----------------|----------|
| No. | カテゴリ | 件数 (全体)% |
| 1 | 社会的必要性が高い分野である | 452 47.8 |
| 2 | 一応、社会的必要性を感じる | 322 34.1 |
| 3 | あまり必要性を感じない | 30 3.2 |
| 4 | 必要性はない | 1 0.1 |
| 5 | わからない | 121 12.8 |
| 6 | その他 | 2 0.2 |
| | 無回答 | 17 1.8 |
| | N (%ベース) | 945 100 |



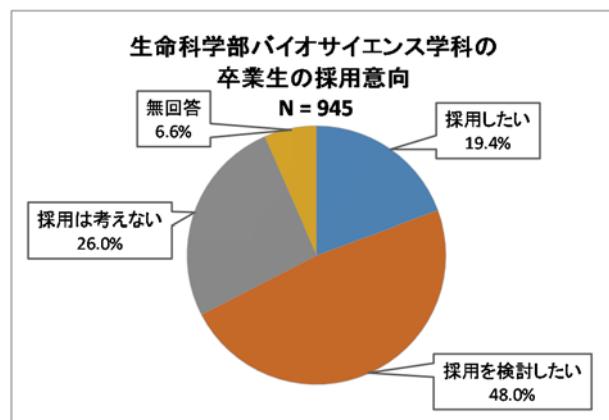
| 地域環境科学部地域創成科学科の社会的必要性 | | |
|-----------------------|----------------|----------|
| No. | カテゴリ | 件数 (全体)% |
| 1 | 社会的必要性が高い分野である | 491 52.0 |
| 2 | 一応、社会的必要性を感じる | 294 31.1 |
| 3 | あまり必要性を感じない | 36 3.8 |
| 4 | 必要性はない | 6 0.6 |
| 5 | わからない | 99 10.5 |
| 6 | その他 | 2 0.2 |
| | 無回答 | 17 1.8 |
| | N (%ベース) | 945 100 |



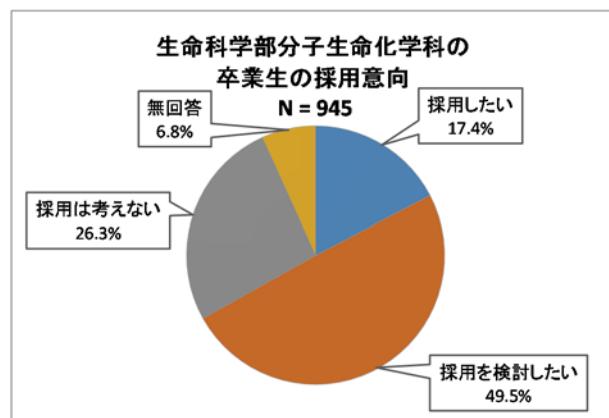
| 国際食料情報学部国際食農科学科の社会的必要性 | | |
|------------------------|----------------|----------|
| No. | カテゴリ | 件数 (全体)% |
| 1 | 社会的必要性が高い分野である | 502 53.1 |
| 2 | 一応、社会的必要性を感じる | 283 29.9 |
| 3 | あまり必要性を感じない | 37 3.9 |
| 4 | 必要性はない | 4 0.4 |
| 5 | わからない | 103 10.9 |
| 6 | その他 | 1 0.1 |
| | 無回答 | 15 1.6 |
| | N (%ベース) | 945 100 |



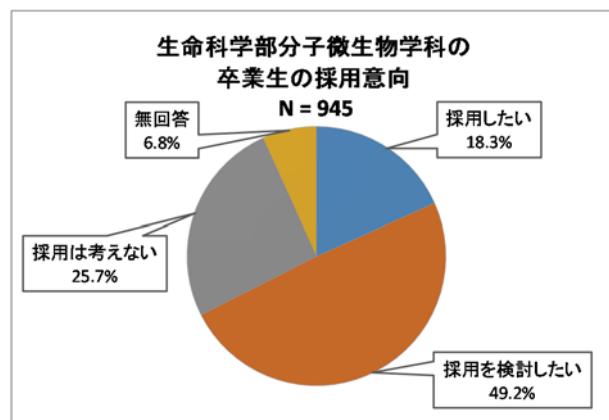
| 生命科学部バイオサイエンス学科の卒業生の採用意向 | | |
|--------------------------|----------|----------|
| No. | カテゴリ | 件数 (全体)% |
| 1 | 採用したい | 183 19.4 |
| 2 | 採用を検討したい | 454 48.0 |
| 3 | 採用は考えない | 246 26.0 |
| | 無回答 | 62 6.6 |
| N (%ベース) | | 945 100 |



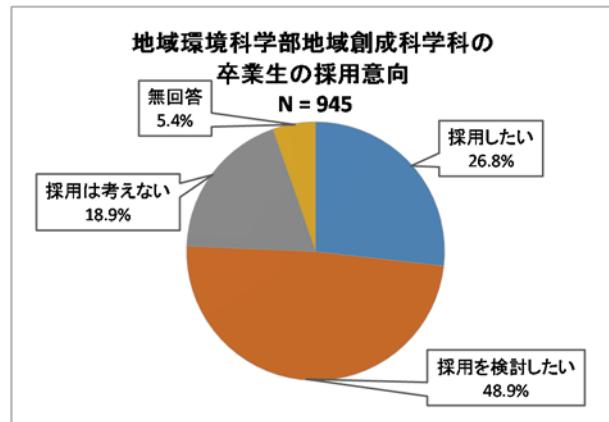
| 生命科学部分子生命化学科の卒業生の採用意向 | | |
|-----------------------|----------|----------|
| No. | カテゴリ | 件数 (全体)% |
| 1 | 採用したい | 164 17.4 |
| 2 | 採用を検討したい | 468 49.5 |
| 3 | 採用は考えない | 249 26.3 |
| | 無回答 | 64 6.8 |
| N (%ベース) | | 945 100 |



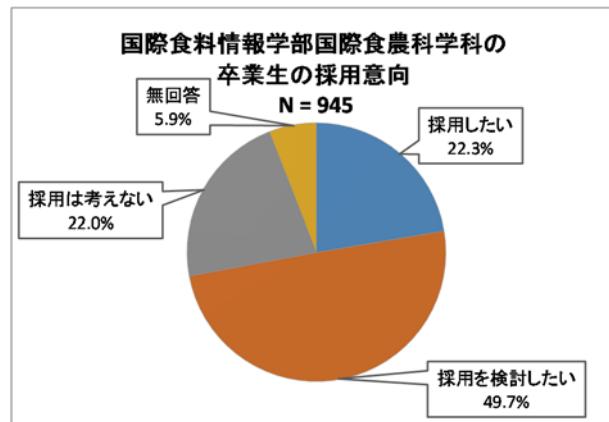
| 生命科学部分子微生物学科の卒業生の採用意向 | | |
|-----------------------|----------|----------|
| No. | カテゴリ | 件数 (全体)% |
| 1 | 採用したい | 173 18.3 |
| 2 | 採用を検討したい | 465 49.2 |
| 3 | 採用は考えない | 243 25.7 |
| | 無回答 | 64 6.8 |
| N (%ベース) | | 945 100 |



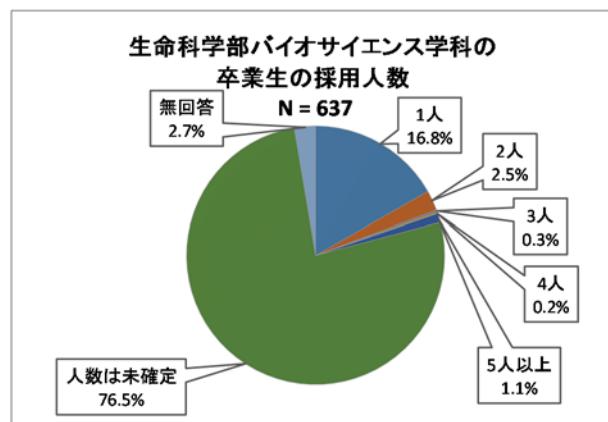
| 地域環境科学部地域創成科学科の卒業生の採用意向 | | |
|-------------------------|----------|----------|
| No. | カテゴリ | 件数 (全体)% |
| 1 | 採用したい | 253 26.8 |
| 2 | 採用を検討したい | 462 48.9 |
| 3 | 採用は考えない | 179 18.9 |
| | 無回答 | 51 5.4 |
| N (%ペース) | | 945 100 |



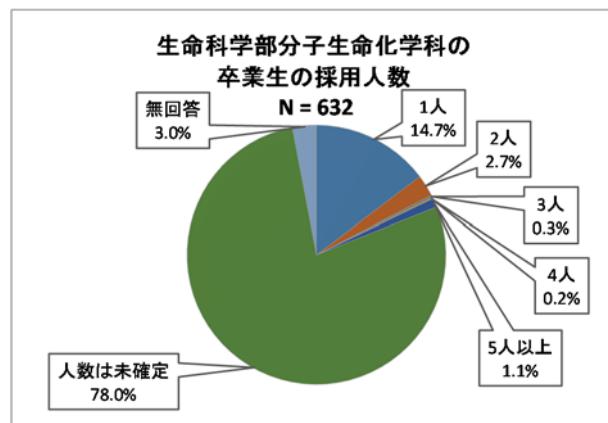
| 国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生の採用意向 | | |
|--------------------------|----------|----------|
| No. | カテゴリ | 件数 (全体)% |
| 1 | 採用したい | 211 22.3 |
| 2 | 採用を検討したい | 470 49.7 |
| 3 | 採用は考えない | 208 22.0 |
| | 無回答 | 56 5.9 |
| N (%ペース) | | 945 100 |



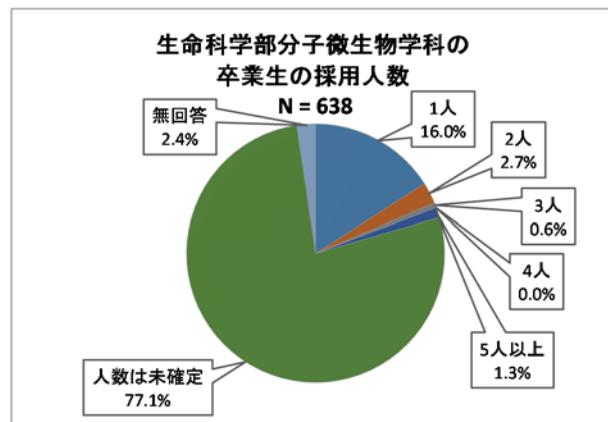
| 生命科学部バイオサイエンス学科の卒業生の採用人数 | | | |
|--------------------------|----------|-----|-------|
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
| 1 | 1人 | 107 | 16.8 |
| 2 | 2人 | 16 | 2.5 |
| 3 | 3人 | 2 | 0.3 |
| 4 | 4人 | 1 | 0.2 |
| 5 | 5人以上 | 7 | 1.1 |
| 6 | 人数は未確定 | 487 | 76.5 |
| | 無回答 | 17 | 2.7 |
| | N (%ベース) | 637 | 100 |



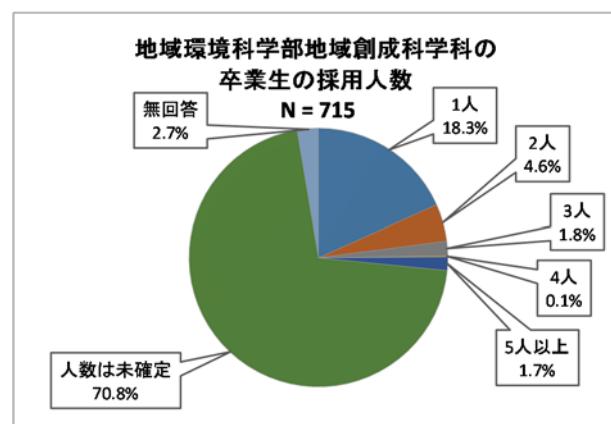
| 生命科学部分子生命化学科の卒業生の採用人数 | | | |
|-----------------------|----------|-----|-------|
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
| 1 | 1人 | 93 | 14.7 |
| 2 | 2人 | 17 | 2.7 |
| 3 | 3人 | 2 | 0.3 |
| 4 | 4人 | 1 | 0.2 |
| 5 | 5人以上 | 7 | 1.1 |
| 6 | 人数は未確定 | 493 | 78.0 |
| | 無回答 | 19 | 3.0 |
| | N (%ベース) | 632 | 100 |



| 生命科学部分子微生物学科の卒業生の採用人数 | | | |
|-----------------------|----------|-----|-------|
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
| 1 | 1人 | 102 | 16.0 |
| 2 | 2人 | 17 | 2.7 |
| 3 | 3人 | 4 | 0.6 |
| 4 | 4人 | 0 | 0.0 |
| 5 | 5人以上 | 8 | 1.3 |
| 6 | 人数は未確定 | 492 | 77.1 |
| | 無回答 | 15 | 2.4 |
| | N (%ベース) | 638 | 100 |



| 地域環境科学部地域創成科学科の卒業生の採用人数 | | |
|-------------------------|----------|----------|
| No. | カテゴリ | 件数 (全体)% |
| 1 | 1人 | 131 18.3 |
| 2 | 2人 | 33 4.6 |
| 3 | 3人 | 13 1.8 |
| 4 | 4人 | 1 0.1 |
| 5 | 5人以上 | 12 1.7 |
| 6 | 人数は未確定 | 506 70.8 |
| | 無回答 | 19 2.7 |
| | N (%ベース) | 715 100 |



| 国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生の採用人数 | | |
|--------------------------|----------|----------|
| No. | カテゴリ | 件数 (全体)% |
| 1 | 1人 | 119 17.5 |
| 2 | 2人 | 23 3.4 |
| 3 | 3人 | 10 1.5 |
| 4 | 4人 | 1 0.1 |
| 5 | 5人以上 | 10 1.5 |
| 6 | 人数は未確定 | 499 73.3 |
| | 無回答 | 19 2.8 |
| | N (%ベース) | 681 100 |

